

總代ヲ集メ調停委員會ヲ開催セリ。

地主側ハ既ニ大部分ノ小作人ハ契約小作料ニ對シ六分ノ減免ニ依リ満足ノ意ヲ表シ圓滿ニ解決セルニ、本係争關係ノ小作人ニ限り承認セザルハ不都合ナリト主張シ、小作人側ハ昭和七年九月二十五日ノ降雹ハ早稻ニ於テ反當七斗八升九合八勺、中稻ニ於テ反當四斗三升二合ノ減收ヲ來セルニ、十一月十四日ノ暴風雨ニ因リ更ニ減收ヲ來シ、産米検査俵數ヲ見ルモ昭和六年ハ一千八百二十七俵、昭和七年ハ一千五百四十七俵ニシテ差引二百八十俵ノ減少ヲ來セル實情ニアリ。故ニ契約小作料ノ二割五分減免要求ハ當然ナリト主張シ、又地主側ノ主張セル解決濟ナルモノハ、地主側ノ耕地返還請求等ノ威壓ニ恐レ、今後本事件ノ解決ニ準ズベキ内約ヲ以テ解決セルニ過ギズト主張シテ共ニ譲ラズ、更ニ小作人側ハ深更ニ及ビ續々應援者ヲ派出シテ總代ヲ鞭撻スルトコロアリ。委員會ハ夜ヲ徹シテ互譲ヲ懇願セルモ共ニ自説ヲ固持シテ應ゼズ、遂ニ委員會ハ今後ノ小作條件ノ改善ト小作料一時減免額ノ解決方ヲ無條件一任スベク双方ニ懇願セルガ、地主側ハ之ニ應諾セルモ小作人側ハ應ゼザリシヲ以テ、更ニ十座、日吉野、細工、堀上ノ各部落ニ分チ協議ヲ進メシガ、漸ク黎明ニ至リ小作人側モ調停委員會ニ解決方ヲ無條件一任セリ。故ニ委員會ハ調停案ヲ審議決定シ小作料減免額ハ一割二分トシ、將來ノ小作契約ハ十座部落ノ小作權賣買ノ慣行ヲ尊重シ他ノ部落トハ別ニ調停案ヲ定メ、二十四日正午地主及小作總代ヲ集メ調停條項ヲ提示セシガ、地主側ノ一人ハ突然起立シテ、村將來ノ平和ノ爲調停案ノ小作料一時減免額一割二分ヲ一割五分ニ増額修正方ヲ懇望セシヲ以テ、調停委員會ハ其ノ小作人側ニ同情アル一地主ノ申立ニ感激シ、即時他ノ地主ノ同意ヲ求メシガ一同之ニ賛成セシヲ以テ、調停條項中ノ小作料一時減免額ヲ改訂シ、小作契約ノ改訂條項ト共ニ双方ニ承認セシメ、漸ク次ノ調停條項ニ依リ調停成立解決セリ。

而テ調停條項ハ昭和八年十一月三十日大津地方裁判所ノ認可決定ヲ得タリ。

(三) 結 末

調 停 條 項 (十座部落關係)

- 一 昭和七年度小作料ハ各小作地共別紙小作地明細表記載契約小作料ヨリ其ノ一割五分ヲ減額シタルモノトス賃借人ハ賃貸人ニ對シ昭和七年度小作料未納部分ヲ昭和八年六月三十日限り納入スルモノトス
- 一 賃貸人ハ賃借人ニ對シ其ノ所有耕地ヲ賃貸小作セシム
- 一 小作地ノ位置、地番、地目、反別、契約小作料、賃貸人及賃借人氏名ハ別紙小作地明細表通リトス
- 一 右契約小作料額ハ昭和八年ヨリ昭和十二年ニ至ル五箇年間之ヲ有効トシ昭和十三年ヲ初メトシ以後五箇年毎ニ當事者協議ノ上之ヲ定ムルモノトス、若シ協議調ハサル場合ニ於テハ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ヲ爲シ裁判所又ハ調停委員會ニ一任シテ適當ナル決定ヲ受クルモノトス

一 小作地ノ反別ハ土地臺帳ノ記載ニ依ル但シ畦畔ヲ含マス
 一 小作料ノ納入期日ハ毎年十二月二十五日限リトシ滋賀縣產米検査合格米(生産検査等級四等以上)ヲ以テ貸貸人宅へ納入ス但シ其ノ年ノ作柄ニ依リ合格米不足ノ場合ニ限リ其ノ不足額ハ等外米ヲ以テ納入スルコトヲ得

貸借人ニ於テ小作料ノ納入ヲ忘リ納入期日後二箇月ヲ經過スルモ尙納入ヲ爲ササルトキハ貸借人ハ未納小作料ヲ小作料納入期日ニ於ケル地方時價ニ換算シテ請求スルコトヲ得
 貸借人ハ貸借人ノ小作米納入俵數ニ應シ俵裝料ヲ支給ス

貸借人ハ貸借人カ生産検査等級三等以上ノ玄米ヲ以テ小作料ヲ納入シタルトキハ補給金ヲ支給シ等外米ヲ以テ小作料ヲ納入シタルトキハ追徴金ヲ徴收ス

補給金、追徴金及俵裝料ノ額ハ貸借人總代及貸借人總代協議ノ上之ヲ決定ス
 若シ協議調ハサルトキハ桐原村長及滋賀縣小作官ノ裁定ニ一任ス

一 小作料ノ一部タリトモ貸借人ノ承諾ヲ得シテ納入期日ヨリ滞納三箇月ニ及フトキハ貸借人ハ貸借人ニ對シ小作地ノ返還請求ヲナスコトヲ得

但シ其ノ請求ヲ受ケタル貸借人ニ於テ正當ナル事由アルタメ無條件ニテ其ノ土地ヲ返還スルコト能ハサル旨主張シ貸借人ト意見合致セサルトキハ双方合意ノ上小作調停法ニ依ル調停申立ヲ爲シ裁判

所又ハ調停委員會ニ一任シテ之カ解決ヲ圖ルモノトス

一 貸借人カ貸借人ノ承諾ナクシテ小作地ノ轉賃、賃借權ノ賣買讓渡質入ヲナシ又ハ土地ノ現狀ニ變更ヲ加ヘタルトキ亦前項ノ例ニヨル

二 貸借人カ小作地ヲ他ニ賣却セントスルトキハ先ツ關係賃借人ニ其ノ旨ヲ通告スヘク賃借人ハ通告ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ買受希望ノ有無ヲ賃借人ニ申出テ買受希望ノ場合ニハ互ニ誠意ヲ旨トシテ價格其ノ他ノ事項ヲ協議スヘク若シ協議調ハサルトキハ賃借人ニ於テ他ニ自由ニ處分シ得ルモノトス

一 貸借人カ正當ノ理由ニヨリ小作地ノ返還ヲ求メントスルトキハ賃借人ニ對シ一箇年前ニ豫告ヲナス賃借人ニ於テ理由ノ當否竝ニ返還條件ニ付異議アリテ當事者間ニ協議調ハサルトキハ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ヲナシ裁判所又ハ調停委員會ニ一任シテ之カ解決ヲナスモノトス

一 賃借人ニ於テ本件賃貸借契約ヲ解除セムトスルトキハ表作又ハ裏作々付三箇月前ニ賃借人ニ其ノ旨申出ツルモノトス

一 凶作ノ爲米實收額平年作以下ノ場合ニハ小作料ヲ減免シ凶作ノ爲租稅ヲ免除セラレタル耕地ニ對シテハ小作料ヲ全免ス

平年作トハ各小作地共契約小作料ノ二十三割トス小作料ノ減免額ハ米實收額ト平年作トノ差ノ半額

トス

- 一 一般的凶作ノ爲小作料ノ減免ヲ求メントスルトキハ賃借人ハ關係賃借人中ヨリ總代ヲ選ヒ收穫着手前其ノ旨ヲ各賃借人ニ申出テ賃借人總代及賃借人總代桐原村農會役職員若クハ双方協議ノ上適當ト認メタルモノノ立會ノ下ニ檢見又ハ坪刈ノ方法ニ依リ實收額ヲ査定ス
- 一 不可抗力ニヨル局部的凶作ノ場合ニハ賃借人ハ收穫着手前其ノ旨賃借人ニ申出テ双方立會ノ下ニ檢見又ハ坪刈ノ方法ニ依リ實收額ヲ定ム
- 一 實收額査定ノ方法ニ付協議調ハサル場合ニハ滋賀縣小作官ノ指定シタル方法ニヨル
- 一 實收額査定ノ爲檢見又ハ坪刈ヲナスヘキ稻ヲ其ノ手續前刈取タル場合又ハ刈取後ニ小作料減額要求アリタル場合或ハ故意ニ肥培管理ヲ懈怠シ爲ニ減收セル場合竝ニ稻以外ノ作物ヲ栽培シ爲ニ減收セル場合ニハ小作料ノ減免ハ之ヲ行ハサルモノトス
- 一 檢見又ハ坪刈ニ要シタル費用ハ賃借人賃借人各之ヲ平等負擔スルモノトス
- 一 賃借人南某ハ賃借人木村某ニ對シ昭和三年度ヨリ昭和七年度ニ至ル小作料滯納分換算金六十圓ノ債務アルコトヲ確認シ昭和八年六月末日ヲ初トシ爾後毎月末日限リ金五圓宛崩濟スルモノトス
- 一 賃借人南某ニ於テ若シ一回ニテモ右支拂ヲ怠リタルトキハ賃借人南某ハ賃借人ノ請求ニ應シ即時異議ナク小作料耕地ヲ返還スルモノトス

調停條項 (日吉野、細工、堀上部落關係)

一 昭和七年度小作料ハ各小作地共別紙小作地明細表記載契約小作料ヨリ其ノ一割五分ヲ減額シタルモノトス

賃借人ハ賃借人ニ對シ昭和七年度小作料未納部分ヲ昭和八年六月三十日限リ納入スルモノトス

一 賃借人ハ賃借人ニ對シ其ノ所有耕地ヲ賃貸小作セシム

小作地ノ位置、地番、地目、反別、契約小作料、賃借人及賃借人氏名ハ別紙小作地明細表通リトス

一 右契約小作料額ハ昭和八年ヨリ昭和十二年ニ至ル五箇年間之ヲ有效トシ昭和十三年ヲ初トシ以後

五箇年毎ニ當事者協議ノ上之ヲ定ムルモノトス若シ協議調ハサル場合ニ於テハ小作調停法ニヨル調

停ノ申立ヲナシ裁判所又ハ調停委員會ニ一任シテ適當ナル決定ヲ受クルモノトス

一 小作地ノ反別ハ土地臺帳ノ記載ニ依ル但シ畦畔ヲ含マス

一 小作料ノ納入期日ハ毎年十二月二十五日限リトシ滋賀縣產米檢查合格米(生産檢查等級四等以上)

ヲ以テ賃借人宅へ納入ス但シ其ノ年ノ作柄ニ依リ合格米不足ノ場合ニ限リ其ノ不足額ハ等外米ヲ以

テ納入スルコトヲ得

賃借人ニ於テ小作料ノ納入ヲ怠リ納入期日後二箇月ヲ經過スルモ尙納入ヲナササルトキハ賃借人ハ

未納小作料ヲ小作料納入期日ニ於ケル地方時價ニ換算シテ請求スルコトヲ得

貸貸人ハ貸借人ノ小作米納入俵數ニ應シ俵裝料ヲ支給ス

貸貸人ハ貸借人カ生産検査等級三等以上ノ玄米ヲ以テ小作料ヲ納入シタルトキハ補給金ヲ支給シ等
外米ヲ以テ小作料ヲ納入シタルトキハ追徴金ヲ徴收ス補給金、追徴金及俵裝料ノ額ハ貸貸人總代及
貸借人總代協議ノ上之ヲ決定ス

若シ協議調ハサルトキハ桐原村長及滋賀縣小作官ノ裁定ニ一任ス

一 小作料ノ一部タリトモ貸貸人ノ承諾ヲ得スシテ納入期日ヨリ滯納三箇月ニ及フトキハ貸借人ハ貸
貸人ノ請求ニ應シ小作地ヲ返還スルモノトス

一 貸借人カ貸貸人ノ承諾ナクシテ小作地ノ轉貸、賃借權ノ賣買讓渡質入ヲナシ又ハ土地ノ現状ニ變
更ヲ加ヘタルトキ亦前項ノ例ニヨル

一 貸貸人カ小作地ヲ他ニ賣却セントスルトキハ先ツ關係賃借人ニ其ノ旨ヲ通告スヘク賃借人ハ通告
ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ買受希望ノ有無ヲ賃貸人ニ申出テ買受希望ノ場合ニハ互ニ誠意ヲ旨ト
シテ價格其ノ他ノ事項ヲ協議スヘク若シ協議調ハサルトキハ賃貸人ニ於テ他ニ自由ニ處分シ得ルモ
ノトス

一 賃貸人カ正當ノ理由ニ依リ小作地ノ返還ヲ求メントスルトキハ賃借人ニ對シ一箇年前ニ豫告ヲナ
ス賃借人ニ於テ理由ノ當否並ニ返還條件ニ付異議アリテ當事者間ニ協議調ハサルトキハ小作調停法

ニ依ル調停ノ申立ヲナシ裁判所又ハ調停委員會ニ一任シテ之カ解決ヲナスモノトス

一 賃借人ニ於テ本件賃貸借契約ヲ解除セムトスルトキハ表作又ハ裏作々付三箇月前ニ賃貸人ニ其ノ
旨申出ツルモノトス

一 凶作ノ爲米實收額平年作以下ノ場合ニハ小作料ヲ減免シ凶作ノ爲租稅ヲ免除セラレタル耕地ニ對
シテハ小作料ヲ全免ス

平年作トハ各小作地共契約小作料ノ二十三割トス

小作料ノ減免額ハ米實收額ト平年作トノ差ノ半額トス

一 一般的凶作ノ爲小作料ノ減免ヲ求メントスルトキハ賃借人ハ關係賃借人中ヨリ總代ヲ選ヒ收穫着
手前其ノ旨ヲ各賃貸人ニ申出テ賃貸人總代及賃借人總代ハ桐原村農會役職員若クハ双方協議ノ上適
當ト認メタルモノノ立會ノ下ニ檢見又ハ坪刈ノ方法ニ依リ實收額ヲ査定ス

不可抗力ニ因ル局部的凶作ノ場合ニハ賃借人ハ收穫着手前其ノ旨賃貸人ニ申出テ双方立會ノ下ニ檢
見又ハ坪刈ノ方法ニヨリ實收額ヲ定ム實收額査定ノ方法ニ付協議調ハサル場合ニハ滋賀縣小作官ノ
指定シタル方法ニ依ル

實收額査定ノ爲檢見又ハ坪刈ヲナスヘキ稻ヲ其ノ手續前刈取リタル場合又ハ刈取後ニ小作料減額要
求アリタル場合或ハ故意ニ肥培管理ヲ懈怠シ爲ニ減收セル場合並ニ稻以外ノ作物ヲ栽培シ爲ニ減收

セル場合ニハ小作料ノ減免ハ之ヲ行ハサルモノトス

檢見又ハ坪刈ニ要シタル費用ハ貸借人各之ヲ平等負擔スルモノトス

一 賃借人堀某ハ貸借人木村某ニ對シ昭和七年度及夫レ以前ノ小作米滯納分換算金三十六圓ノ債務アルコトヲ確認シ昭和八年六月末日ヲ初トシ爾後毎月末日限り金三圓宛崩濟スルモノトス
賃借人堀某ニ於テ右支拂ヲ一回ニテモ怠リタルトキハ賃借人堀某ハ貸借人ノ請求ニ應シ即時異議ナク小作耕地ヲ返還スルモノトス

三五 京都府南桑田郡保津村、龜岡町及河原林村 (小作料改正)

爭議發生 昭和六年十二月十五日

調停申立 昭和七年二月十二日

解決 昭和八年五月八日

關係人員 爭議 地主 六十八人 小作人 三百五人

調停 地主 百二十九人 小作人 二百九十六人(小作人申立)

關係土地 爭議 田 百三十一町二反歩
調停 田 百三十九町九反三畝二十一歩

(一) 爭議ノ概況

保津村ハ大正十三年ニ一度小作料ノ減額改正ヲ行ヒタルモ、當時ハ地主小作人共ニ尙古キ慣習ニ捕ハレ、徹底的ニ改正ヲ行フコトヲ得ザリシ結果、高キハ反當小作料二石ニ及ブモノアリテ低キモノト雖一石二斗ヲ下ラズ平均小作料一石五斗トナリ附近村落ニ比較シ高率ナリシ爲、稻作減收ニ際シテハ常ニ小作料ノ減額要求アリテ其ノ都度双方交渉ニ少カラザル時日ヲ費シ來レリ。

小作料ガ右ノ如ク附近村落ニ比シ高率ナル理由ハ

一 耕地面積比較の少ク從テ農家一戸當リノ耕作面積僅ニ五反歩内外ニテ府下平均七反歩ニ比シ甚シキ懸隔アルコト

二 本件耕作地ノ多クハ保津川流域ニ介在セル關係上水害ヲ蒙ルコト多ク之ガ爲小作料ノ減額常ニ行ハレ小作人等ハ契約小作料ヲ餘リ意ニ介セザルコト

三 水害無キ年ハ施肥ヲ多ク要セズ收穫多ク且裏作トシテ小麥ノ優良品多收ナリシコト
以上ノ事情ニ因ルナランモ、農村不況ハ益々深刻ノ度ヲ増シ地主モ小作人ノ減額要求ニ對シ自然應諾スルコト困難ナルニ至リタルノミナラズ、小作人モ亦經濟上ノ困難ヨリ免ルル唯一ノ道ハ小作料ノ減額ニ待ツヨリ外ニ方策ナシトノ考ヘノ下ニ、小作料ノ減額要求増大シ其ノ態度強硬トナリ小作料ノ減免要求ハ一種ノ年中行事ノ如キ觀ヲ呈スルニ至レリ。故ニ小作人ハ其ノ對策トシテ漸ク小作料ノ減額改正ヲ提出スルニ至リ、昭和六年十月小作地一筆毎ニ小作料ヲ調査シ更ニ隣村ノ小作料ヲモ參考トシ

テ、小作料最高一割九分、最低七分、平均一割三分五厘ノ減額改正案ヲ作製シテ地主ニ之ヲ示シ要求セルニ、地主ハ言ヲ左右ニシテ應ゼザリシ結果、小作人ハ新ニ小作料最高二割五分最低一割ノ減額改正要求ノ小作調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

斯クテ昭和七年二月九日京都府地方裁判所ニ於テ第一回調停委員會ヲ開キ爾來委員會ヲ重ヌルコト十七回ニ及ビ、其ノ間委員會ニ於テハ關係土地ニ付實地調査ヲスルト共ニ、地主側ニ對シテハ此ノ際相當ノ減額ノ已ムナキヲ諭示シ、又小作人ニ對シテハ讓歩點ヲ見出スニ努力スベキコトヲ諭シ、當事者双方ヨリ解決條件一切ヲ無條件ヲ以テ調停委員會ニ一任スル様德意シタル結果、遂ニ双方共無條件一任セルヲ以テ昭和八年五月八日左記調停條項ヲ以テ調停成立ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項 (保津村、河原林村)

一 本件地主ハ其ノ小作人ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ昭和八年度以降同目錄記載ノ改訂小作料ニテ期限ノ定メナク小作セシムルコト

前項改訂小作料ハ昭和六年度ヨリ之ヲ適用シ昭和十六年迄据置クモノトス

昭和十七年度以降ノ小作料ハ昭和十七年二月中ニ當事者双方ニ於テ協定スルモノトス

若シ協定調ハサルトキハ双方合意ヲ以テ京都府地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲ爲シ決定ヲ受クルコト

二 別紙目錄記載ノ土地反別等ハ土地臺帳ニ依リタルモノナレハ若シ同目錄ニ誤記アルトキハ右臺帳記載ノ通り訂正スルコト

三 昭和八年度以降ノ小作料ハ毎年十二月二十五日限り京都府令ニ依ル生産検査等級三等以上ノ合格米ヲ以テ地主宅ニ於テ支拂フコト

但シ天災其ノ他ノ不可抗力ニ原因シテ三等以上ノ合格米不足スル年ハ小作人ハ地主ノ諒解ヲ得テ其ノ不足分ニ限り四等米以下ヲ以テ支拂フコトヲ得

四 昭和六年度及昭和七年度未納小作料ハ本日ヨリ向フ五週間以内ニ完納スルモノトス

五 不可抗力ニ因ル不作ノ場合ハ小作人ハ立毛刈取前少クトモ十日ヲ餘シテ地主ニ檢見ノ申出ヲ爲シ小作料ノ減免ヲ求ムルコトヲ得

但シ次項ノ檢見又ハ坪刈前ニ立毛ヲ刈取リタルトキハ其ノ小作地ノ小作料ノ減免ヲ求ムルコトヲ得ス

六 前項ニ依リ小作人ヨリ減免ノ要求アリタルトキハ

(一) 地主ハ當該小作人立會ノ下ニ檢見ヲ爲シテ實收穫量ノ協定ヲ爲スコト

- (一) 若シ双方ノ意見一致セサルトキハ更ニ坪刈ノ方法ニ依リ實收穫量ヲ決定スルコト
- (二) 檢見又ハ坪刈ハ地主小作人ノ各總代竝ニ郡又ハ町村技術員立會ノ上之ヲ爲スコトヲ得
- 此ノ場合ハ坪刈方法及實收穫量算出方法ニ付テハ立會技術員ニ一任スルモノトス
- (四) 右ニ依リ決定シタル反當實收穫量カ約定反當小作料ニ一石ヲ加ヘタル數量(以下減免基礎額ト稱ス)ニ達シタルトキハ其ノ小作地ノ小作料ハ減免セサルモノトシ若シ右減免基礎額ニ達セサルトキハ其ノ不足額ノ十分ノ七ヲ約定小作料ヨリ減免スルコト
- 但シ右實收穫量カ甚シク少ク災害地免租トナリタル場合若シクハ減免基礎額ノ三割以下ト爲リタル場合ハ其ノ小作地ノ小作料ハ全免スルモノトス
- 七 檢見又ハ坪刈ニ要スヘキ費用ハ地主及小作人ノ平分負擔トス
- 八 蔬菜、果樹及苗木ヲ栽培セル田地又ハ苗代田ニ付テハ不作ヲ理由トシテ小作料ノ減額ヲ要求シ得サルコト
- 但シ一般的凶作ニ因リ小作料ヲ減免セラルル場合ニ限り苗代田ニ付テハ第五項、第六項及第七項ニ依リ減免ヲ受ケ得ルモノトス
- 九 本件小作人ハ其ノ地主ノ書面上ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ恣ニ左ノ行爲ヲ爲シ得サルコト
 - ロ 他人ニ小作地ヲ轉貸シ若クハ賃借權ヲ讓渡スルコト
 - ハ 小作地ノ耕作ヲ他人ニ委託スルコト
 - ニ 小作地ヲ新タニ穀物若クハ蔬菜ノ栽培以外ニ使用スルコト
- 十 小作人カ第三項及第四項所定ノ期日迄ニ小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ地主ハ十日ノ期間ヲ定メテ之カ支拂ヲ催告シ尙且其ノ小作料ヲ支拂ハサルトキ又ハ第九項ニ違反シタルトキハ地主ニ於テ即時小作契約ヲ解除シ小作料支拂竝ニ小作地返還ノ執行ヲ爲スモ小作人ニ於テ異議ヲ述ヘ得サルコト

- ト 十一 本件契約ニ於テ相手方ノ協力ヲ要スル場合ニ相手方カ故ナク之ニ應セサルトキハ他ノ一方ニテ本件契約ニ基キ執行シ得ヘク其ノ結果ニ付テハ相手方ハ異議ヲ述ヘ得サルコト
 - 十二 本調停條項以外ノ當事者間ニ存スル從來ノ小作契約又ハ慣習ハ仍存續スルモノトス
 - 十三 昭和七年ノ水害地ノ減免ニ付テハ地主小作人間ニ於テ適宜協議決定スルコト
 - 十四 調停費用ハ各自辨トス
- 調 停 條 項 (龜岡町)

一 地主ハ小作人ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ昭和八年度以降同目錄記載ノ土地ヲ同目錄記載ノ改訂小作料ニテ期限ノ定メナク小作セシムルコト

前項改訂小作料ハ昭和七年度ヨリ之ヲ適用シ昭和十六年度迄据置クモノトス

昭和十七年度以降ノ小作料ハ昭和十七年二月中ニ當事者双方ニ於テ協定スルコト

若シ協定調ハサルトキハ双方合意ヲ以テ京都地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲ爲シ決定ヲ受クルコト

二 別紙目録記載ノ土地反別等ハ土地臺帳ニ依リタルモノナレハ若シ同目録ニ誤記アルトキハ右臺帳

記載ノ通り訂正スルコト

三 昭和八年度以降ノ小作料ハ毎年十二月二十五日限り京都府令ニ依ル生産検査等級三等以上ノ合格

米ヲ以テ地主宅ニ於テ支拂フコト

金納ノ場合ハ其ノ村相場ニ依リ換算支拂フモノトス

又天災其ノ他不可抗力ニ原因シテ三等以上ノ合格米不足スル年ハ小作人ハ地主ノ諒解ヲ得テ其ノ不

足分ニ限り四等米以下ヲ以テ支拂フコトヲ得

四 昭和六年度及昭和七年度未納小作料ハ本日ヨリ向フ五週間以内ニ完納スルコト

五 不可抗力ニ因ル不作ノ場合ハ小作人ハ立毛刈取前少クトモ十日ヲ餘シテ地主ニ檢見ノ申出ヲ爲シ

小作料ノ減免ヲ求ムルコトヲ得

但シ次項ノ檢見又ハ坪刈前ニ立毛ヲ刈取リタルトキハ其ノ小作地ノ小作料ノ減免ヲ求ムルコトヲ得

ス

六 前項ニ依リ小作人ヨリ減免ノ要求アリタルトキハ

(一) 地主ハ當該小作人立會ノ下ニ檢見ヲ爲シテ實收穫量ノ協定ヲ爲スコト

(二) 若シ双方ノ意見一致セサルトキハ更ニ坪刈ノ方法ニ依リ實收穫量ヲ決定スルコト

(三) 檢見又ハ坪刈ハ地主小作人ノ各總代竝ニ郡又ハ町村技術員立會ノ上之ヲ爲スコトヲ得

此ノ場合ハ坪刈方法及實收穫量算出方法ニ付テハ立會技術員ニ一任スルモノトス

(四) 右ニ依リ決定シタル反當實收穫量カ約定反當小作料ニ一石一斗ヲ加ヘタル數量(以下減免基

礎額ト稱ス)ニ達シタルトキハ其ノ小作地ノ小作料ハ減免セサルモノトシ若シ右減免基礎額ニ達

セサルトキハ其ノ不足額ノ十分ノ七ヲ約定小作料ヨリ減免スルコト

但シ右實收穫量カ甚シク少ク災害地免租トナリタル場合若シクハ減免基礎額ノ三割以下トナリ

タル場合ハ其ノ小作地ノ小作料ハ全免スルモノトス

七 檢見又ハ坪刈ニ要スヘキ費用ハ地主及小作人ノ平分負擔トス

八 蔬菜、果樹及苗木ヲ栽培セル田地又ハ苗代田ニ付テハ不作ヲ理由トシテ小作料ノ減額ヲ要求シ得

サルコト

但シ一般的凶作ニ因リ小作料ヲ減免セラルル場合ニ限り苗代田ニ付テハ第五項、第六項及第七項ニ

依リ減免ヲ受ケ得ルモノトス

九 本件小作人ハ其ノ地主ノ書面上ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ左ノ行爲ヲ爲シ得サルコト

イ 小作地ノ原狀ヲ變更スルコト

ロ 他人ニ小作地ヲ轉貸シ若クハ賃借權ヲ讓渡スルコト

ハ 小作地ノ耕作ヲ他人ニ委託スルコト

ニ 小作地ヲ新タニ穀物若クハ蔬菜ノ栽培以外ニ使用スルコト

十 小作人カ第三項及第四項所定ノ期日迄ニ小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ地主ハ十日ノ期間ヲ定メ

テ之カ支拂ヲ催告シ尙且其ノ小作料ヲ支拂ハサルトキ又ハ第九項ニ違反シタルトキハ地主ニ於テ即

時小作契約ヲ解除シ小作料支拂竝ニ該小作地返還ノ執行ヲ爲スモ小作人ニ於テ異議ヲ述ヘ得サルコ

ト

十一 本件契約ニ於テ相手方ノ協力ヲ要スル場合ニ相手方カ故ナク之ニ應セサルトキハ他ノ一方ノミ

ニテ本契約ニ基キ執行シ得ヘク其ノ結果ニ付テハ相手方ハ異議ヲ述ヘ得サルコト

十二 本調停條項以外ノ當事者間ニ存スル從來ノ小作契約又ハ慣習ハ仍存續スルモノトス

十三 將來龜岡町地籍ノ内本件土地ノ隣接地帯ニ於テ小作料ノ改訂アリタル結果本件土地ノ小作料ニ

シテ不均衡トナリタルトキハ小作人ハ本件所定ノ小作料ノ据置期間内ト雖更ニ小作料ノ減免改訂ヲ

要求スルコトヲ得

十四 地主ハ舊小作料ト改訂小作料トノ差額ニ相當スル米又ハ其ノ換算金ヲ此ノ際圓滿解決ノ爲小作

人ニ贈與スルコト

十五 調停費用ハ各自辨トス

三六 大阪府北河内郡津田村大字春日 (調停條項ノ改更)

爭議發生 昭和八年一月

調停申立 昭和八年六月十二日

解 決 昭和八年七月十一日

爭議 地主 二十四人 小作人 五十四人

調停 地主 二十人 小作人 四十八人(地主申立)

爭議 田 四十六町三反歩

調停 田 三十五町八反七畝八歩

(一) 爭議ノ概況

津田村ハ本府ニ於ケル日本農民組合ノ發祥地ニシテ大正十一年農民組合設立當初ニ於テハ、村長三宅某ノ如キハ寧ロ小作側ニ應援シテ地主ノ反省ヲ促シ小作料改訂等ニ盡力セルモ、其ノ後組合ノ運動方法竝ニ主義方針ニ其ノ理想ト著シク反スルモノアルヲ認メ、遂ニ同氏ハ斷然之ト絶縁セリ。然レド

モ組合ノ勢力旺盛トナルニ及ビ、地主モ亦自衛上附近地主等ト謀リ地主組合ヲ設立シ、隣村交野村ニ其ノ事務所ヲ設ケタルモノ即チ後ノ大日本地主協會ナリ。斯ノ如ク對立狀勢ニアリシタメ紛争絶ユルコト無ク調停モ亦屢々繰返サレタリ即チ

其ノ一 大正十三年度ノ小作料減額問題ニ付、翌大正十四年春小作人組合及地主ノ依頼セル赤化防止赤誠會(右翼團體)トノ間ニ鬭争アリテ、結局五月ニ至リ小作人組合幹部及赤誠會長宮武某トノ妥協トナリ和解シ、十四年度以降ノ小作料ハ土地々價及等級ニ應ジテ納付スルコトトナリシニ、小作人ハ區長ニ小作料額ノ調停ヲ依頼セル儘納付セズ、仍テ地主ハ十五年二月掟米納入ノ催告及賃貸借契約解除ノ通告ヲ爲シ、次イデ三月二十五日地主八名ハ小作米請求竝ニ土地返還請求訴訟ヲ提起スルヤ、小作人ハ調停申立ヲ爲シ地主ハ更ニ殘部ノ土地ニ付立入禁止ヲ行フヤ之レ亦小作人ヨリ調停申立ヲ爲シ、前後九回ノ委員會ノ後七月九日左記要綱ニテ解決セリ。

一 大正十四年度ノ小作料ハ二割三分減額スルコト
一 前項免引以外ノ小作料ヲ一石ニ付三十七圓六十錢ノ割合ニ換算シ金錢ヲ以テ何レモ大正十五年七月三十日限り支拂フコト

一 小作契約解除ノ通知ヲ爲シタル部分ニ付テハ從前同様引續キ從前ノ小作人ニ之ヲ小作セシムルコト

一 本件土地ニ付向後三箇年間ヲ限り小作料額ヲ各一割宛宛下スルコト、但シ宛下期間内ニ於テ濫リニ減額要求ヲ爲シタルトキハ其ノ宛下ヲ取消スコトヲ得ルモノトス
其ノ二 大正十五年ヨリ昭和三年ニ至ル三箇年ハ前記ノ調停通り一割引ニテ無事經過セルモ、昭和四年度ハ舊宛米ニ復活スルヲ以テ、當事者双方ハ昭和三年度ノ小作米納入後直ニ今後ノ宛米ニ付適當ナル方策ヲ講ズルコトトナリ屢々協議セシモ議論區々トシテ一致セズ、遂ニ昭和五年ニ至リ小作調停ノ申立ヲ爲シ其ノ解決ヲ見タリ。即チ

申立月日	事件番號	申立人	相手方	反別	解決年月日
一月二十日	三號	地主 八名	小作 三五名	田 一八・一八二六	五年八月二十八日
一月三十日	四號	小作 四七名	地主 一八名	田 三四・九七二七	同
七月三十一日	二十五號	地主 三名	小作 六名	田 一・三〇二八	同

調停委員會ニ於テハ當事者双方ノ主張ヲ聽キ實情ヲ斟酌シ、(一)土地反別ヲ新畝ニ改訂シ(本地方一般ニ舊畝ヲ用ヒ六尺三寸平方尺ヲ一坪トスルヲ原則トシ土地ニヨリテ多少ノ相違アリタリ)、(二)各土地ニ付等級ヲ定メテ一等ヨリ五等トシ(此ハ先ヅ當事者双方ヨリ委員ヲ出シ協定セシメ協定不能ノ分ハ委員會ニ一任シテ決ス)各小作料額ヲ決定シ、昭和四年度ノ小作料ハ二割四分ノ減額ヲ爲ス事ニ

妥協セシメ、委員會十一回ヲ經テ遂ニ左記條項通り成立解決セリ。

調停條項

一 本件當事者双方ハ別表記載ノ各小作地ニ關スル從來ノ貸貸借契約ヲ改訂シ各小作地ニ付別表等級欄記載ノ如ク其ノ等級ヲ協定シ同表記載通りノ當事者關係ニ於テ左記内容ノ下ニ新タナル貸貸借契約ヲ締結スルモノトス

貸貸借約款

- 一 賃借料ハ各賃借地ノ等級別ニ從ヒ
 - 一等地ハ反當リ年額 一石二斗三升
 - 二等地ハ反當リ年額 一石一斗八升
 - 三等地ハ反當リ年額 一石一斗二升
 - 四等地ハ反當リ年額 一石二升
 - 五等地ハ反當リ年額 九斗二升
- 二 賃借料ハ毎年十二月二十五日限り賃貸人宅若クハ賃貸人ノ指定セル場所ニ持參支拂フコト、但シ賃貸人宅若クハ其ノ指定シタル場所カ津田村大字春日以外ノ地ナルトキハ其ノ支拂場所ニ至ル迄ノ運搬賃ハ賃貸人ニ於テ之ヲ負擔ス
- 三 賃借料ハ大阪府令ニ依ル生産検査合格玄米ヲ以テ支拂フコト、但シ天候其ノ他不可抗力ニ原因シテ賃借地ヨリ合格米ヲ收穫シ能ハサル年ハ津田村米穀検査員ノ證明ヲ得テ當該賃借地ノ收穫米ヲ支拂フ場合ニ限り不合格米ヲ以テスルヲ得
- 四 賃借人カ第二項所定ノ期限ヲ過キテ賃借料ノ支拂ヲ爲スコトト爲リタル場合ハ賃貸人ハ其ノ支拂ノ日ノ津田村ニ於ケル時價ニ依リ換算シタル金員ヲ以テ賃借料ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得
- 五 旱害、蟲害、其ノ他ノ不可抗力ニ因ル不作ノ場合ハ賃借人ハ立毛刈取前少クトモ十日ヲ餘シテ賃貸人ニ檢見ノ申立ヲ爲シテ賃借料ノ減免ヲ求ムルコトヲ得
- 六 前項ニ依リ賃借人ヨリ減免ノ要求アリタルトキハ
 - (甲) 賃貸人ハ必ス當該賃借人立會ノ下ニ檢見ヲ爲シテ實收穫量ノ評定ヲ爲シ
 - (乙) 若シ双方ノ意見一致セサルトキハ更ニ坪刈ノ方法ニ依リ實收穫量ヲ決定スルコト
 - (丙) 右ニ依リ決定シタル實收穫量カ約定賃料ノ倍額ニ一斗ヲ加ヘタル數額ニ達シタルトキハ賃借料ハ減免セサルモノトシ若シ右數額ニ達セサルトキハ其ノ不足額ノ二分ノ一丈ヲ約定賃料ヨリ減免スルコト但シ收穫量カ甚シク少ナク免租地ト爲リタル場合ハ賃借料ハ全免スルモノトス

七 賃借人カ第五項所定ノ手續ヲ經スシテ恣ニ立毛ノ刈取ヲ爲シタルトキ又ハ第六項ニ定メタル檢見若ハ坪刈ヲ行フ際ニ之ニ妨害ヲ加ヘタルトキハ何等ノ理由アルヲ問ハズ一切賃借料ノ減免ヲ受ケ得サルヘク又賃借人カ賃借人ヨリ檢見ノ申出アルニ拘ラス之ニ立會ハサルカ若ハ第六項所定ノ收穫量決定方法ニ對シ妨害ヲ加ヘタルトキハ賃借人ハ大阪地方裁判所調停主任官ヲシテ收穫量ヲ裁定セシメ此ノ裁定ニ對シテハ双方絶對ニ異議ヲ述ヘ得サルコト

八 賃借人ハ賃借人ノ書面ニ依ル承諾ヲ得ルニアラサレハ恣ニ左記行爲ヲ爲シ得サルコト

(イ) 他人ニ賃借地ヲ轉貸シ又ハ賃借權ヲ讓渡スルコト

(ロ) 賃借地ノ耕作ヲ他人ニ委託スルコト

(ハ) 賃借地ノ原狀ヲ變更スルコト

(ニ) 賃借地ヲ穀物若ハ蔬菜ノ栽培以外ニ使用スルコト

九 賃借人ハ相當ノ理由ノ下ニ賃借地ノ必要ヲ生シタルトキハ賃借契約ヲ解除シテ賃借地ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

十 賃借人ハ前項ニ依リ賃借契約ノ解除アリタルトキハ契約ノ消滅後一箇月以内ニ地上ノ存置物件一切ヲ收去シテ賃借人ニ地所ノ引渡ヲ爲スヘク若シ然ラスシテ右期間ヲ經過シタルトキハ地所ハ當然引渡アリタルモノト看做シ地上ノ存置物件ハ賃借人ニ於テ任意之ヲ處分シ得ヘク之カ爲ニ賃借人ニ損害ヲ生スルコトアルモ賃借人ニ對シ其ノ補償ヲ求メ得サルコト

但シ賃借人ニ於テ契約消滅前ヨリ該地所ノ上ニ植付ケ居レル作物カ存在シ契約消滅後一箇月内ニ其ノ收穫時期カ到來セサルモノアルトキハ賃借人ハ其ノ作物ノ收穫ニ至ル迄地所ノ引渡ヲ延期スヘキモノトス

十一 賃借人カ第九項ニ依リ賃借地ノ返還ヲ求ムルニ至リタル場合

(イ) 賃借人カ自己ノ都合上賃借地ヲ他ニ賣却セムトスルトキハ先ツ當該賃借人ニ其ノ買取方ヲ交渉スヘキコト

(ロ) 其ノ返還ヲ求ムル理由カ自己若ハ第三者ノ爲ニ耕作地トシテ利用スル必要ニ基ケルモノナルトキハ當該返還者ニ對シ離作料トシテ當該賃借地ノ約定賃借料ノ十二割ニ相當スルモノヲ其ノ當時ノ津田村ニ於ケル米價ヲ標準トシテ換算シタル金員ヲ以テ地所ノ引渡ト引換ニ給付スヘク

(ハ) 其ノ返還ヲ求ムル理由カ右以外ノ必要ニ基ケルモノナルトキハ右以上ニ相當ノ離作料ヲ賃借人ト協定ノ上地所ノ引渡ト引換ニ支給スヘク其ノ額ニシテ双方ノ意見一致セサル場合ハ更ニ其ノ點ニ關シ調停ノ申出ヲ爲スヘキモノトス

十二 賃借地ニ附屬セル「井戸」カ灌漑上浚渫ヲ必要トスルニ至リタルトキハ夫レ等專門技術家タル

主要人夫ハ賃貸人カ其ノ負擔ニ於テ雇入レ其ノ補助人夫ハ賃借人自ラ之ニ當ルカ若ハ其ノ負擔ニ於テ雇入レ以テ共同ニテ其ノ浚渫作業ヲ爲スコト

十三 賃借地上ニ既ニ設置セラレ若クハ將來設置セラルル公私ノ電柱ニ對シ各其ノ設置者ヨリ其ノ地所ノ所有者タル賃貸人ノ受取ルヘキ補償金ハ全部當該賃借人ノ所得タラシメ毎年賃借料支拂ノ際其ノ授受ヲ爲スコト

十四 賃借人カ本契約ニ定メタル義務ニ違背シタルトキハ賃貸人ハ何時ニテモ本賃貸借契約ヲ解除シ土地ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

此ノ場合賃借人ハ契約解除ノ日ヨリ二十日以内ニ作物其ノ他一切ノ存置物件ヲ收去シタル上地所ノ引渡ヲ爲スヘク若シ然ラサルトキハ右期間ノ滿了ト同時ニ當然地上ノ存置物件ニ對スル權利ヲ拋棄シテ地所ノ明渡ヲ爲シタルモノト看做シ賃貸人ハ任意ニ之ヲ處分シ得ルコトニ其ノ賃貸借契約ニ依ルル地所ノ返還ニ付テハ賃借人ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス一切金品ノ交付ヲ賃借人ニ要求シ得サルコト

十六 本調停ニ關スル費用ハ双方各自辨ノコト

其ノ三 右調停條項ニ基キ五年度及六年度ハ條項通り履行サレ小康状態ナリシガ、七年度ハ各自多少ノ滞納ヲ爲シテ更ニ調停條項中ノ小作料改訂方ヲ要求セルモ、地主肯ゼザルノミナラズ斷然調停條

項ノ履行ヲ要求シ強硬ノ態度ヲ示シ、八年一月九日附内容證明ヲ以テ小作料ノ請求竝ニ土地ノ明渡通告ヲ郵送シタルヲ以テ、小作人ハ不作減免ノ條項ノ手續タル事前ノ檢見請求ヲ怠リ居ル以上奈何トモ方法ナキヲ以テ、八年一月十日附ヲ以テ小作料減額及調停條項修正ノ調停申立ヲ爲セリ。

(二) 調停ノ經過

小作人ノ申立要旨ハ (一)小作料ヲ反當二斗五升減額スルコト (二)小作米ハ生産檢査合格米丙ヲ標準トシ乙ヲ以テスル時ハ一俵ニ付二升、甲ヲ以テスルトキハ一俵ニ付五升ヲ獎勵米トシテ拂戻スコト (三)條項中「賃借地ノ耕作ヲ他人ニ委託スルコト」ヲ削除スルコト (四)作離料ヲ小作料ノ十二割トアルヲ二十割ト修正スルコト (五)新タニ調停條項ノ效力ヲ三箇年ニスルコトニセヨト云フニアリ。裁判所ニ於テハ事情ノ變化、酌量スベキ理由ノ有無等ニ付テ慎重審議スベキモノト認め、曩ノ調停委員會ニ於ケル委員ノ外新タニ二名ノ委員ヲ加ヘ協議ノ結果、委員會ヲ開會スルコトニシ期日ニ於テ申立人ノ申立理由ヲ訊問スルニ、申立人等ハ

- 一 昭和五年調停成立當時ト現下ノ社會状態トハ一般ニ大ナル相違アリ
- 二 當時ノ公租公課ニ比シ現今地租ハ賃貸價格ニ依リタルヲ以テ大ニ低減セリ
- 三 當時ニ比シ米價下落シ農業利益大ニ減少セリ

四 物價ハ當時ニ比シ大ニ低落セルニ係ラズ小作人ノ生活費ハ毫モ變化ナク益々苦境ニ在リ

五 昭和五年ノ調停條項ニ依ル時ハ其ノ以前ニ比シ小作料ノ減免率小ナリ

六 隣接町村ニ比シ小作料高シ

ト云フニ在リテ作離料獎勵米等ニ就テハ強調セズ。

更ニ相手方地主ノ意見ヲ聽キ調停條項修正ノ意志アリヤ否ヲ訊問スルニ

一 申立人等ハ極メテ誠意無ク徒ラニ事ヲ好ムモノナリ、即チ七年度ハ何等減免ヲ要求スル理由ナ

キヲ以テ刈取前一言ノ通告モ爲サズ十二月二十五日ニ至リ突如小作料ノ改訂ヲ要求シ、約八割ヲ

内入セルノミニテ二割ヲ留保シ居レリ

二 公租公課ノ負擔ハ多少ノ輕減ヲ見タルモ僅カニ反當一圓餘ニ過ギズ宛下ノ餘裕ナシ

三 小作ノ苦痛トスル生活難ハ地主モ亦同等以上ニシテ現ニ昭和五年調停成立當時ノ地主ハ其ノ後

ニ於テ破産セル者二名アリテ此等ノ土地ハ本件小作人等ガ一部低利資金ヲ借り入レ購入セルヨリ

見テ知ルベシ

ト主張セリ。

委員會ニ於テハ更ニ小作人ニ具體的證左ヲ提出スベキヲ命ジ延期續行スルコトトナリシガ、期日ニ於テ提出セル公租公課ニ關スル表並ニ隣接地ニ於ケル小作料等ハ却テ地主ニ有利ニ援用セラレ結局

「假令具體的減免要求理由ナシトスルモ減免要求ヲ爲サザルベカラザルニ至リシ事自體ガ明白ナル理由ナリ」ト主觀的必要ヲ以テ強辯シ、委員ヨリ懇ロニ其ノ不可ヲ諭シ寧ロ取下ノ可ナルヲ説キタルモ應ゼザルヲ以テ遂ニ二月十六日調停法第三十七條ニ依リ「不爲調停」ト決定終了セリ。

地主等ハ小作人ノ申立タル調停ガ終了スルヤ直ニ法ノ威力ヲ示シ條項ノ履行ヲ迫ルベク、關係地主中三名ハ夫々二月二十三日先ヅ小作人中比較的的土地ヲ返還スルモ大ナル差支ヘナカルベキ者ト認メラルル者二名ニ土地返還ヲ(二町二畝二十四歩)、他ノ一名ニハ七年度ノ滯納小作料ヲ強制執行スベク執行文ノ附與ヲ求メ、次イデ三月十八日之ガ執行ヲ平穩裡ニ了セリ。而テ之ガ引上地ノ耕作ニ着手スルニ至リ尙他ノ小作人等ニシテ反省セザルニ於テハ逐次執行ヲ爲サントスル勢ヲ示セリ。地主側ヨリ強制執行セラル者アルニ至ルヤ、小作人等ハ全國農民組合府聯幹部ノ指導ノ下ニ對策ヲ講ジ、四月二十日日本件幹部三名ハ委員會ノ決議トシテ小作地全部ノ返還ヲ爲スコトニ決シ、翌日全小作人ヲ集合シテ右決議ヲ承認セシメ、正式ニ地主ニ對シテ全部ノ小作地ヲ返還スル旨及返還期日ハ裏作收穫後タル六月二十五日前後タルベキ旨ヲ口頭ヲ以テ通告セルヲ以テ、地主側ハ之ヲ受諾シ書證ノ提出ヲ求メタリ(小作人提出セズ)。

而テ小作人等ハ益々結束ノ要アリトシ、返還後ノ善後策トシテ相互ニ自作地ヲ融通シテ耕作スルコトトシ、又隣村山田村禁野火藥庫ノ擴張工事又ハ村内春日ニ明年ヨリ設立サルベキ軍需品工場ニ就職

スルニ於テハ耕地減少ニヨル苦痛大ナラズト一般小作人ヲ説得シ虚勢ヲ張リツツアリシモ、一部小作人中ニハ小作地返還ハ甚シク生活ノ不安ヲ感ズル者アリ、就中其ノ家庭ニ於テ父子夫妻ノ間ニ之ガ爲ニ紛擾ヲ生ズルモノ尠ナカラズ、況ンヤ當初ヨリ土地返還ニハ不賛成ナルモ春日支部規約ニヨル違約金二百圓ノ負擔ヲ虞レ已ムナク服從シ居ル如キ者アルニ於テヤヤ。其ノ内部關係頗ル複雑ニシテ可憐ノ者モアリ、而テ一方地主側ニ於テハ返還ヲ受ケタル以上自作ノ外ナシトスルモ、到底自作ニ堪ヘザル村外ノ所有者亦尠ナカラザルヲ以テ、共同耕作ノ計畫ヲ爲シ苗代ノ準備ヲ爲ス等表面大ニ勇氣ヲ示スト雖、收支計算ニ確信アルニアラザルヲ以テ等シク不安ヲ抱キ居レリ。

（三）結 末

斯ノ如キ狀勢ノ下ニ植付時期ノ切迫スルニ於テ自ラ爆發ヲ避ケ難カルベキヲ認メタル區長等ハ、事前ニ圓滿ニ解決セント欲シ双方間ニ奔走シ、又一面村内在住ノ本件調停委員會委員タリシ有力者及津田警察署ト計リ、府小作官ト連絡ヲ取リテ漸ク地主ヲ説服シ、再ビ從前通り小作セシムル事トナリ僅カニ二三ノ點ヲ訂正シ、更ニ之ヲ確保スベク新タニ地主ヨリ調停ヲ申立テ調停條項トスル事トナリテ終結セリ。

調 停 條 項

前記昭和五年八月二十八日成立ノモノト大體同一ニシテ其ノ異ナル點ノミヲ掲ク

一 新タニ左ノ一項ヲ加フ

賃借人ニ於テ前項賃借料ノ支拂期日(註十二月二十五日)前タル其ノ年ノ十二月十九日迄ニ約定賃借料ヲ皆納シタルトキハ賃借人ハ當該賃借人ニ對シ左記割合ニ依ル獎勵米ヲ賃借料ノ支拂ヲ受クルト同時ニ交付スルコト

一 大阪府令ニヨル生産検査格付 甲米 石ニ付 六升

一 同 乙米 石ニ付 四升

一 同 丙米 石ニ付 二升五合

二 不作減免ノ場合收穫量決定ニ關シ「大阪地方裁判所小作調停主任官」トアルヲ「大阪府小作官若シハ其ノ指定スル者」ト改正ス

三 契約義務違反ノ爲土地返還ニ關スル規定十四項ハ左ノ通り改正ス

賃借人カ故ナク本契約義務ニ違背シタルトキハ賃借人ハ十四日ノ猶豫期間ヲ存スル履行又ハ原狀回復ノ催告ヲ爲シ賃借人カ其ノ催告ニ應セス同期間ヲ滿了シタルトキハ賃借人ハ何時ニテモ賃借借契約ヲ解除シテ當該地所ノ返還ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合賃借人ハ契約解除ノ日ヨリ二十日以内ニ作物其ノ他一切ノ存置物件ヲ收去シ土地ヲ原狀ニ復シテ地所ノ引渡シヲ爲スヘク若シ然ラスシテ右期間ヲ滿了シタルトキハ賃借人ハ地上ノ作物其ノ他ノ存置物件一切ヲ任意ニ處分シ得可キモ作物ニ限

リ相當ノ補償ヲ爲スヘキモノトス
但シ右補償額ニ付當事者間ニ協定調ハサルトキハ當事者ハ大阪府小作官ニ其ノ旨申出テ同小作官又ハ同小作官ノ指定スル者ニ補償ノ額ノ裁定ヲ仰キ其ノ裁定ニ對シテハ双方共絶對ニ服従スルコト

三七 大阪府泉北郡踞尾村字平田 (小作料一時的減額、小作條件決定)

爭議發生 昭和八年一月

調停申立 昭和八年四月十二日

解決 昭和八年七月十日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 五十一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 八町六反五畝五歩

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件地方一帯ハ收穫量ニ比シテ小作料稍々高率ナルヲ以テ毎年必ズ減免行ハルルヲ例トシ、之ガ交渉ニハ屢々長時日ト煩雜ナル手數トヲ要スルヲ常トセリ。小作料ハ曾テ半作以下ナル時ニ限り減免スルコトノ下ニ一割ヲ宛下シ之ヲ常免ト稱シ、又然ラザルモノハ見分ト稱シ收穫高ニヨリテ減免シ居リタルモ、大正十一年度ヨリ見分ノ分モ九分ヲ宛下シ減免問題ノ煩ヲ省カントセルモ、未ダ小作料反當一石五斗内外(本件ノ土地ハ平均一石四斗四升五合也)ナルヲ以テ、何等ノ效果無ク最近六、七年間ハ毎年反當一割乃至四割弱ノ減免ヲ行ヒ居レリ。

而テ此等ノ減免交渉ハ地主及小作人ノ總代等ニヨリテ行ハレ村農會長ノ仲裁ニヨリテ決定シ、當事者孰レモ之ニ服従スルヲ例トシ昭和七年度迄無事經過セリ。然ルニ本件地主ノミハ不在地主ノ故ヲ以テ時ニ此ノ減免交渉ノ協議ニ出席セザル事アルモ、昭和五年度迄ハ在村地主二十名其ノ反別七十町歩ノ解決ノ例ニ準ジ同一ニ取扱ヒ來リタリ(已ニ昭和六年度ハ同一割合ニ小作料ヲ受取リ居レリ)。然ルニ昭和八年三月二十日地主ハ突如小作人中ノ一部ノ者ニ對シ昭和六年度及七年度ノ小作料納入及條件付契約解除ヲ内容證明郵便ヲ以テ通告シタルヲ以テ、直ニ六年度ハ已ニ支拂濟ナルコト七年度ハ未ダ村一般ガ減免歩合決定セザルノ故ヲ以テ猶豫方ヲ回答シ、仲裁人タル村農會長ニ速カニ一般地主トノ交渉ヲ解決スル様懇願セリ。村農會長ハ更ニ村長ノ援助ヲ得テ双方間ヲ斡旋シ一等地ハ八分引、二等地ハ一割四分引、三等地ハ二割四分引(此ハ所謂定免地ノ減額歩合ナリ見分地ハ之ニ各一割ヲ加フルコト)トシテ解決シ小作人ハ其ノ支拂了セリ。仍テ直ニ本件地主ニモ此ノ割合ニテ支拂了セントセルモ地主ハ之ヲ肯ゼズシテ全額ヲ支拂フベシト主張セルヲ以テ、小作人等ハ小作米全部ヲ産業組合倉庫ニ寄託スル一方村長ニ依頼シテ地主ノ減額承諾ヲ求メ、村長等又熱心ニ地主ヲ説キタルモ頑トシ

テ應ゼズ。遂ニ策盡キテ小作人ヨリ小作調停ノ申立ヲ爲セリ。

(二) 調停ノ經過

委員會ニ於テハ小作人ハ昭和六年度ハ未納米無キ旨ヲ述ベ各自ガ地主ヨリ受取り居レル領收書ヲ示セリ。之ニヨリテ見レバ他ノ居村地主ト同一ノ割合ニテ受取り居リ獎勵米ノ割戻等モ精算シアリ、又七年度ハ他ノ地主並ニ減額セラレタルモノトシテノ支拂フベキ玄米ハ全部準備シアルコトヲ述ブルニ對シ、地主ハ六年度及七年度ノ減額歩合ハ自己ノ不満足ナルコト、又六年度及七年度ノ減免交渉ノ協議ニ出席シ居ラザルコトヨリ此ノ解決ニ拘束サルルモノニアラザル事ヲ主張シ、強イテ同一割合ニ減額ヲ求メントスレバ已ムヲ得ズ之ニ應ズベキモ小作地全部ヲ返還セラレタシト主張シ、毫モ讓歩ノ意志ナキ旨ヲ陳述シ如何トモスベカラズ、調停中村長及村農會長ヲ參考人トシテ召喚シ、仲裁ノ經過及減額歩合ノ適否等ヲ調査スルニ何等地主ノ之ヲ拒ムニ足ルベキ理由ナキ事明カナレ共、本件地主タルヤ性頗ル固陋ニシテ常識ヲ以テ律スル能ハズ、府下ニ於ケル大地主ニシテ他ノ町村ニモ多クノ土地ヲ有スルモ其ノ公租公課ノ如キ曾テ期限ニ納付セルコト無ク督促數回ニ及ビ漸ク納ムルヲ例トシ、又虛構ノ言ヲ爲スヲ憚ラズ廉恥ノ觀念乏シキ者ナルヲ以テ、曾テ他ノ調停事件等ノ例ヨリ見ルモ如何ナル方法ヲ以テスルモ直接説得スルヲ得ザルコト明カナリシカバ無期延期ト爲シ、曩ニ屢々本件地主ノ調停事件ニ於テ採リタル例ニ依リ、本人ノ從兄弟ニシテ有力者アルヲ利用シ之ニ代理セシムルコトヲ小作

官ヨリ懲適シ、其ノ諒解ヲ得タルヲ以テ此ノ者ヲシテ代理出頭セシメ昭和六年度ハ勿論支拂濟ナルコトヲ承認セシメ、其ノ他ハ漸ク左記條項通り調停成立セリ。

因ニ調停條項ニ依ル賃貸借約款ハ必ズ小作料ヲ吟味シ適當ニ宛下セシムルヲ例トスルモ、本件ハ地主之ヲ肯ゼザルヲ以テ小作料ハ從前通りトス。

又扱分ケナル方法ハ舊來ヨリ泉北地方ニ存在セル一種ノ慣行ニシテ、刈分ト異ナリ小作人ニテ刈り取り扱落ヲ爲シ、其ノ糶ヲ分配スルモノニシテ作業中地主ノ立會ヒ居ルコト當然ナリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

一 相手方ハ別表記載ノ地所ヲ同表記載ノ各申立人ニ對シ別記内容ニ依ル賃貸借約款ヲ以テ期限ヲ特定セス引續キ賃貸シ各申立人ハ該地所ヲ穀物蔬菜其ノ他一期作物耕作ノ目的ヲ以テ賃借小作スルコトヲ確約ス

二 相手方ハ別表記載ノ地所ニ對スル昭和七年度小作料ハ別表等級欄中一等ノ甲ハ八分、乙ハ一割八分、二等ノ甲ハ一割四分、乙ハ二割四分、三等ノ甲ハ二割、乙ハ三割二分ヲ約定賃料ヨリ減額スルコト

三 前項ニ依リ減額ヲ受ケタル小作料ハ米納トシ各申立人ハ昭和八年七月三十日限り(内入米ヲ控除

シタルモノ)大阪府令ニヨル穀物生産検査合格玄米ヲ以テ申立人居村ノ相手方指定場所ニ持參支拂
フコト

四 當事者間ノ堺區裁判所昭和八年(ハ)第二九六號、第二九七號、第二九八號ノ事件ノ各訴訟費用及
本件調停ニ關スル費用ハ各自辨トスルコト

賃貸借約款

一 賃料ハ一箇年ニ付別表賃料欄記載ノ賃料通リトス

二 賃料ハ其ノ年ノ十二月二十日限り同年度居村産ノ大阪府令ニ依ル穀物生産検査合格玄米ヲ以テ賃
借人居村ノ賃貸人指定ノ場所ニ持參支拂フコト

三 賃借人ハ各年度ノ表作々柄カ風害、蟲害、旱害、水害、其ノ他不可抗力ニ因リ不作ノ虞アリテ賃
料ノ減免ヲ求メントスルトキハ書面ニ依リ立毛刈取前少クトモ十四日前ニ豫定收量ヲ明示シテ賃貸
人ニ毛見ノ申立ヲ爲スヘク若シ然ラスシテ作物ノ刈取ヲ爲シタルトキハ何等ノ理由アルモ賃貸人ニ
減免ノ要求ヲ爲シ得サルコト

四 賃借人ヨリ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ賃貸人ハ遲滞ナク双方立會ノ上毛見ヲ爲シ實收量ヲ協定
スルモノトス

五 毛見ニ依リ賃料ノ協定當事者間ニ調ハサル場合ニ於テハ立毛ヲ扱分シテ賃料ヲ定ムルコト
六 賃借人ヨリ第三項ノ請求アリタル場合賃借人カ毛見ニ立會ハサル場合ニハ賃借人主張ノ豫定收量
ヲ認容シタルモノト看做スコト

七 毛見又ハ扱分ニ依ル實收量カ一反步當リ生粃百二十貫以上ノ場合ハ其ノ百分ノ五十五ヲ之ニ滿タ
サル場合ハ百分ノ五十ヲ以テ賃料トス
但シ收穫量少ク免租地トナリタル場合ハ賃料ハ全部免除スルモノトス

八 毛見又ハ扱分ニ要スル費用ハ當事者ノ平等負擔トス

九 賃借人ハ賃貸人ノ書面ニ依ル承諾ヲ得ルニアラサレハ左記行爲ヲ爲シ得サルコト

- (イ) 賃借地ヲ他人ニ轉貸スルコト
- (ロ) 賃借權ヲ他人ニ讓渡シ若クハ賃借地ノ耕作ヲ他人ニ委託スルコト
- (ハ) 賃借地ノ原狀ヲ變更スルコト

三八 兵庫縣加古郡氷丘村字河原 (無條件返地)

爭議發生 昭和八年十月四日

調停申立 昭和八年十月十日

解 決 昭和九年二月二十七日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 三十七人
調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 九町四畝十五步
調停 田 八町九反五畝二十三歩

(一) 爭議ノ概況

關係地附近ニ於テハ大正十五年頃ヨリ其ノ郡内各地ニ頻發シタル小作爭議ノ状態ニ鑑ミ、之ガ波及スルコトヲ防止スル爲當分ノ間小作料ヲ一割内外減額シタルモノアリ、而テ其ノ實行ハ今モ尙持續シツツアル状態ナルガ、關係小作人等モ之ニ倣ヒ昭和五年關係各地主ニ對シ同様ノ要求ヲナシタル處本件地主ヲ除ク其ノ餘ノ地主八名ハ之ニ同意シタルニ不拘、本件地主ノミハ之ニ應ゼザル爲小作人等ハ同年以降ノ小作料ハ約一割ヲ控ヘテ支拂ヒ置キタルモノナリ。

地主ハ昭和六年ニ至リ關係田地ノ内約三町八反歩小作人十三名ニ對シ滯納小作料請求ノ小作調停ノ申立ヲナシタル結果、姫路支部昭和六年(小調)第二號事件トシテ調停成立シ、滯納セル小作料反當約一斗六升ヲ六升ニ減額シ且將來凶作時ニ於ケル小作料減額方法等モ協定セリ、即チ「不可抗力ニ因ル凶作ノ爲減免ヲ受ク可キ場合ハ豫メ刈取十五日前即チ十月二十五日迄ニ地主ニ對シ檢見要求ヲナス可キコト」等ヲ定メテ一先ヅ解決シタリ。偶々昭和六年ノ稻作ハ病蟲害ノ爲被害アリシカバ、小作人ハ

右條項ニ基キ同年度稻作ノ檢見要求ヲナシタル地主ト立會檢見ヲナシタル結果、收穫量ニ付キテハ協定出來タルモ其ノ收穫量ニ對スル小作料ノ減免額ニ對シテハ協定出來ザリシ爲、紛議ヲ再發シ小作官ノ法外調停ニ依リ辛ジテ解決シタルモノナリ。

上記ノ如ク調停ノ結果ガ小作人ノ要望セル當分一割減ヲ容レラザリシコトト、將來ノ減免協定方法ガ徹底シ居ラザリシカバ常ニ之ニ關シテ双方共釋然タルコトヲ得ザリシ處、翌昭和七年稻作ハ大體ニ於テ豊作ナリシカバ、小作人ハ檢見要求ヲナサザリシガ、其ノ他ノ地主ハ前記當分一割引ヲ含ミ最低一割一分最高二割七分ノ減額ヲナシタル爲、小作人等ハ本件地主ニ對シ調停條項ノ主旨ヲ無視シ、少クトモ當分一割引ニ相當スルモノヲ一律ニ減額スベシト要求シタル處、地主ハ前記調停條項ヲ楯ニ取り檢見要求ナカリシ爲、何等減免スル必要ナシト跳付ケタレバ、茲ニ爭議ノ發生ヲ見ルニ至リタルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

調停申立ノ要旨ハ昭和七年滯納小作料ノ支拂要求ト昭和八年ハ稀有ノ豊作ニシテ小作料減額ノ必要ナキモノト認ムルモ、今後兩者間ニ意見ノ相異アル處アルヲ以テ委員會ニ於テ刈取前一應關係田地ノ作柄ヲ調査セラレタシトアリタレバ、右申立要旨ニヨリ委員會開會前小作官ニ對シ關係田地ノ昭和八年稻作檢見ヲナス様依囑アリタレバ、小作官ハ豫メ之ガ坪刈及檢見ノ實施方法ニ付各當事者ト打合せヲナシ、右打合せニ基キ十一月十三日、同十四日ノ兩日ニ亘リ關係地全部ヲ各筆毎ニ坪刈及檢見ヲナ

シ、其ノ結果反當最高收量三石五斗七升三合、最低收量二石二斗四升四合、平均收量二石八斗四升一合ニシテ、反當平均小作料一石六斗八升七合ハ平均收量ノ五割九分ニ相當スル事實ヲ知リ之ヲ委員會ニ報告セリ。

昭和九年一月十六日現地ニ於テ第一回調停委員會ヲ開催シ調停ヲナシタル處、申立人地主ハ關係田地九町四畝歩ノ内三町八反歩ハ姫路支部昭和六年(小調)第二號事件ヲ以テ將來ニ亘ル小作料減免方法ニ關スル協定成立シ「不可抗力ニ因ル凶作ノ爲減免ヲ受ク可キ場合ハ豫メ刈取十五日即チ十月二十五日迄ニ地主ニ對シ檢見要求ヲナス可キコト」ト定マレルニ不拘昭和七年ハ何等ノ檢見申出ヲナサズ又其ノ作柄ハ檢見ヲ必要トスル程度ニアラザリシカバ、相手方等ハ任意ニ刈取收穫ヲナシ置キ乍ラ小作料支拂ニ際シテハ一割餘ノ小作料ヲ差控ヘテ支拂セリ、依テ其ノ不足分ニ對シ再三之ガ支拂ヲ求ムルモ之ニ應ゼザルヲ以テ、當然直ニ該調停條項ノ效力ニ依リ之ガ支拂ニ對シ、動産差押ノ強制執行ヲナス可キ筋合ノモノナルモ一應調停ニヨリ之ガ請求ヲナスモノナリト謂ヒ、尙調停條項ヲ締結シ居ラザル五町二反歩ニ對シテモ、相手方小作人ヨリ前記事件ト同一ノ條項ヲ以テ調停ヲナスコトニ關シ承諾書ヲ申立人ニ差出シ居ルヲ以テ、全部前記條項ニテ處理シ得ル性質ノモノナレバ、昭和七年分ノ滯納小作料全額及昭和八年度小作料ハ立會檢見ヲナシタルモノヲ除キ速カニ全額支拂ヲナス様調停ヲ求ムト謂ヘリ。

之ニ對シ小作人側ノ主張ハ、昭和七年稻作ハ一見比較的良好ナリシ爲、檢見ノ申込ハナサザリシガ收穫後ノ成績ハ意外ニ悪ク且當地方ノ小作料ハ比較的高キ爲、申立人以外ノ地主ハ何レモ豊凶ニ不拘一割ヲ減額セリ。故ニ昭和七年ニ於ケル申立人以外ノ地主ノ減免狀況ハ最低一割一分、最高二割七分トナレルモ檢見ノ申込ヲ爲サザリシ爲、被害ニ因ル減額要求ハ拋棄シ附近部落及本部落ニ於ケル申立人以外ノ地主ト同様當分ノ間一割減ヲ望ムト主張セリ。

委員會ハ双方ノ主張ニ對シ互讓ヲ求メタル處、地主ハ昭和七年ニ限り反當五升ヲ特ニ惠與スルヲ以テ、昭和八年ハ全額支拂ス可シト稍々讓歩シ、小作人ハ昭和七、八年共八歩ヲ減額セラレタシト讓歩シタルモ、双方共ソレ以上讓歩セズ(八歩ハ反當約一斗三升四合ニ當ル)。

其ノ後第二回委員會ニ於テモ依然トシテ双方ノ主張ニ變化ナカリシガ第三回委員會ニ於テ小作人ハ最後案トシテ昭和七、八年共各反當五升減額迄讓歩シタルニ、地主ハ依然トシテ昭和七年ノミ反當五升減ヲ固持シテ讓歩セザルノミナラズ、若シ小作人ガ之ヲ以テ不服ナリト云フナラバ敢テ之ヲ惠與セズ、只曩ニ定マレル調停條項ニヨリ全額要求ヲナス外ナシト云ヒ、又小作料ガ高率ナル爲不利益ヲ蒙ルガ如キ事情ニアラバ強イテ不利益ヲ忍ンデ貸貸借ヲ繼續スル必要ナキモノナレバ何時ニテモ返還セラレタシト放言シ、些カモ妥協的態度ニ出デザリシカバ、小作人モ憤激シ最後ノ決意ヲ纏ムル爲更ニ一回ノ延期ヲ求メタリ。

而テ其ノ後小作人等ハ協議ヲナシタル結果、地主ニ於テ尙依然トシテ非妥協的態度ニ出ヅルニ於テハ、地主ノ要求通り全部田地ヲ返還スルモ可ナリト決意シ、返地ニ關スル委任狀ヲ作成シ第四回委員會ニ出頭シタリ。

叙上ノ如ク小作人等ノ決意牢固タルモノアルト共ニ一方地方ノ小作事情ヨリ鑑ミルモ、小作人ノ要求スル昭和七、八年共反當五升減ハ當然地主ニ於テ承諾ス可キ性質ノモノト認メラルルニ依リ、委員會ハ地主ニ對シ翻意セシム可ク極力獎メタルモ、頑トシテ應ゼザルノミナラズ依然トシテ前記ノ如キ放言ヲ繰返スノミナリシカバ、小作人總代モ斯クナリタル以上ハ最早ヤ逡巡スル必要ナシト稱シ、何時迄モカカル頑迷地主ノ跳梁ニ任スコトハ地方ノ適正ナル小作事情ヲ破壞スルモノナレバ斷乎タル處置ニ出ヅル要アリトシ、地主ノ惠與セントスル昭和七年度分反當五升ノ減額ヲモ辭退シ、昭和七、八年小作料ハ完済スルト共ニ關係田地ハ全部返還スベシト應酬シ委員會ノ慰留ニモ耳ヲ藉サザルヲ以テ不得止左記條項ノ通り將來ニ貽ル多大ノ波亂ヲ抱藏シツツ緊張裡ニ調停ノ成立ヲ見タルモノナリ。

(三) 結 末

一 昭和七年度分及昭和八年度分小作料ニ付キテハ別紙目錄(略)記載通りニテ減免ナキモノトス但シ昭和八年度分ニシテ檢見ヲ爲シタル部分ニ付キテハ調停外ニ別ニ其ノ額ヲ定ム(檢見ヲ爲シタルモノハ別紙目錄中ニ表示セリ)

- 一 相手方ハ昭和九年三月十日限り兵庫縣產米検査合格乙印以上ノ米ヲ以テ俵ニ充ツルモノハ加古川農業倉庫ニ於テ俵ニ充タサルモノハ加古郡氷丘村河原楠本某方ニ於テ夫々申立人ニ支拂フコト
- 但シ本件賃借田ニ生ジタル兵庫縣產米検査合格丙印以下ヲ以テ納付シタルトキハ乙印米ト納付米トノ納米期ノ時價ノ値合金ヲ相手方ヨリ申立人ニ支拂フヘク之ニ對シ申立人ハ相手方カ右乙印產米ヲ以テ納付シタル場合ニ於ケル獎勵米(一石ニ付三升五合ノ割合)ヲ相手方ニ支拂フコト
- 一 本件土地ノ賃貸借契約ハ昭和九年六月二十日限り解除トナリ同日限り相手方ヨリ申立人ニ對シ土地ノ明渡ヲ爲スコト
- 一 相手方ニ於テ玄米ヲ以テ支拂難キトキハ一石ヲ二十三圓ノ割合ニ換算シ金員ヲ以テ支拂フコトヲ得ヘク又申立人ハ右割合ニヨリ金錢債權トシテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

三九 兵庫縣飾磨郡英賀保村英賀保 (土地返還)

爭議發生 昭和八年三月六日
 調停申立 昭和八年四月十四日
 解 決 昭和八年十二月二十九日

關係人員 爭議 地主 十一人 小作人 七人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 三町五反七畝四步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本事件ハ之ヲ端的ニ觀レバ土地購入ニ因ル新地主ノ土地明渡要求ニ對シ小作人ノ小作存續要求事件ナルガ、其處ニハ賣却者ノ賣買方法ニ對スル矛盾ト土地ヲ繞リテ土地斡旋者間ノ勢力爭トヲ窺知シ得ベク、事件ハ自然複雑性ヲ帶ブルニ至リシモノナリ。

即チ關係土地ハ元縣下ノ大地主タル加東郡福田村蓬萊某ノ所有ニシテ、之ガ土地管理ヲ舊津田村(現在ハ飾磨町ニ編入サル)ノ芝垣甲某、芝垣乙某ノ兩名ニ委任シアリタル處、地主ニ於テ賣却ノ意思アリシヲ以テ、前記管理人ハ各獨自ニ之ガ賣買ノ斡旋ヲ爲シ、即チ前者ハ之ヲ本件相手方タル菅野某外十名ニ對シ、後者ハ飾磨町地主津田某ニ一括シテ賣買ノ斡旋ヲナシタル結果、何レモ賣買豫約成リ各別ニ手付金ヲ領收シタリ。

然ルニ地主蓬萊某ハ賣買價額ノ高キ芝垣甲某ノ周旋シタル本件相手方等ニ對シ賣却シ、相手方ハ昭

和七年十一月所有權ノ移轉登記ヲ終了シタリ。

茲ニ於テ芝垣乙某ハ津田某ヨリ受納シタル手付金三千圓ハ銀行ニ預金シタル儘放置シアリ。此ノ事實ニ對シ津田某ハ蓬萊某ヲ相手方トシテ賣買契約不履行ニ基ク損害賠償請求訴訟ヲ提起シ、更ニ蓬萊某ハ管理人芝垣乙某ヲ相手方トシ、本件土地ノ中田二町七畝七步ヲ限り反當七百圓以上ヲ以テ十一月十日迄ニ賣却スルトノ條件附委任ヲ爲シタルニ不拘、十一月十八日津田ニ對シ全土地ヲ賣却シタルコトハ越權ノ沙汰ナリト稱シ告訴ヲナシ、事件ハ土地賣買ヲ繞リテ意外ナル方面ニ迄進展ヲ見ルニ至レリ。

而テ本件土地ガ一括シテ地主津田某ニ賣却セラルルナラバ本件申立人等(小作人等)ハ引續キ耕作シ得ベカリシニ不拘相手方等(本件地主)ニ分筆購入セラレタルニ及ビ、相手方等ハ何レモ自作又ハ自作兼小作ノ細農階級ニ屬シ、自作ヲ目的トシテ買ヒ受ケタルモノナルニ依リ即時返地方ヲ強要シタルガ應ゼザルノミナラズ、申立人等ニ於テハ普通植付準備耕作期ヨリモ約二箇月早キ昭和八年三月上旬耕作ニ着手シタルヲ以テ、相手方トノ間ニ衝突ヲ醸シ、遂ニ相手方等ハ申立人柴垣某等ニ對シ昭和八年三月十四日立入禁止假處分ノ申請ヲナシ、同月二十二日金七百圓ヲ供託スルコトヲ條件トシテ小作人ノ占有ヲ解キ執達吏ノ保管ニ移シ現狀ヲ變更セズシテ第三者ニ使用收益セシムルコトトシ執達吏ハ之ヲ第三者ニ耕作セシメタリ。

此ノ間元津田村長等地方有志居中調停ニ當リタルガ協定至難ナリシ爲、小作人柴垣某外六名ハ新地主菅原某外十名ヲ相手方トシテ昭和八年四月十四日姫路支部ニ耕作存續ヲ目的トシテ小作調停ノ申立ヲナスニ至レリ。

(一) 調停ノ經過

調停ヲ受理シタル裁判所ハ第一回調停委員會ヲ昭和八年五月四日元飾磨郡津田村役場ニ於テ開催シ、先ヅ本件土地斡旋ニ衝リタル芝垣甲某、芝垣乙某ノ兩名ニ付各別ニ其ノ經緯ヲ詳細聽取シタル上各當事者ノ主張要求ヲ求メタリ。

即チ申立人側ハ本件土地賣買ニ際シテハ芝垣甲某ハ術策ヲ弄シテ申立人ニ何等ノ交渉モ無ク之ヲ相手方ニ賣買斡旋シ、相手方ニ在リテモ申立人等ガ相當ノ價格ナラバ購求スベキ意思アルヲ知悉シナガラ之ヲ買受ケ、本件土地ノ正當ナル管理人タル芝垣乙某ガ、申立人等ノ將來ヲ懸念シ申立人等ヲシテ引續キ耕作セシムベキ意圖ノ下ニ、飾磨町地主津田ニ一括賣却ス可ク奔走中、芝垣甲某ハ之ヲ妨害シ突如相手方ニ賣却シタルモノニシテ、相手方ノ主張ノ如ク本件土地ヲ無條件ニテ明渡ヲナスニ於テハ、申立人等ノ耕地僅少トナリ生活ノ資源ヲ失フニ至ルノミナラズ、當地方向後ノ小作事情ニモ影響スル所甚大ナルヲ以テ、斷ジテ返地スルコトヲ得ズ引續キ耕作セシメラレ度シト強張シ、之ニ對シ相手方側ハ本件土地ノ賣買ハ正當ニ之ヲ了シ所有權移轉登記モ何等支障ナク結了シタル次第ニテ、元來本地方ニ於テハ本事件ノ如ク土地購入ノ場合ニ在リテハ、小作人等ハ無條件ニテ即時返地ニ應ズルノ慣習アルニ依リ、申立人等ニ對シ返地方ヲ交渉シタルニ不拘申立人及斡旋人タル芝垣乙某ハ結託シテ應ゼザルノミカ、強而之ヲ耕作セムトスルノ態度ニ出デタルヲ以テ、茲ニ已ムナク假處分ヲナシ次イデ返地訴訟ヲ提起シタル次第ニ付、絶對ニ申立人等ニ耕作セシムルコト能ハズ即時明渡ヲ望ムト強要ス。

第二回調停委員會ヲ五月十一日開催シ、本件ノ利害關係人トシテ前地主蓬萊某及飾磨町ノ津田某ノ兩名ニ付、其ノ意嚮ヲ聽シタル後委員會ハ協議ノ結果

イ 引續キ本件土地ヲ申立人等ニ耕作セシムルコト

ロ 本件土地ヲ申立人又ハ津田某ヲシテ相當ノ價額ヲ以テ買取ラシムルコト

前案ヲ以テ委員會ノ根本調停方針トシ折衝ヲナシタルガ、相手方ハ全然賣却ノ意思ナク飽ク迄返地ヲ要求シテ之ニ應ゼズ。

然ルニ本年三月十四日相手方側ヨリ申請シタル立入禁止假處分ハ(五件分割)同月二十二日「現状ヲ變更スルコトナク執達吏ヨリ第三者ニ使用ヲ爲サシムル」ノ決定アリ、現在第三者ニ於テ耕作シ居レルガ、該第三者ナルモノハ純然タル第三者ニ非ズシテ何レモ相手方ノ縁類者ナルノ事實判明シタルニ

付、當初ノ調停方針ニ基キ申立人等ヲシテ耕作セシメ、更ニ本件ノ傍系ト看做ス可キ姫路支部繫屬中ノ蓬萊津田間ノ賣買契約不履行ニ因ル損害賠償事件ヲモ共ニ解決スルヲ妥當ト認メタルニ依リ、各利害關係人ニ對シ極力互譲ヲ求メタルモ釋然タラザルモノアリ。

第三回調停委員會ヲ五月二十二日開催シ、當日出頭シ居リタル芝垣乙某ヲシテ相手方ニ交渉セシメタルガ、相手方ハ依然前主張ヲ繰リ返スニ過ギズ。

而テ現在第三者ニ於テ耕作セル假處分地ハ前記事情ノ下ニ純然タル第三者ニ於テ耕作セズ相手方ノ縁類者ナルニ付、其ノ實質ニ在リテハ相手方自身耕作セルト何等異ナラザル結果トナルニ依リ、委員會ハ之ニ對シ協議検討ノ上民事訴訟法第七五九條ニ基キ假處分ノ取消シ訴訟ヲ提起セシムルコトトシ、申立人等ハ前記實情ヲ事由トシ五月二十四日假處分取消訴訟ヲ姫路支部ニ提起シ、同裁判所ハ六月十七日申立人側ヨリ金三千圓又ハ之ニ相當スル有價證券（占有者ノ明渡延滞ニヨリ蒙ルベキ損害見積）ヲ供託スルコトヲ條件トシテ假處分取消ノ決定アリ。從テ申立人側ハ六月二十六日右金額ノ供託ヲ了シ耕作手續ヲトリタルガ、相手方ニ於テハ直ニ控訴手續ヲナシ而テ當該土地ハ純然タル第三者植付ヲナシタリ。

第四回委員會ヲ六月二十七日第五回委員會ヲ六月三十日ニ前記利害關係人ヲモ招致シタル上開催シ、委員會ハ本年度植付ハ差當リ申立人側ヲシテ耕作セシメ、第三者ノ植付準備費ヲ申立人側ヨリ提供セシムルコトト決定シ、之ガ經費ニ付關係各自ニ諮リタル結果反當金七圓ヲ以テ協定ヲ見タリ。尙委員會ニ於テ申立人七名中柴垣某、多田某、嵯峨某ノ三名ヲ除キ残り四名ノ内二名ハ協定ナリ、二名ハ調停申立ヲ取下ゲタリ。

次イデ第六回委員會ヲ七月二十日、第七回ヲ八月十六日、第八回ヲ十月三十一日ニ各開催ノ上引續キ調停ヲ試ミタルガ、相手方ハ申立人三名中ニハ前委員會ニ於テ協定成レル植付費ヲ未ダ支拂ハザル者アリ斯テハ申立人側ノ誠意認メ難シト述べ、申立人側ハ之ニ對シ三名中二名ハ既ニ支拂ヒ内一名ハ支拂額百四十餘圓ノ處未拂金約八十圓アルモ、故意ニ遅延シタルモノニ非ズシテ金員ノ調達ガ意ノ如クナラザリシニ因ルモノナリト述べタリ。

委員會ハ從來ノ調停方針ニ基キ「耕作期間ヲ三箇年トスルコト」ヲ提示シ交渉ヲ重ネタルガ、依然相手方側ハ「即時返地」ヲ求メテ讓ラズ、又申立人側モ「五箇年間耕作」ヲ主張シ、協定至難ナルヲ以テ更ニ本件土地ヲ地主津田ヲシテ原價（反當五百六十圓乃至六百六十圓）以上ノ價額ヲ以テ買ヒ取ラシム可ク相手方ニ同意ヲ求メタルガ、登記濟ノ今日今更轉買ノ意思毛頭ナシト稱シ調停更ニ進捗セズ。其ノ間小作官ノ中間調停ニ依リ本件土地ノ東部隣接地ニ前地主蓬萊某ノ所有地約三町一反歩アルヲ以テ、本件土地ト交換セシムベク相手方ニ交渉シタルガ應ゼズ、然ルニ相手方ヨリ曩ニナシタル假處分取消ニ對スル控訴事件ハ十一月二十一日金三千九百五十圓（前判決ヨリ九百五十圓増額）ヲ供託スルヲ條件

トシテ内容殆ド第一審判決ト變リナク假處分取消決定アリタルニ依リ、申立人等ニ於テハ直ニ右不足額ノ増額供託ヲナシタリ。

茲ニ至リテ委員會ハ最後的手段トシテ本事件ノ情勢竝ニ之ニ對スル公正ナル社會的批判ニ付調査ノ上善處スルコトト決定シ、之ガ囑託ヲ受ケテ小作官現地ニ臨ミ所轄警察署、町當局及地方有志等ニ付キ精査ノ結果、大體左ノ二案ヲ得タリ。

第一案 向後三年乃至四年耕作セシメ無條件明渡サシムルコト

第二案 昨年飾磨町ニ於テ醬油工場敷地トシテ約一町五反歩ヲ買收シタル場合合作離料トシテ反當金

五十圓ヲ支給シタル事例アルヲ以テ、若シ即時明渡ストスレバ右程度ノモノヲ交付スルコト

仍テ十二月十三日第九回委員會ヲ開キ、右二案ヲ基調トシテ極力勸讓ニ努メタルモ相手方ハ依然應ゼズ、斯ノ如ク委員會ヲ開催スルコト前後既ニ九回ニ及ビ委員會及小作官ハ其ノ間耕作繼續、賣却地ノ交換、作離料ノ交付等凡百ノ手段ヲ盡シ解決ニ努メタルガ、相手方ノ主張ハ始終一貫「即時返還」ノ強硬ナル態度ヲ堅持シ、茲ニ全ク調停ノ行詰リヲ生ズルニ至リタルヲ以テ、小作官ハ前記調査ニ基キ、之ガ唯一ノ打開策トシテ飾磨町平野某(元代議士)及村田某(元津田村長)ノ兩氏ヲシテ勸解ヲナサシムルヲ適當ト認メ、委員會ニ諮リタルニ委員會モ之ヲ承認シ、右兩氏ニ交渉シタルニ之ヲ受諾シ兩氏ハ爾來數次ニ亘リ居中斡旋ニ努メタル結果、本年一年間文ケ耕作セシムルコトニテ協定ヲ見タルヲ

以テ、十二月二十九日更ニ第十回調停委員會ヲ開キ、右成案ニ基ツキ條項ヲ作成シ茲ニ漸ク調停ノ成立ヲ見タリ。

(三) 結 末

調 停 條 項 (昭和八年六月三十日調停成立ノ分)

一 申立人ハ相手方菅原某ニ對シ末記第一不動産ヲ同荒木某ニ對シテハ同第二不動産ヲ本日限り無條件ニテ明渡スコト

調 停 條 項 (昭和八年六月三十日調停成立ノ分)

一 相手方ハ申立人ニ對シ末記記載土地ヲ一箇年ノ小作料一反歩ニ付一石、毎年十二月末日限り支拂ノ約ニテ今後三年間賃貸シ申立人ハ之ヲ賃借スルコト

一 申立人ハ相手方ニ對シ昭和十一年六月中ノ麥作收穫後前項不動産ヲ明渡スコト

調 停 條 項 (昭和八年六月三十日調停成立ノ分)

一 申立人ハ利害關係人(使用人)カ稻ノ植付及其ノ準備行爲ヲナシタル爲ニ要シタル費用ヲ別紙目錄記載ノ通り利害關係人ニ支拂フコト

右支拂ハ本日執達吏カ該土地ノ假處分執行ノ取消ヲ爲スト同時タルヘキコト
利害關係人ハ申立人ノ爲其ノ支拂ヲ二三日間猶豫スルコトヲ承認ス

一 前項ノ費用中申立人堤某ヨリ利害關係人菅原某ニ對シ支拂フヘキ分及荒木某ニ支拂フヘキ分ハ何レモ該地主ヨリ利害關係人ニ支拂フコト

調停條項 (昭和八年十二月二十九日調停成立ノ分)

一 相手方ハ申立人ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ同目錄記載ノ賃料ヲ以テ昭和八年度及昭和九年度賃貸シ申立人ハ之ヲ賃借スルコト

右賃料ノ支拂期日ハ毎年十二月末日限リトス

二 申立人ハ賃借地ヲ第三者ニ轉貸シ又ハ第三者ヲシテ耕作セシムルコトヲ得ス

三 申立人ハ昭和九年十二月末日限リ前示土地ヲ相手方ニ明渡スコト

申立人カ右期日ニ土地明渡ヲ爲ササルトキハ相手方ハ何等ノ手續ヲ要セスシテ申立人ニ對シ土地明渡ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得

四 本件ニ關シ繫屬セル訴訟事件ハ取下クルコト

右訴訟事件竝ニ假處分事件ニ要シタル費用ハ各自辨ノコト

四〇 兵庫縣神戸市須磨區神撫町四丁目 (作離料支給)

爭議發生 昭和八年十一月中旬

調停申立 昭和八年十一月二十五日

解 決 昭和九年二月二十四日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人

調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 五反三畝六步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

關係土地ハ神戸市西部板宿北方ノ高地ニシテ、最近住宅地トシテ著シク發展シ漸次潰地ヲ増加スルノ傾向ナリ。又同地方ハ大正八、九年ノ好況以來小作地引上ニ際シ、相當多額ノ作離料ヲ支給シツツ現在ニ至レルモノナルガ、最近ハ坪當リ五圓乃至六圓ヲ支給セシ事例多シ。

關係地主ハ約三十年前本件土地ヲ購入シ、別ニ小作料ヲ定メズ(現在ハ宛行扶持ノ形トナレリ)小作セシメ來リシ處、家財整理ノ爲本件土地ヲ賣却セザルベカラザルニ至リ、本年十一月中旬地主ノ管理人ハ小作人ニ對シ二箇年分ノ小作料程度ヲ以テ作離料トシ明渡ヲ要求セリ。小作人ハ附近ニ於ケル一般事例ニ倣ヒ作離料ヲ支給セラレ度シトテ之ニ應ゼズ、依而地主ハ更ニ坪二圓程度ノ作離料ヲ以テ明渡ヲ要求セシモ小作人尙應セズ。地主ハ遂ニ十一月二十五日ニ至リ小作調停法ニ依リ調停申立ヲナシタリ。

(一) 調停ノ經過

(一) 第一回調停委員會

二月十六日午前十時ヨリ神戸地方裁判所ニ於テ第一回調停委員會ヲ開催シ地主ノ主張ヲ聽取スルニ左ノ如シ。

現地主ノ先代ガ約二十八年前本件土地ヲ購入シ、無年貢ニテ前田某ナル者ニ二十餘年間小作セシメタリ。前田ノ死後現小作人ニ約十年間小作セシメアルガ別ニ小作料ハ定メズ（現在ハ宛行扶持ノ形ニテ昨年ハ百四圓一昨年ハ八十六圓ノ小作料ヲ持參セリ）、又小作人ノ主張スル如ク相當ノ作離料支出ハ正當ナリト認ム。然レドモ現在約十萬圓ノ負債アリテ之ト現資産ト相殺セラルル程度ナリ、其ノ整理ノ爲本件土地ヲ返還セシメテ之ヲ賣却セムトスルモノニテ本土地ハ農工銀行ニ坪十八圓ニテ抵當ニ供シアリ、以上ノ如ク地主トシテハ家計逼迫ノ状態ナレバ到底坪五、六圓ノ作離料ヲ支給スル能ハザルナリ。

右ニ對シ小作人ノ主張ハ本年十一月中旬地主ノ管理人ヨリ二箇年分ノ小作料程度（一箇年約五石）ニ相當スル額ヲ作離料トシテ支給スルヲ以テ土地ヲ明渡セラレ度シトノ申込アリ。次ニ坪當リ二圓ノ作離料ニテ土地返還ノ要求アリシモ小作人トシテハ之ニ應ズル能ハズ、附近一般ノ作離料ハ自ラニ定セルヲ以テ小作官ニ於テ調査ノ上適當ナル額ヲ支給スル様取計ハレ度シ、當方ヨリハ其ノ額ヲ明カニセザル意思ナリ。双方ノ主張右ノ如クニシテ事實調査ニヨレバ地主ノ家計逼迫モ事實ニシテ此ノ點ハ大ニ斟酌セザルベカラズ、又坪當五、六圓ノ作離料ハ此ノ附近ニテ普通ナレバ小作人ノ主張モ亦之ヲ認メザルベカラズ。

依而委員會ハ双方ニ對シ互譲ヲ求メシ結果地主ハ坪三圓以内程度ノ作離料ヲ承認スル模様ナリシモ、小作人ハ坪四圓五十錢程度ヲ主張シテ譲ラズ調停ハ次回ニ續行スルコトトセリ。

(二) 第二回調停委員會

二月二十三日午前十時ヨリ神戸地方裁判所ニ開ク
調停委員會ハ評議ノ結果双方ノ事情ヲ大ニ考慮シ坪當リ三圓ノ作離料ニテ返還セシムルノ方針ニテ調停ヲ進メタルニ、小作人ハ坪三圓五十錢ヲ主張シテ譲ラズ、地主亦訴訟ヲ以テ事件ヲ解決セムトシ一時決裂ノ情勢見エシガ極力調停ノ結果、小作側モ漸ク坪三圓ニテ應ズルニ至リシヲ以テ、委員會ハ翌二十四日續行シ調書ヲ作成スルコトトセリ。

(三) 第三回委員會

二月二十四日午前十時神戸地方裁判所ニテ開催、地主小作双方共坪當リ三圓ノ作離料ニテ妥協スルコトトナリ左ノ條項ニテ調停成立シタリ。

- 一 相手方ハ申立人ヨリ賃借セル別紙目録記載ノ土地ヲ申立人ヨリ明渡スヘキ請求ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ該地上ニ存スル相手方ノ耕作物ヲ收去ノ上完全ニ明渡スヘキコト
- 一 申立人ヨリ別紙目録記載ノ土地ノ一部分宛ニ付右請求ヲ受ケタル場合ニテモ相手方ハ右同様其ノ部分ニ付明渡ヲナスヘキモノトス
- 一 申立人ハ相手方カ別紙目録記載ノ土地ニ付其ノ約旨通り明渡ヲ爲シタル時ハ同時ニ其ノ明渡土地ノ坪數ニ應シ一坪ニ付金三圓ノ割合ニヨル作離料ヲ相手方ニ支拂フヘキコト
- 一 申立人ハ相手方ヨリ前第一項約旨ニ基キ本件土地ノ明渡ヲ受クル際ニハ前項ニ依ル作離料ノ支拂ヲ爲スヘキコト
- 一 相手方ハ申立人ニ對シ別紙目録記載ノ土地ニ對スル該土地明渡請求ノ日マテ一箇年一反ニ付キ玄米一石ノ割合ニ依ル賃料ヲ右土地明渡ト同時ニ支拂フヘキコト
- 一 相手方ハ申立人ニ對シ別紙目録記載ノ本件土地ニ關シ本調停條項ニ依ル他名義ノ何タルヲ問ハス一切金銭上ノ請求ヲ爲ササルコト
- 一 相手方ハ申立人ヨリ賃借セル別紙目録記載ノ本件土地ノ賃借權ヲ爾後第三者ニ讓渡セサルコト

若シ其ノ讓渡ヲ相手方ニ於テナシタルトキハ前項ニヨル作離料支拂ヲ受クル權利ヲ喪失スルコト

四一 奈良縣北葛城郡志都美村大字上中 (小作料一時的減額、小作契約繼續)

爭議發生 昭和八年一月二十六日

調停申立 昭和八年五月十六日(小調第十二號)

昭和八年五月二十二日(小調第十三號)

解決 昭和八年十月十一日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 二十四人

調停 右ニ同シ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 五町四反八畝二十步

調停 右ニ同シ

(一) 爭議ノ概況

昭和七年度稻作ハ不作且農村不況ノ爲生計困難ナルヲ理由トシテ小作料ノ一時的減額ヲ要求シタルニ因ルモノニシテ其ノ双方ノ主張左ノ如シ。

(イ) 小作人ノ要求

前記ノ如キ理由ニヨリ昭和七年度ハ區内一般地主ハ一割九分減ニテ解決シタリ、依テ本件地主モ一

般並ニ減免セラレ度シ。

(ロ) 地主ノ主張

小作側ノ所謂一般地主トノ解決ハ圓滿解決ニヨルモノニアラズシテ多數ヲ恃ム小作側ノ「宛行扶持」ニ過ギズ、斯ノ如キ「宛行扶持」ヲ甘受スルコトハ斷ジテ不可能ナリ。

尙小作證書ニヨレバ檢見ヲ申入レズシテ無斷刈取ヲナシタル場合ハ減免セザル規定ナリ、然ルニ小作側ハ此ノ契約ヲ無視シ不當ノ要求ニ出デタルモノナレバ之ニ應ズル能ハズ。

即チ本件當事者等ハ昭和六年春小作條件ノ協定ヲナシ小作證書ヲ作成シ將來減免要求ノ場合ハ必ズ刈取前檢見ヲ申出ヅベキ契約ヲナシタルガ、偶々昭和六年度ノ檢見ニ於テ地主ノ態度ハ小作人ノ期待ニ反スルモノ多ク、小作側ハ斯ノ如キ檢見ハ小作契約ノ本旨ニ反スルモノナレバ小作證書ニ拘ラズ團體交渉ヲナスニ如カズトナシ、無斷刈取ヲ了シタル後減免要求ヲナスコトトセリ。而テ先ヅ本件地主ヲ除ク小地主等ト再三交渉ノ結果大體一割九分減ニテ承認ヲ得タル後、一月二十六日代表者三名ヲ以テ一般地主並ニ一割九分ノ減免方ヲ申出タリ。地主ハ小作證書ニヨル契約ヲ楯トシテ小作側ノ要求ヲ一蹴シ、翌二十七日早クモ内容證明郵便ヲ以テ小作料全額支拂ノ請求ヲ爲シタリ。之ガ爲小作側ハ大イニ激昂シ、協議ノ結果本年度ハ持久戦ニヨリテ要求貫徹ヲ期スルコトトシ、即日反當ニ俵宛ノ小作米ヲ賣却シテ共同積立ヲ爲シタリ。次イデ二月七日地主ハ小作側ヲ威壓牽制スル爲、小作人中比較的

貧弱ナル者四名ニ對シ玄米其ノ他動産ノ假差押ヲナシ、翌八日小作人二十三名ニ對シ小作料不納ヲ理由トスル土地返還請求訴訟ヲ提起シ、小作側ノ主腦者松原某ニ對シテハ別ニ同様ノ訴訟ヲ提起シ飽ク迄磨懲ノ態度ヲ示セリ。

二月十一日區長及調停委員其ノ他有志數名ハ情勢ノ激化ヲ憂慮シ居中調停ノ勞ヲ執リ折衝數日ニ及ビシモ、遂ニ妥協成ラズ傍觀スルノ餘儀ナキニ至レリ。

小作側ハ四月全農縣聯ニ加盟シ上中支部ヲ組織シテ一層ソノ結束ヲ固メ全農ノ背景ノ下ニ飽ク迄抗争スベク畫策シ、五月ノ村會議員總選舉ニ當リテハ支部長松原某ヲ擁立シテ之ヲ當選セシメ益々氣勢ヲ擧ゲタリ。一方地主ノ訴訟ニ對シ小作側ヨリ調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

六月十四日裁判所ニ調停委員會ヲ開キ各意見ヲ聽取シタルニ、小作側ハ我等ノ要求ハ一般地主ノ減免率ニ據ルモノニシテ最モ當然ノコトナリト信ズルガ故ニ讓歩ノ餘地ナシト主張シ、地主ハ小作側今回ノ要求ハ全ク多衆ヲ恃ム不當ノ要求ニシテ、七年度ハ非常ノ豐作ナル爲減免ノ理由ニ窮シタル結果農村不況ニ藉口シテ區内小地主等ヲ壓迫シ一割九分減ヲ承認セシメ之ヲ以テ一般並ノ減免率ト稱スルモ、コハ斷ジテ妥當ナル解決ニアラズ農民組合式ノ戰術ニ過ギザルヲ以テ此ノ如キ要求ニ應ズル能ハザルノミナラズ、小作側ガ新ニ農民組合ニ加入シテ結束ヲ固メ不當ノ要求ヲナスニ於テハ將來不安ニ

堪へザルモノアルヲ以テ、此ノ際土地ヲ返還セシメ小作關係ヲ斷ツニ如カザレバ徹底的ニ抗爭ヲ辭セズト主張シ、双方ノ態度強硬ナルモノアリ、委員會ハ互譲ヲ勸告シ尙續行スルコトトセリ。其ノ後委員會ヲ開クコト三回、小作側ハ其ノ都度多少ノ讓歩ノ色ヲ見セタルモ、地主強硬ニテ折衝進捗セズ、此ノ間地主ハ専ラ小作側ノ切り崩シヲ策シツツアリシガ、偶々九月二十四日ノ村會議員補缺選舉ニ際シ候補者問題ニ關シ小作側ニ内紛ヲ生ジ、之ヲ楔機トシテ小作人中ニハ私ニ地主ト款ヲ通ズルモノアリ漸次統制案レントシタルヲ以テ、小作側代表者ハ速ニ解決スルヲ得策ナリトシ潔ク調停委員ニ解決方ヲ一任セリ。依テ調停委員ハ區長其ノ他有志數名ノ協力ノ下ニ地主ト折衝ヲ試ミタルニ、既ニ小作側ノ裏ヲ見透シタル地主ハ反動的ニ一層硬化シテ其ノ斡旋ヲ一蹴シタリ。十月三日小作官ハ現地ニ出張シ區公會所ニ於テ双方ト會見シ折衝ヲ重ネタル結果、遂ニ圓滿解決ヲ見タルヲ以テ十月十一日ノ調停委員會ニ附シ左記條項ノ如ク調停成立セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 申立人等ノ從來小作シ來リタル相手方所有ノ別紙目録記載ノ土地ニ對スル昭和七年度ノ小作料ハ
 同目録記載ノ定額小作料ヨリ奈良縣生産検査丙上米納付者ニハ一割六分ヲ丙下米納付者ニハ一割四分ヲ格外米納付者ニハ一割ヲ夫々減額スルモノトス
- 二 前項ニヨル小作料ハ昭和八年末日限り申立人ヨリ相手方宅ニ持參納付スルモノトス
 但シ玄米ヲ以テ納付スルコト能ハサル時ハ一石ニ付金二十圓ヲ以テ換算シタル金額ヲ支拂フコトヲ
 得此ノ場合ノ減免率ハ一割二分トス
- 三 申立人ニ於テ前項ノ義務ヲ履行シタルトキハ相手方ハ申立人ニ對シ實納小作料一石ニ付金三十錢
 宛ヲ惠與スルモノトス
- 四 第一項掲記ノ土地ニ付テハ左記條項ニヨリ相手方ハ申立人ニ賃貸シ申立人ハ之ヲ賃借スルモノト
 ス
 - (イ) 契約期間ハ本調停成立ノ日ヨリ昭和十二年十一月末日迄トス
 - (ロ) 小作料ハ一箇年別紙目録記載ノ通りト定ム但シ本契約期間中ハ小作料ハ奈良縣生産検査丙上
 米ヲ標準トシ丙上米一石ニ付一斗五升宛減額ヲ爲スモノトス
 - (ハ) 小作料ノ支拂期日ハ毎年十二月末日ト定メ其ノ年度ノ生産米中奈良縣生産検査丙上米ヲ以テ
 賃借人ハ賃貸人宅へ持參支拂フコト
 若シ右玄米ヲ以テ支拂フコト能ハサル時ハ履行期ニ於ケル大阪中ノ島正米市場ノ大和米(三等米)
 價格ヨリ一石ニ付五十錢ヲ差引キタル價格ヲ以テ換算支拂フコトヲ得
 (ニ) 小作料ヲ丙上米無キタメ丙上米以外ノ玄米ニテ支拂フトキハ乙合格米ニ對シテハ一石ニ付一

斗七升、丙下米ニ對シテハ同一斗三升、格外米ニ對シテハ同一斗宛ノ減額ヲ爲スモノトス

(ホ) 本契約期間中賃借人ニ於テ天災其ノ他不可抗力ニ因リ著シク減收ノ虞アリト認メタル時ハ賃借人ハ立毛刈取十四日前ニ賃貸人ニ對シ檢見ノ申出ヲ爲スコト

右申出アリタル時ハ賃貸人ハ速ニ賃借人ト立會檢見ヲ爲シ減免率ノ協定ヲ爲スコト

若シ協議調ハサル時ハ當事者双方ハ立會ノ上坪刈ヲ爲シ其ノ結果反當リ豫想收量二石以上ナル時ハ規定通りノ小作料トシテ二石未滿ナル時ハ立毛ヲ折半ニ刈分スルモノトス

立毛刈分ノ場合ハ減免ハ一切無キモノトス

(ヘ) 賃借人カ前項ノ場合檢見ノ申出ヲ爲サスシテ立毛ノ刈取ニ着手シタル時ハ理由ノ如何ニ拘ラズ小作料ノ減額ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス

(ト) 賃借人ハ賃借權ヲ他人ニ讓渡シ又ハ賃借地ヲ轉貸シ若クハ耕作ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス

(チ) 賃借人ハ其ノ賃借スル田ニ付テハ賃貸人ノ承諾ヲ得スシテ勝手ニ變形シ又ハ稻以外ノ樹木其ノ他永年性ノ作物ヲ栽植スルコトヲ得ス

(リ) 契約期間中賃貸人カ賃貸地ヲ止ムヲ得ス自作若クハ賣却ノ場合ハ舊反別一反歩(通稱六十刈)ニ對シ金三十圓ノ割合ヲ以テ賃借人ニ惠與シ賃借人ハ此ノ場合異議ナク賃借地ヲ返還スルコト

但シ買受人ニ於テ其ノ儘賃借人ニ賃貸スルカ又ハ其ノ賃借人カ買受ケタル場合ハ賃貸人ハ惠與金ヲ爲サス

(ヌ) 契約期間中ニ於テ賃借人カ小作料ノ支拂ヲ怠リ其ノ他本契約ニ違背シタル場合ハ賃貸人ハ十日間ノ期間ヲ存シテ其ノ履行ヲ催告シ尙履行セサル時ハ本賃貸借契約ハ消滅ニ歸シ賃借人ハ賃借地ヲ返還スルコト

(ル) 賃借人カ契約期間中本條項ヲ履行シタル時ハ其ノ期間中ニ賃借人カ本契約ト同一條件ニ依リ契約繼續ヲ申出テタルトキハ賃貸人ハ之ヲ承認スルコト

(ヲ) 契約期間終了ト同時ニ賃借人ハ賃貸人ニ對シ異議ナク賃借地ヲ返還スルコト
此ノ場合返還ニ關シ何等ノ名義ヲ問ハス金錢物品ノ要求ヲ爲ササルコト

五 相手方ハ速ニ申立人西村某、小西某、竹田某、向山某ニ對シ曩ニ爲シタル動產假差押ノ解除手續ヲ爲スコト

六 相手方ハ速ニ本件ニ關スル民事訴訟ヲ取下ケルコト

七 本件ニ關スル訴訟及調停ニ要シタル費用ハ各自辨トス

四二 和歌山縣海草郡安原村 (作離料支給)

爭議發生 昭和八年七月十六日

調停申立 昭和八年八月二十九日
解 決 昭和八年十一月十四日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 三十七人
調停 地主 二人 小作人 三十七人(小作人申立)

關係土地 爭議 田 十五町六反八畝二十九步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

小作人ハ本件土地ヲ明治八年頃即チ現小作人祖父ノ代ヨリ引續キ小作セルモノニシテ、當時ハ茅茫々繁茂シ荒廢ニ等シク土地低ク常ニ浸水ヲ蒙リタル所ナリシガ、多年小作人ノ努力ニ依リ土地ヲ改良シタル爲、現今ニテハ浸水ノ害ヲ免ルルニ至レリ。而テ目下一反歩一箇年玄米一石ノ小作料ヲ毎年十二月末日限り支拂ノ約ニテ永久耕作ノ契約ヲ結ビタルモノナリ。然ルニ昭和六年十一月頃地主ハ該田地ヲ他ニ賣却セントスル噂ヲ耳ニスルヤ小作人等ハ驚愕シテ地主ヲ訪問シ事ノ眞否ヲ訊シタル處、當時地主ハ絶對ニ賣却スル意志ナキヲ以テ安心シテ耕作セヨ若シ今後賣却ノ必要ニ迫ラレタルトキハ必ず前以テ其ノ旨豫告スルコトヲ言明サレタリ。然ルニモ不拘地主ハ二箇年後ノ今日突如本件土地ヲ約定ニ背キ小作人へ無斷ニテ第三者ニ賣却シタルヲ以テ、多數ノ小作人ハ地主ノ背信的態度ニ憤慨シ、

代表者ヲ以テ屢々地主宅ヲ訪レ非行ヲ詰問スルト同時ニ作離料ノ要求ヲ提言セリ。

地主ハ家事ノ都合上直ニ賣却セザルベカラザル事情ニ迫ラレ小作人ニ豫告スル違ナク止ムヲ得ズ賣買ノ豫約ヲナシタルモ、耕作繼續ノ手配ヲナスニ付作離料支給ノ必要ナシト小作人ノ要求ヲ拒絕セリ。小作人ハ地主ノ言ヲ信ゼズ要求貫徹ノ爲再三交渉ヲ重ヌルモ、地主ハ言ヲ左右ニシ責任ヲ廻避シ不得要領ニ終リ何等ノ誠意ヲ認メザルニ付、小作人ハ痛ク激昂シ小作人大會、地主糾彈演說會等ヲ催シ社會ノ批判ニ訴ヘ地主ノ反省ヲ促サントシ、一面縣小作官ニ實情ヲ陳述シ救濟ヲ求メ一時ハ事態甚シク紛糾セルヲ以テ、小作官ハ一應實情ヲ調査シ、正式調停ノ申立ヲ當事者ニ勸告シ事件ノ解決ニ努メタリ。

(二) 調停ノ經過

小作人モ調停申立當時ハ地主ノ背信的行爲竝ニ傲慢ナル態度ニ對シ極度ニ憤慨シ、要求セル作離料六千五百圓(反當金四十圓乃至五十圓)ヲ地主ニ於テ支給セザル限り飽ク迄抗争セントスル意氣込ナリシガ、裁判所ニ於テ調停ノ準備中、地主ハ小作人ノ穩健ニシテ且秩序アル團體交渉ニ對シ自己ノ無責任ナル應對振リヲ自ら反省スル所アリテ、俄ニ態度ヲ一變シ地元ノ有志ヲ介シテ屢々妥協ヲ申込ミタルニ付、小作人モ之ニ應ジ再三折衝ノ結果作離料竝ニ耕作繼續等ニ付相當誠意ヲ示シタルヲ以テ、覺書ヲ作製スル程度ニ至レリ。

然レ共小作人トシテ本件土地ヲ買求メタル新所有者ニ對シ小作契約ヲ要望セル關係上、新舊地主ヲ相手方トシテ調停ヲ試ミタル處、最初ハ利害關係人(新地主)ト意見ノ衝突ヲ來タシ、調停困難ニ陥リタルヲ以テ續行シ當事者双方ノ熟考ヲ促シ、第二回ノ期日ニ於テ裁判所ハ極力斡旋ノ結果、双方ノ讓歩ニ依リ一時ハ事態ヲ憂慮シタル事件モ圓滿解決ヲ告ゲタリ。

抑々本件ハ表面ニ現ハレタル調停ノ經過極ク簡單ニ見受ケラルルモ、其ノ裏面ニ於テ小作人ハ農民組合ニ加入シ居リ而モ組合ハ其ノ機ニ乗ジ組織ヲ擴大セントシテ連絡ニ怠ラザル情勢ニアリ、而テ地主ニ於テモ亦辯護士其ノ他ノ應援者アリテ、相當事件ハ複雑深刻ヲ加ヘタルニ付、調停期日外ニ小作官ハ村長、駐在巡查ト連絡シ、當事者ノ感情融和竝ニ背景團體ノ關連ヲ防グ等充分ナル準備工作ヲ施シタル爲、二度ノ調停期日ニ於テ無事解決シタルモノナリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

一 申立人森某外三十六名ト相手方山崎某トノ間ノ本件作離料請求ハ當事者間ニ解決濟ナルコトヲ双方承認スルコト

二 利害關係人戸田某ハ申立人森某外三十六名ニ對シ別紙目錄記載ノ通り各土地ヲ其ノ記載ノ小作料ヲ以テ毎年十二月末日限リ海草郡紀三井寺驛前合同運送店ニ於テ支拂ノ定ニテ期限ヲ定メスシテ貸

賃スルコト

三 利害關係人ハ別紙目錄記載土地ノ一部ヲ第三者ニ賣却スル場合ハ先ツ申立人等ニ對シ賣却交渉シ價格ノ協定不調ノ爲申立人以外ノ者ニ賣却スルトキハ利害關係人ト申立人等トノ賃貸借契約ヲ承繼シ得ル者ニ對シ賣却スルコトヲ双方承認ス

四 利害關係人ハ申立人等ニ於テ小作料支拂ノ爲ニスル小作米引渡場所迄ノ運賃トシテ一俵ニ付米四合宛申立人等ニ對シ交付ヲ承認スルコト

五 申立人等ハ將來凶作ノ場合ハ利害關係人ニ對シ檢見ノ請求ヲ爲シ之ヲ終リタル後ニ非サレハ小作料ノ減免ヲ要求スルコトヲ得サルコト

利害關係人ハ申立人等ヨリ檢見ノ請求ヲ受ケタルトキハ必ス之ニ應スルコト

備 考

調停條項第一項ニ依ル解決内容

- 一 當事者相互多年ノ小作關係ニ付感謝ノ挨拶ヲ交スコト
- 二 地主ハ調停者ニ金一包(壹千圓)ヲ提供シ調停者ハ之ヲ本件解決ノ爲處分スルコトヲ承認ス
- 三 小作人ハ將來本件ニ關シ一切地主ニ要求セサルコト

四三 鳥取縣西伯郡成實村大字橋本 (小作料減額竝ニ分割支拂)

爭議發生 昭和八年五月十五日

調停申立 昭和八年五月二十三日
解 決 昭和八年六月二日

關係人員 爭議 地主 六人 小作人 三十一人
 調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 四町三反二十步
 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本係争地ハ水利ノ便ニ惠マレズ毎年降雨少ナキ時ハ稻ノ植付時期遅延シ之ニ反シテ植付後降雨多ケレバ直ニ水害ヲ蒙ルノ地所ニシテ、而モ小作人ハ一般ニ貧農ニシテ且元農民組合ノ某有力ナル幹部ノ訓練指導ヲ受ケタルト、一方地主ハ關係土地ノ管理ヲ山陰土地株式會社ニ委託シテ居ル等ノ爲賃貸料減額ニ對スル爭議ハ年々反覆スル狀況ナリ。

昭和五年度ハ植付當時旱魃ニテ植付遅延シ且秋期水害ヲ受ケタル爲、小作人側ハ五割減ヲ要求セシモ地主代理タル山陰土地株式會社之ニ應ゼザリシ爲小作人ハ約五割ノ内入ヲ爲シタリ。昭和六年度ハ水害、稻熱病ノ被害甚大ナリシ爲七割減ヲ要求セシモ之亦同會社ノ容ルル所トナラズ、七年度ハ稻熱病ノ爲小作人側ハ四割減ノ要求ヲナセシモ土地會社ノ容ルル所トナラザリシ爲、小作人側ハ前五、六、七年度ノ賃貸料ノ精算ヲ爲サズ且何等折衝モ重ネズ時日ヲ經過セシニ、昭和八年五月ニ至リ土地會社ハ未納小作料全額ノ一時支拂ノ請求ヲ爲シタルモ、小作人側ハ減額竝ニ分割支拂ヲ要求シ之ニ應ゼザリシヲ以テ、土地會社ハ小作人ニ支拂ノ誠意ナシトテ米子支部ニ對シ假處分(土地立入禁止)ノ申請ヲ爲シタリ。斯クテ此ノ事情ヲ察知シタル小作官ハ小作人ニ調停申立ヲ勸告セル處、小作人側ハ五月二十三日米子支部ニ調停申立ヲ爲スニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

小作人側ハ關係地主別ニ調停ノ申立ヲ爲シタルモ各其ノ申立ノ趣旨ハ同一ニシテ

- (イ) 小作料ヲ左ノ通り減額スルコト
- 五年度小作料ノ五割減額
- 六年度小作料ノ七割減額
- 七年度小作料ノ四割減額

(ロ) 支拂期日

右減額セル實納小作料ノ内既ニ内拂シタル小作料ノ殘額ヲ五箇年賦拂トスルコトナリシヲ以テ調停手續ハ各事件ヲ併合シ調停ヲ試ミルコトトセリ。而シテ第一回調停委員會ヲ五月二十六日爭議地ノ村役場ニ於テ開催シ左記條件ヲ提示双方ニ對シ折衝其ノ承諾ヲ得タリ。然ルニ小作人

別ノ支拂額算出ニ尙手數ヲ要スルヲ以テ、之ガ計算ヲ小作官ニ於テ六月一日米子區裁判所ニ於テ爲スコトトシ六月二日更メテ調停委員會ヲ開催スルモノトシテ散會セリ。

調停條件

一 支拂額

年次	減額率	内拂	支拂額	備考
五年	一割五分	五	三割五分	内拂五割ニ達セザルモノハ五割ト認メ計算スルコト
六年	四割		六割	
七年	一割五分		八割五分	此ノ割合ハ一ケ年小作料ニ對スルモノトス
計	七割	五割	十割	

二 支拂方法

(イ) 玄米 (五月三十一日限り) 一箇年貸貸料ノ四割

(ロ) 殘額 十四割 年賦拂表

支拂期限	殘額十割ニ對スル歩合	一ケ年宛口ニ對スル割合	備	考
昭和八年七月十日	一割六分六厘	二	換算金一俵六圓五〇錢	

支拂期限	減額率	内拂	支拂額	備考
昭和八年十月三十一日	一割六分七厘	二	一石當一六圓二五錢	
昭和九年七月十日	一割六分六厘	二		
昭和九年十月三十一日	一割六分七厘	二		
昭和十年七月十日	一割六分六厘	二		
昭和十年十月三十一日	一割六分八厘	二		
昭和十一年一月十日	一割六分六厘	二		
計	十一割六分六厘	十四		

三 支拂ニ關スル條件(省略)

併合調停ザレタル事件

小調番號	當事者		地積	一ケ年貸貸料	同上反當小作料
	地主	小作人			
七	一	九	一一・一〇二	一一・五四六	一〇・二二九
八	一	八	一一・八二八	一四・二二二	一〇・一〇三
八	一	二	一一・二二三	一・四九〇	一〇・二二八
八	一	七	一一・五二八	一四・二二九	一〇・二二七
八	一	一	一〇・二二一	一・二〇〇	一〇・二二一
八	一	四	五・一〇八	五・八四九	一〇・二四一
八	一	一	四三・〇二〇	四九・五三六	一〇・二五〇
計	六	三一			

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 別紙記載(第一表)ノ相手方ハ同表記載ノ地所ヲ同表記載ノ申立人ニ對シ引續キ耕作セシムルコト
 - 一 別表第一表記載ノ相手方ハ同表記載ノ申立人ニ對シ同表記載ノ地所ニ對スル小作料ヲ昭和五年度ハ一割五分同六年度ハ四割同七年度ハ一割五分各減額ス
 - 一 同上申立人ハ同上相手方ニ對シ右減額シタル昭和五年度ヨリ同七年度迄ノ小作料中別表第一表記載ノ元宛口ノ五割(昭和五年度分小作料)ヲ除外シ其ノ餘リヲ別表第二表記載ノ如ク米子市東町山陰土地株式會社内ニ於テ各支拂フコト
 - 右支拂ヲ支拂期限ヨリ二十日間過キ尙支拂ハサルトキハ相手方ハ催告解除等何等ノ意思表示ヲ爲サス右地所ヲ引上クルコトヲ得
 - 一 前示第二項ニ於テ除外シタル元宛口五割額ノ支拂方法ハ小作官下方ニ於テ調停スルコト
- 四四 島根縣能義郡赤江村大字東赤江字 福井區 別石區 (小作料減額、小作地讓渡)
- 爭議發生 昭和八年十月上旬
- 調停申立 昭和八年十月二十日 別石區
同 年十月二十三日 福井區

解 決 昭和九年六月二十二日

關係人員

爭議 地主 二人 小作人 七十六人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

田 四十二町六反九畝步

畑 十七町四反二畝步

宅地 二町六反一畝步

雜地 一町三反八畝步

關係土地

爭議

調停 右ニ同ジ

(一) 係争地ノ沿革

元來本件土地ハ其ノ大半ガ海岸ヲ埋立造成セル新田地ニシテ當初調停ニ係リタル際ニ於テ小作官ハ小作人側ニ於テ舊慣永小作權の權利ヲ保有スルニ非ザルカト考ヘタルモ調査シタル結果、其ノ事實ハ認め難キモ現状ノ土地ニ至ラシメタル大半ノ功ハ小作人ニ歸スベキモノナルコトヲ知リタリ。

即チ本件土地中現在海岸ニ近キ部分ハ僅少ナガラ沈下スルトノ評アリ、之ニ普通ノ管理ヲナストキハ到底現状ヲ維持スルコト困難ナル爲ニ小作人等ハ殆ンド他ノ副業ヲ顧ズ専ラ附近ノ川尻ヨリ砂ヲ運搬シ來リテ之ヲ田面ニ撒布シ其ノ地盤ヲ高カラシムルト同時ニ所謂「川ゴミ」ヲ搬入シテ肥料トナシ金

肥ノ不足ヲ補ヒ以テ現在相當ノ收穫ヲ舉ゲ赤江村内ニテモ優良ノ部ニ屬スル耕地ヲ造成シタリ。而シテ是等川砂、川ゴミ運搬ノ爲小作人ハ殆ンド毎戸運搬用ノ舟ヲ所有シ又灌溉排水溝ヲ兼テ舟入運河ヲ設ケアルノ状態ニシテ、土地ノ現狀維持乃至ハ改良ニ盡シタル小作人等ノ勞力ハ相當多大ナリト謂ハザルベカラズ。又歷代ノ土地所有者ニ於テモ當初少カラザル費用ヲ投入シテ造田セリト雖、尙現地主ハ小作人ノ勞力負擔ノ大ナルヲ認メテカ一般ニ小作料ハ相當低廉ニシテ見方ニヨリテハ小作人ノ勞力負擔ハ小作料低廉ノ故ヲ以テ相當部分補ハレツツアリト稱シ得ルナリ。其ノ結果關係部落ノ農家ノ經濟狀態ハ比較的良好ニシテ自作地ヲ所有スルモノ尠カラズ、其ノ多キモノニアリテハ五町歩以上ヲ所有シ地主兼小作ノ状態ニアルモノモ存ス。

抑々地主高橋某ハ縣下ニ於ケル有數ナル大地主ニシテ多額納稅議員タリシコトアリ、縣下各地ニ集團的ニ廣汎ナル地積ヲ所有シ當福井、別石兩部落ニ於テモ集團的ニ六十餘町歩ヲ所有シ、從テ別石部落ノ如キニ於テハ部落農家舉ツテ高橋家ノ小作人タルノ状態ナリ。斯ク本件土地ガ集團一括シテ現地主ノ所有ニ歸スルニ至リタル沿革ヲ見ルニ大要次ニ記スルガ如シ。

前述セル如ク關係土地ノ大半ハ海岸ヲ埋立造成セル新田地ナルガ、記錄ニヨレバ享保九年辰六月當時ノ清井村河津勝藏(下郡ト稱スル當時ノ郡役人)ナルモノ開墾ノ目的ヲ以テ與頭喜三郎、同大津右衛門ト共ニ海面ノ下渡ヲ講ケ墾十年七月ヨリ之ガ開墾ニ着手セリ。而シテ享保十二年未潤正月二十二日

ニハ物成諸役目永々御免ナル特典ヲ與ヘラレタリ。即チ「別石ニ御許容相成」リタリ。蓋シ現在ノ別石部落ナル名稱ハ之ヨリ出タルモノナルベシ。然レ共開墾事業容易ニ進涉セズ、遂ニ元文四年未十二月河津伊左衛門ノ時ニ至リテ關係面積全部ヲ仁多郡竹崎村ト藏孫三郎ニ賣却シ、右ト藏孫三郎ハ出身郡タル仁多方面ヨリ所謂開墾師ト稱スル勞働者ヲ伴ヒ來リ開墾事業ヲ進メタリシガ、天保十四年卯三月別石ノ内五分ノ一通リ(即チ一割)許リ上坂田村五右衛門ナルモノヲシテ開墾セシメ居リタル部分ヲ岡崎義之助ニ賣却シ、又一分通り(一割)許リ安來町赤崎屋重兵衛ヲシテ開墾セシメ居リタル部分ヲモ同ジク岡崎家ニ賣却セルガ、更ニ弘化二年巳九月ニハ別石公取高七分通り即チ残り全部ヲ岡崎家ニ賣却セリ。然ルニ其ノ後岡崎運兵衛氏ノ代ニ至リ同家ノ經濟整理ノ必要上豫テ資金ヲ借入レ居タル現地主高橋家ニ對シ(運兵衛氏ハ元々高橋家ヨリ岡崎家ニ養子トナリタル人ナリ)此ノ土地全部ヲ明治三十六年十二月一日明渡シタル結果翌明治三十七年分小作料ヨリ高橋家ニ收納スルコトトナレルモノナリ。要スルニ開墾ノ大部分ハト藏孫三郎ノ功ニ負フ處ナリト雖、其ノ後岡崎、高橋兩家ノ所有時代ニ於テ開墾セルモノモ其ノ面積狭小トセズ、大體ニ於テ現在ノ福井部落ニ於テハ新開地少ク俗ニ外代ヘ北ノ切新田及古川尻ト稱セラルルモノガ開墾後比較的經過年數淺シト雖尙今ヨリ約六十年以前ノ開發ニ係ルモノナルガ如シ。

之ニ反シ別石部落ニ於ケル土地中ニハ開發ノ年代ニ依リ一番ヨリ十四番ニ至ル番號ヲ以テ呼ビ、其

ノ番號ノ若キモノ程開發年代古ク岡崎家所有以來ノ開發ニ係ルモノハ大體十一番以下ノ土地ニシテ、十一番(二町一反一畝二十七步)ハ年代不詳ナルモ大體七十年位以前ノモノラシク、之ヲ除ケバ十二番(二町九反二畝二十六步)ハ明治十八年、十三番(二町二反九畝二步)ハ明治三十三年、十四番(二町八反九畝二十六步)ハ明治三十八年ノ開發ニ係ルモノトス。

而シテ現在ノ小作人ニ於テハ二、三代先ヨリ繼續シテ小作シ居ルモノアリト雖ト藏時代ノ開墾ニハ與ラザリシガ如シ。即チ前述セル如ク當時ノ開墾ニ要シタル勞力ハ主トシテ仁多郡地方ノ開墾師ト稱スルモノニ仰ギタル事實アルヲ以テナリ。但シ明治年代或ハ夫レ以前ノ開墾ニ係ルモノト雖比較的年代ノ新シキモノニ於テハ現在ノ小作人又ハ其ノ先代ガ開墾ニ要シタル勞力ヲ提供シタルコトハ明カナリ。然レ共當時海面ヲ埋立テ田地ニ造成スル迄ハ地主ニ於テ其ノ勞賃ヲ提供シ、其ノ後土地ヲ改良シテ熟田トナセシハ小作人ノ負擔トシ、其ノ補償トシテ地主ハ造田後三、四年間ハ無年貢トシテ小作人ニ耕作セシメ、其ノ後低廉ナル小作料ヲ徵スルニ至リタルモノニシテ之現在ニ於テモ小作料ノ比較的低廉ナルモノアル所以ナリ。

即チ小作料ノ變遷ノ跡ヲ觀ルニ大體ニ於テ當初ヨリ異動少ク唯明治三十六年岡崎家ヨリ高橋家ニ所有權名義ノ變更アリタル際ニ別石、福井兩部落ヲ通ジテ小作米百俵餘リ増額セラレ、又別石部落ノ十四番ハ土地良好トナリシ爲大正七年反當五斗(舊畝)ノ小作料ヲ七斗ニ値上ゲセラレタルノミニテ、其

ノ他ニ於テハ小作料値上ゲノ事實ナク又大正七年以來ノ水害ニ依リ別石部落ノ内代(一番)ノ堤防決潰シ裏作不可能トナリ又濕田トナリタル爲、其ノ部分ニ付テハ大正十四年舊斗代ニ應ジ反當一斗乃至二斗ヲ引下ゲ反當一石五斗(舊畝)位ノ小作料ヲ一石三斗位ト爲スニ至レリ。而シテ現在ニ於ケル小作料額ハ反當最高一石五斗(舊畝單位ナルヲ以テ新畝ニ換算セバ約一石三斗五升)最低五斗(新畝換算四斗五升)ニシテ福井、別石兩部落ヲ通ジテノ小作料ハ反當新畝八斗七升五合ナリ。之ヲ部落別田畑別ニ示セバ大體左表ノ如シ。

部落別	地目別		田	畑	宅	地	平均
	新	舊					
別石	畝	畝	九・八八	七・二六	一・一七	一〇・〇五	八・五七
	畝	畝	八・八九	六・四二	一〇・四七	一〇・四七	八・九四
福井	畝	畝	九・九七	九・六五	九・四二	九・四二	八・九四
	畝	畝	八・九七	八・六九	九・七六	九・七六	八・七三
平均	反當	新畝	八・九三	七・五六	九・七六	九・七六	八・七三

小作料ハ右ノ如ク比較的低廉ナリト雖年々小作人ヨリ檢見引ノ要求アリ、本件土地差配人松浦某ト高橋家ノ番頭ト双方檢見協議ノ上減免額ヲ發表シ、之ニ對シテ小作人ハ從來何ノ異議ヲモ唱ヘズ經過シ來リ能義郡ニ於テ爭議激甚ナリシ時代ト雖當二部落ニ於テハ嘗テ地主小作人間ニ紛議ヲ見ルコトナ

カリキ。

而シテ小作料減免額ヲ見ルニ高橋所有地(前記六十四町步餘)全部ヲ通ジテノ小作料約四百八十四石中昭和六年ノ減免額ハ檢見田二十九町六反五畝步(舊畝)ニ對シテ六十七石九斗餘、昭和七年ハ二十五町五反六畝餘步ノ檢見田ニ對シテ四十九石二斗餘ナリキ。畑地ニハ小作料減額ナシ。

小作料ノ納入成績ハ良好ニシテ大正十三年迄ハ未納者皆無ナリシガ、大正十三年能義郡地方一般ニ爭議ノ頻發スルニ至リテヨリハ其ノ影響ヲ受ケ、近來ハ多少ノ未納ヲ爲スモノアリト雖其ノ額ハ僅少ナルモノナリ。

(二) 爭議ノ概況

偶々昭和八年度稻作ハ概シテ豐作ナリシモ部分的ニハ旱害、風害及鹽害ヲ蒙リタルモノアルヲ以テ、兩部落約六十戸ノモノハ是等被害地ニ付地主ニ對シ檢見減額ヲ申出タルニ、地主高橋某ハ本件土地ハ一括シテ株式會社松江銀行ヨリノ借入金ノ擔保トシテ抵當權ノ設定アリ、負債償還困難ノ爲昭和八年中該土地全部ノ處分權ヲ松江銀行ニ一任シタルヲ以テ、昭和八年度以降ノ小作料ハ銀行ニ於テ收得スルコトナリ、從テ小作料ノ減免方ヲ地主ニ於テ決定スル權限ナキヲ以テ銀行側ト折衝スベシトナシ一應小作人ノ申出ヲ拒絶セリ。

仍テ小作人側ハ代表者ヲ以テ銀行ニ對シテ交渉シ銀行ニ於テハ檢見ノ結果小作料減免額ヲ發表セルモ、其ノ割合極メテ僅少ニシテ小作人側ノ承服スル所トナラズ、遂ニ小作官ニ其ノ調停方ヲ懇請シ來リタリ。

小作官ニ於テハ關係地積廣汎ナルト地主側ガ銀行ニシテ此ノ種事件ノ和解ヲ好マザル傾向アリ、相當強硬ナル態度ニ出ヅベク察知セラレタルト本件土地差配人タリシ松浦某ガ其ノ任ヲ辭スルニ至リタル等事件解決上相當手數ヲ要スベク豫想セラレタルヲ以テ、事件ヲ小作調停法ヘ移スヲ好都合ト認メ小作人ニ對シテ小作調停ノ申立ヲ爲ス様慫慂シタル結果前記期日ニ調停ノ申立ヲナシタリ。

(三) 調停ノ經過

調停ノ申立ニ對シ時恰モ早中稻刈取期切迫セル折柄トテ裁判所ノ意見ニ依リ赤江村農會技術員ヲ鑑定人トシテ數日ニ互リ立毛ノ鑑定ヲ行ヒタルニ、銀行側ノ減免額ハ過小ニシテ尙相當減免ヲ要スルモノト認メ銀行ニ對シ交渉中偶々銀行ニ於テハ右土地ヲ賣却處分シタキ意嚮アリ、又小作人側ニ於テモ土地價格如何ニヨリテハ之ヲ購入シタキ氣分アルヲ知リタルヲ以テ、一應減免ニ關スル調停ハ之ヲ中止シ土地ノ賣買ニ付テ調停スルコトトシ、小作人側ヨリ更ニ土地賣買調停ノ追加申立ヲナサシムルト共ニ、銀行ニ對シテモ之ヲ勸說承諾ヲ得テ該土地ヲ當分他ニ賣却セザルコトトシ、賣買調停ヲ進メントスルモ如何ニセン小作人側ニハ土地購入資金ノ調達付カズ、依而銀行ハ全部ノ土地ヲ買受タルトキハ特ニ年六分ノ利率ヲ以テ資金ノ貸付ヲ爲ス旨申出タルモ、小作人ハ之ガ償還ニ付將來困難ヲ豫想シ

テ難色アリ、サリトテ土地ガ一度他ノ所有ニ移ラムカ祖先以來丹精シ來レル小作地ヲ手ニ入ルルノ機會ヲ逸スルノミナラズ、現在小作料ノ低廉ナル部分ニ付テハ新地主ハ必ズヤ小作料値上ノ擧ニ出ヅベク小作人トシテモ之ヲ阻止シ得ザルコトヲ豫想シ、充分土地購入ノ希望ヲ有シナガラ其ノ買取ニ付衆議一決スルニ至ラズ、結局何等カ適當ノ資金ナキヤ小作官ニ訊シ來レリ。依而小作官ハ自作農創設資金ノ融通ヲナスヲ以テ最モ適切ナリトシ資金ノ融通ヲ爲スヲ前提條件トシテ調停ヲ進メ、此ノ間資金ニ對スル了解ヲ得セシムル爲ニ自作農施設ニ對スル講演會ヲ開キ百方其ノ對策ヲ講ジタリ。

然レ共小作人中相當土地ヲ所有スルモノハ自作農資金ノ恩惠ニ預ルヲ得ズ、而モ當初共同一致ノ態度ヲ以テ進ムコトトナリ居タル福井、別石兩部落間ニ於テハ其後次第ニ意見ヲ異ニスルト同時ニ同一部落内ニ於テモ自作農資金ヲ借入レ得ル資格者ト然ラザルモノトノ間ニ稍々對立的傾向ヲ生ジタリ。即チ福井部落ニ於ケル高橋所有地ハ二十餘町歩ニシテ小作人ハ單ニ高橋ノミノ小作人ニ在ラズ、多少他地主ノ小作地モアル爲ニ土地價格ノ多少ノ高下ハサシテ苦痛トスルニ足ラザルニ反シ、別石部落四十餘町歩ノ土地ハ全部一括シテ高橋所有ニ係リ同部落人ハ擧ツテ而モ完全ナル高橋ノミノ小作人ナレバ、其ノ土地價格ノ高下ハ少カラザル影響ヲ與フルモノナル爲ニ、買受値段ニ對スル態度比較的強硬ニシテ議容易ニ纏ラズ。

又自作農資金借入資格者ハ比較的有利ナル條件ヲ以テ土地ヲ購入シ得ルニヨリ許ス範圍内ニ於テ成ルベク多クノ小作地ヲ買ハムトスルニ反シ、然ラザルモノハ自己資金或ハ高利ナル資金ニ依リ購入スルノミナラズ各種税金免除ノ特點ナク、結局自作農資金借入資格者ニ比シテ相當負擔大ナル爲ニ價格ノ低廉ニシテ有利ナル部分ノ土地ノミヲ購入セムトシ、斯ノ如キ意見ノ相違ハ從來圓滿ナリシ部落關係ニスラ惡影響ヲ與ヘムトスルニ至レリ。

茲ニ於テ小作官ハ福井、別石兩部落ヲ別個ニ分割シテ調停スルヲ可ナリト認メ、先ヅ土地買受希望強シト認メラル福井部落ニ付テ交渉ヲ進ムルコトトシ、小作人間ノ一致ヲ計リツツ先ヅ第一段トシテ反當平均二百四十圓ノ田圃約七町餘歩ヲ集團的ニ買取ラシムルコトトセリ。然ルニ其後小作人子弟ニ於テ何レ土地購入後ノ責任ハ自己等ニ在リ自分等ニ於テ耕作ニ精勵セバ土地ノ維持可能ナリトノ更生的意氣ニ燃エ、中ニハ相當ノ大酒家ガ斷然禁酒スルモノモ生ジ結局部落内全部ノ土地ヲ購入スベク調停セラレタシト申出デタリ。依而小作官ハ銀行側ノ讓歩ヲ求メ結局面積約二十二町餘歩ヲ反當平均二百六十圓總額五萬五千五百圓ヲ以テ賣買ノ成立ヲ見タリ。而シテ自作農資金ノ融通ヲ仰ギ得ルモノノ外ハ自己資金ニ依ルカ或ハ銀行其ノ他ヨリ資金ノ供給ヲ仰グコトトナレリ。

他方別石部落ニ於テハ約三十戸ノ部落ニ於テ四十餘町歩ノ土地ヲ引受クルコトハ到底困難ナルモ、サリトテ自己ノ希望地ノミ購入スルトキハ土地ガ分散シテ價格ヲ低廉ナラシムル上ニ於テ不利尠カラ

ザルノミナラズ、部落内ノ平和ヲ破ル結果トモナル爲屢々會合シタル結果宅地ノ全部、畑地ノ全部及田圃中ニテモ土地價格安ク小作料低ク而モ將來改善ノ餘地多キ土地ヲ區域的ニ纏メテ購入スルコトニ議決シ、其ノ結果銀行ト交渉セル處銀行ニ於テモ讓歩スル處アリ、結局二十一町餘歩ヲ反當平均約二百四十圓總額五萬九百圓ヲ以テ購入スルコトナレリ。

而シテ立稻ニ對スル檢見減額量ニ付テハ銀行ニ於テモ晚稻ノ檢見ハ勿論早中稻ノ檢見額ニ付相當小作人側ノ意見ヲ入レ減額シタルモ、尙相當ノ懸隔アリシガ土地ノ大部分ヲ購入スルコトナレル結果小作人側モ銀行ノ申出額ヲ承諾スルトコトナレリ。

前記ノ如ク兩部落ニ於テ購入シタル反別四十四町餘歩ニ對スル總額金十一萬七千餘圓ノ申出額ヲ金十萬六千四百圓ニ減額購入スルコトナリ、内自作農資金ニ依ルモノ金六萬四千百十四圓六十五錢ハ主務省ヨリ特別配當ヲ受ケ七月早々交付スルコトナレルガ、此ノ間小作官ニ於テハ現地調査銀行トノ價格ノ協定及購入地ニ於ケル價格ノ決定竝ニ購入者ノ意見ノ一致ヲ圖ル等ノ爲數十日ヲ費シタルノ外、調停會ヲ開會スルコト前後五回遂ニ昭和九年六月二十二日兩部落共別記條項ニ依リ調停成立セリ。

(四) 結

末

調停條項

(別石分)

一 申立人松浦某外十七名ハ共同シテ自作農創設維持資金ニヨリ能義郡赤江村大字東赤江別石部落所在ノ

田 七町二反八畝六步

畑 四町八畝十一歩

宅地 二千六百四十九坪二勺四才

ヲ代金二萬七千三百六十九圓二十錢ニテ

申立人瀬尾某外二十二名ハ共同シテ自己資金ニヨリ前同所々在ノ

田 四町八反五畝八歩

畑 三町七反六畝歩

宅地 三千三百四十八坪七合六勺

ヲ代金二萬三千五百三十圓八十錢ニテ

申立人松浦某外七名ハ共同シテ自作農創設維持資金ニヨリ

同郡同村大字福井部落所在ノ

田 七反七畝二十四歩

畑 四反九畝十三歩

ヲ代金三千百五圓六十八錢ニテ

申立人岩崎某外一名ハ共同シテ自己資金ニ依リ前同所々在

田 一反三畝十一歩

畑 三畝二十五歩

ヲ代金四百三十四圓四十九錢ニテ

相手方銀行ヨリ買受ケ相手方銀行ハ右土地ニ現存スル抵當權設定登記ヲ抹消シテ申立人ニ所有權移轉登記ヲ爲スコト

右賣買土地及代金等ノ内容ハ別表(略)記載ノ通りトス相手方高橋某ハ右當事者間ノ賣買契約ヲ承認スルコト

二 申立人ハ前項代金額ニ對シ其ノ代金支拂迄昭和九年一月一日ヨリ年六分ノ割合ニ依ル利息ヲ附スルコト

三 申立人ハ第一項ノ買受代金ノ一割ヲ昭和九年三月二十日支拂ヲ了シタリ殘代金ハ賣買ニ依ル所有權移轉登記ト同時ニ支拂フコト其ノ登記申請手續ハ昭和九年七月末日迄ニ之ヲ爲スコト

四 賣買代金ヲ相手方銀行ヨリ借入ルルモノハ其ノ借入金ニ付連帶ノ借用證書ヲ差入ルルコト此ノ金額ニ付テハ年六分ノ利息ヲ附シ昭和十二年三月末日限り辨濟スルコト此ノ借入金ニ付テハ申立人ノ

本件買受土地ノ上ニ抵當權ヲ設定スルコト

五 賣買登記迄ニ代金ノ内一部ヲ支拂ヒ一部ヲ銀行ヨリ借受ケタルトキハ本件買受土地ノ内其ノ借受金額ニ相當スル不動産ニ就キ抵當權ヲ設定スルコト

六 買受代金ノ半額以上ヲ辨濟シタルモノニ對シテハ其ノ辨濟金額ノ八割ニ相當スル抵當權ヲ抹消スルコト

七 昭和八年度小作料ハ申立人ノ所得トスルコト

八 登記費用、分筆費用ハ申立人ノ負擔トス但シ抵當權抹消ニ要スル費用ハ銀行ノ負擔トス

九 賣買登記迄ノ地租地租附加稅戸數割農會費ハ申立人ノ負擔トス

一〇 昭和九年一月以降第一項ノ不動産ニ付銀行カ既ニ支拂ヒタル公租公課ハ買主ニ於テ代償スルコト

一一 代金支拂期日ニ代金ヲ支拂ハス若ハ借用證書ヲ差入レサルトキハ申立人ヨリ既ニ支拂ヒタル一割ノ金額ヲ銀行ニ於テ沒收シ且申立人ハ代金支拂期日迄年六分ノ金利ヲ支拂フコトトシ不履行ト同時ニ當然賣買契約ヲ解除スルコト

右以外ニハ買主ハ損害賠償ノ責ニ任セス

調 停 條 項 (福井分)

一 申立人渡部某外十六名ハ共同シテ自作農創設維持資金ニヨリ能義郡赤江村大字東赤江福井部落所
在ノ

田 八町五反七畝八步

畑 三町八反六畝二十二步

一宅地 五反一畝三勺五才

ヲ代金三萬三千六百三十九圓七十七錢ニテ

申立人小笹某外二十三名ハ共同シテ自己資金ニ依リ右同所々在

田 二町四反五步

畑 五町二反一畝十二步

宅地 六畝二步

ヲ代金一萬八千三百二十圓六錢

ニテ相手方銀行ヨリ買受ケ相手方銀行ハ右土地ニ現存スル抵當權設定登記ヲ抹消シテ買主(申立人)

ニ所有權移轉登記ヲ爲スコト

右賣買土地代金等ノ内容ハ別表(略)記載ノ通りトス相手方高橋某ハ右當事者間ノ賣買契約ヲ承認ス

ルコト

二 申立人ハ前項代金額ニ對シ其ノ代金支拂迄昭和九年一月一日ヨリ年六分ノ割合ニ依ル利息ヲ附ス
ルコト

三 申立人ハ第一項ノ買受代金ノ内一割ヲ昭和九年三月二十日支拂ヲ了シタリ殘代金ハ賣買ニ依ル所
有權移轉登記ト同時ニ支拂フコト

其ノ登記申請手續ハ昭和九年七月末日迄ニ之ヲ爲スコト

四 賣買代金ヲ相手方銀行ヨリ借入ルモノハ其ノ借入金ニ就キ連帶ノ借用證書ヲ差入ルルコト此ノ
金額ニ付テハ年六分ノ利息ヲ附シ昭和十一年三月末日限り辨濟スルコト

此ノ借受金ニ就テハ申立人ノ本件買受土地ノ上ニ抵當權ヲ設定スルコト

但シ別表ニ依ル自己ノ負擔部分ノ金額ヲ辨濟シタルモノニ對シテハ連帶ヲ免除シ負擔部分ノ三割以
上ノ金額ヲ辨濟シタルモノニシテ其ノ殘金債務ニ付相手方銀行ノ承認ヲ得タル保證人ヲ立テタルモ
ノニ對シテハ銀行ハ其ノ者ニ連帶ノ免除ヲ爲スコト

尙買受代金ノ半額以上辨濟シタルモノニ對シテハ其ノ辨濟金額ノ八割ニ相當スル抵當不動産ニ對ス
ル抵當權ヲ抹消スルコト

五 昭和八年度小作料ハ申立人ノ所得トスルコト

六 登記費用分筆費用ハ申立人ノ負擔トス但シ抵當權抹消ニ要スル費用ハ銀行ノ負擔トス

- 七 賣買登記迄ノ地租地租附加稅戸數割農會費ハ申立人ノ負擔トス
 - 八 昭和九年一月以降第一項ノ不動産ニ付銀行カ既ニ支拂ヒタル公租公課ハ買主ニ於テ代償スルコト
 - 九 買受代金支拂期日ニ代金ヲ支拂ハス若ハ借用證書ヲ差入レサルトキハ申立人ヨリ既ニ支拂ヒタル一割ノ金額ヲ銀行ニ於テ沒收シ且ツ申立人ハ代金支拂期日迄年六分ノ金利ヲ支拂フコトトシ不履行ト同時ニ當然賣買契約ヲ解除スルコト
- 右以外ニハ買主ハ損害賠償ノ責ニ任セス

四五 岡山縣上道郡富山村大字海吉 (小作料永久減額)

爭議發生 昭和八年二月上旬
 調停申立 昭和八年六月七日
 七月五日
 解決 昭和八年十一月七日

爭議 地主 二十一人 小作人 五十四人
 調停 右ニ同ジ(小作人申立)

田 三十三町三反九畝二十二步
 畑 四畝二十一步
 宅地 二百五十一坪

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

小作人等ハ永年本件土地ヲ小作中ノ處近時農村經濟不況著シキ爲、地主ハ地租法ノ改正ニヨリテ一部救濟セララルルニ不拘本件土地ノ小作料ハ反當一石七斗五升ノ高率ニシテ、到底斯ノ如キ高率小作料ニテハ生計樹タザルヲ以テ昭和七年度以降小作料ノ永久減額方交渉セシモ、示談成立セザリシニヨリ小作人等ハ全農縣聯ノ應援ヲ受ケ同幹部ノ指導下ニ小作料反當一石七斗五升ノモノハ反當一石一斗ニ、其ノ他ノ田地ハ之ト同率ノ割合ニヨリ永久減額セラレタシト要求シタルニ、地主ハ何等具體的案ヲ提示セズ回答ヲ遷延シタルヲ以テ、小作人等ハ同年度小作料ノ共同保管ヲナシ全額不納ノ儘對抗中ノ處、地主ハ下方ニ於テハ解決困難ナルヲ悟リ遂ニ調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

地主側ヨリ調停ノ申立アルヤ爭議地又ハ岡山地方裁判所等ニ於テ屢々調停委員會ヲ開キ極力調停ニ努メタルモ、双方ノ主張強硬ニシテ容易ニ解決セズ一時調停決裂ノ状態トナリタリ。茲ニ於テ小作人等ハ隣接農民組合支部ヲ糾合シテ大衆的直接行動ニヨリ要求ヲ貫徹セントシタルニ、一方地主ハ申立ヲ取下ダ訴訟ヲ提起セントスルノ氣運漲ルニ至リタルヲ以テ、調停官ハ事態益々惡化スルヲ憂慮シ引

續キ調停委員會ヲ開キ種々調停ニ努メタル結果、昭和八年十一月七日左記調停條項ニヨリ調停成立シ
圓滿解決シタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

第一 申立人ハ相手方ニ對シ夫々別表土地目錄記載ノ土地ヲ同表掲記ノ小作料ヨリ左ノ方法ニテ減額
シタル小作料ニテ賃貸小作セシムルモノトス

同表掲記ノ小作料額ヨリ各一割四分ヲ減額ス、尙右減額ノ外反當小作料一石五斗以上一石七斗未滿
ノモノニ付テハ一石五斗ヲ超過スル額ノ三割ヲ、同一石七斗以上ノ土地ヲ甲乙ノ字ニ區別シ甲字
ニ付テハ一石五斗ヲ超過スル額ノ三割、乙字ニ付テハ同四割ヲ各増加減額シタルモノヲ以テ小作料
トス

但シ反當小作料一石六斗七升以上一石七斗未滿ノモノニ付テハ同一石七斗ノ乙ニ從ヒ小作料額ヲ算
定スルモノトス

- 一 甲字ハ三反田、八反田、上濱田、猫神、上金田、下濱田、川田、中島、下川田、五反田、十九、
- 一 丁田(内地)、金常、入給、下田代、上田代トス
- 一 其ノ他ヲ乙字トス

第二 相手方ハ申立人ニ對シ昭和七年度小作料ハ右第一ニヨリ算定シタル小作料額トシ小作料ノ反當
一石一斗ヲ石十九圓二十錢ニ換算シ昭和八年十一月三十日迄ニ支拂ヒ殘額ハ米納ニテ昭和九年一月
二十日迄ニ支拂フモノトス。尙米納ノ部分ニ對シテハ第三ノ(ロ)ニ定メタル產米改良獎勵米ヲ交付
スルモノトス

但シ相手方ノ内江浦某、楠見某、湯淺甲某、湯淺乙某、石井甲某、湯淺丙某、内田某、石井乙某ハ
右殘額ヲ二分シ其ノ一宛ヲ昭和九年及同十年ノ各一月二十日迄ニ支拂フモノトス
若シ右支拂ヲ一回ニテモ怠リタルトキハ期限ノ利益ヲ失ヒ一時ニ全額ノ請求ヲ受クルモ相手方ニ於
テ異議ナキモノトス

右ノ場合申立人ハ相手ニ對シ換算金額ニテ其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得
右換算金額ハ支拂遲怠ノ日ヨリ遡リ以前十日間ノ上道郡富山村ニ於ケル生産検査合格米小粒丙(生
産検査等級)ノ平均價格ヲ基礎トシ岡山縣勤務地方小作官ノ定メタル額トス

第三 申立人ト相手方トノ別表記載ノ土地ニ對スル昭和八年度ヨリ昭和十二年度ニ至ル五箇年間左ノ
通り協定ス

(イ) 相手方ハ申立人ニ對シ小作料トシテ第一ニ依リ算定シタル額ヲ每翌年一月二十日迄ニ申立人
宅ニ持參シテ支拂フモノトス

(ロ) 申立人ハ相手方カ生産検査合格米ヲ以テ小作料ヲ支拂ヒタルトキハ小作料一俵(四斗入)ニ付
キ左ノ産米改良獎勵米ヲ交付スルモノトス。但シ一俵ニ充タサル端米ニ對シテハ之ヲ交付セス
生産検査等級 獎勵米數量

第三 申立人 甲 一升五合八分
乙 二升五合
丙 一升五合

(ハ) 相手方ハ天災地變其他不可抗力ニ依ル減收ヲ來シタル場合ノ外小作料ノ減免請求ヲナスコト
ヲ得ス

(ニ) 相手方ハ前項ニ依リ小作料ノ減免ヲ請求セントスルトキハ稻刈取前十五日ノ期日ヲ存シ申立
人ニ對シ檢見ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス

(ホ) 申立人ハ前項ニヨリ相手方ヨリ檢見ノ申出アリタルトキハ申立人ハ時期ヲ失セス檢見ヲナシ
當事者間ニ於テ小作料額ヲ協定スルモノトス

(ヘ) 右協定調ハサルカ又ハ申立人ニ於テ相手方ノ檢見ノ申出ニ應セサル場合ハ申立人及相手方ヨ
リ各自三名ノ委員ヲ選ヒ之ニ岡山縣勤務地方小作官ヲ加ヘタル委員會ニ於テ檢見ノ必要ノ有無及
其ノ小作料額ヲ多數決ニテ決定シ双方ハ之ニ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトス

(ト) 相手方カ右(ニ)、(ホ)ノ各項ニ定メタル檢見ヲ經スシテ稻ノ刈取りヲ爲シタル場合ハ收穫ノ
如何ニ拘ラス小作料ノ減免ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

(チ) 申立人ハ相手方ニ對シ若シ相手方カ支拂期日迄ニ小作料ノ支拂ヲ爲ササルトキハ換算金額ニ
テ其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

右換算金額ハ毎年一月十一日ヨリ同月二十日ニ至ル十日間ノ上道郡富山村ニ於ケル生産検査合格
米小粒丙(生産検査等級)ノ平均價格ヲ基礎トシ岡山縣勤務地方小作官ノ定メタル額トス

(別表省略)

四六 廣島縣比婆郡八幡村大字川島 (小作地買受又ハ小作繼續)

爭議發生 昭和八年三月九日

調停申立 昭和八年三月九日

調停人決 昭和八年三月二十五日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人
調停 右ニ同シ(利害關係人五人)(小作人申立)

田 二反九畝二十一步

關係土地 爭議 畑 三畝二十二步

調停

右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

地主横路某ハ家政整理ノ爲本件土地其ノ他多數ノ不動産ヲ一括賣却スル爲昭和六年五月三十一日本件參加人的川某トノ間ニ賣却ノ契約書ヲ交換シ、的川某ハ之ヲ區分賣却ノ方針ヲ定メ本件土地ハ小作人藤本某へ賣却ノ口約ヲ爲シ、小作人ハ昭和六年六月十日限り之カ代金ヲ支拂フコトトシタルモ本件以外ノ土地ハ賣買成立セス、申立人ハ自作農創設資金ヲ借受ケ之ヲ買取ル豫定ニテ同村役場へ申請中ノ處、地主ハ本件土地ヲ區分シテ抵當權ヲ抹消スルノ手續履行不可能ノ爲期日迄ニ賣買契約ヲ實行セス期限ヲ經過シ、地主ハ的川某ガ所定ノ期日迄ニ賣却爲サザリシ事實ヲ以テ契約ハ當然無効ナリトシ、新ニ地主ノ財産整理委員タル本件利益關係參加人三人ハ第三者ヨリ買受希望ヲ申出デタル者ニ故意ニ昭和七年十二月賣却ノ契約ヲ締結シタルニ依リ、小作人ハ買受希望ヲ申立タルモ地主ハ之ヲ拒絕シ土地引上ヲ通告シタルニ因リ、左記趣旨ノ調停ヲ昭和八年三月廣島地方裁判所三次支部ニ申立テタリ。

- 一 地主ハ本件土地ヲ賣却スルニ於テハ當初ノ契約通小作人ニ賣却スルコト
- 二 本件土地ヲ賣却セザルトキハ從前通申立人ニ永久小作ヲ繼續セシメルコト

(二) 調停ノ經過

地方小作官ハ實情調査ヲ爲シタル結果本件土地ハ小作人ガ嘗テ耕作シタルモノナレ共、最近ハ他人ニ又小作セシメ居リ地主トノ關係ハ差配人同様ノ間柄ニ在リ、新ニ買受契約ヲ爲シタル者ハ本件ノ又小作人タルコトノ事實竝ニ當事者間ニ於ケル賣買契約ハ抵當債務ノ解消ヲ爲ス見込ナキモノニシテ債權銀行ガ區分賣却ニ應ズル價格ニ充タズ、又地主ヨリ現金補充ノ途モ無ク所有權移轉登記ノ實現覺束ナキ事情ニ在リテ家産整理委員三人及右委員ヨリ本件土地買受契約ヲ爲シタル者竝ニ最初申立人トノ賣買契約ヲ爲シタル的川某ノ五名ヲ利害關係人トシテ參加ヲ要求シ、抵當權抹消ノ場合整理委員ニ相當ノ責任ヲ負擔セシムルニ非ザレバ債權銀行ハ到底此ノ賣買代金ノミヲ以テシテハ本件土地ノミ區分シテ賣却ニ同意スルコト至難ノ事情ニアリ、然ラザレバ本件ノ解決困難ノ事情ヲ知り之等五名ヲ參加セシメ大體ノ成案ヲ得タルヲ以テ三月二十五日裁判所ノ調停ヲ要求シ左記ノ通解決シタリ。

(三) 結 末

一 相手方(地主)ハ參加人的川某ニ對シ同人トノ間ニ昭和六年五月三十一日爲シタル賣買契約中未記
 甲不動産ニ付テハ無條件ヲ以テ賣買契約ヲ解除センコトヲ求メ參加人的川某ハ無條件ヲ以テ之ヲ承
 諾シ双方共將來何等ノ異議ヲ述ヘサルコト

二 相手方(地主)ハ參加人清水某ニ對シ同人トノ間ニ昭和七年十二月三十日爲シタル賣買契約中末記乙不動産ニ付テハ無條件ヲ以テ賣買契約ヲ解除センコトヲ求メ參加人清水某ハ無條件ヲ以テ之ヲ承諾シ双方將來何等ノ異議ヲ述ヘサルコト 但シ相手方(地主)ハ參加人清水某トノ間ニ於テ同日付別口ヲ以テ賣買契約ヲ爲シタル末記丙記載ノ不動産賣買代金一千五百六十圓ヲ金一千百五十圓ニ減額スルコトヲ承諾ス

三 相手方(地主)ハ前二項ニ依リ參加人的川某、清水某トノ間ニ賣買契約ヲ解除シ同人等トノ無關係トナリタル末記丁記載ノ不動産ヲ申立人(小作人)ノ求メニ依リ代金一千百圓ヲ以テ同人ニ賣渡スコトヲ約シ小作人ハ之ヲ買受タルコト

四 前項ノ不動産ニ付テハ已ニ相手方ノ先代ニ於テ株式會社廣島縣農工銀行ヨリノ借入金債務竝ニ藤原某ヨリノ借入金債務ニ付各抵當權ヲ設定シ居ルヲ以テ相手方(地主)ハ其ノ抵當權ヲ消滅セシメ何等負擔ナキモノトシテ之ヲ申立人(小作人)ニ賣渡スヘキモノトス

五 若シ相手方(地主)カ右抵當權消滅ノ義務ヲ盡ササルトキハ參加人内藤某、河村某、磯川某ノ三名ハ連帶シテ地主ニ代リ之カ消滅ヲ爲サシムル義務ヲ負擔ス

六 前記第三項記載ノ申立人(小作人)相手方(地主)間ニ於ケル賣買代金ノ支拂抵當權登記ノ抹消登記手續及所有權移轉登記手續ノ申請ハ昭和八年四月二十日迄ニ庄原區裁判所東城出張所ニ二名出頭シ

代金ノ授受其ノ他ノ手續ヲ爲スヘキモノトス此ノ場合ニ於テ申立人(小作人)カ代金ノ支拂ヲ爲ササルトキハ前記第三項ノ賣買契約ハ當然其ノ效力ヲ失フト共ニ小作人ハ違約金トシテ金四百圓ヲ相手方(地主)ニ支拂フヘキモノトス

七 申立人(小作人)ニ於テ必要アルトキハ前項ノ日以前ニ於テモ買受土地ノ使用ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス

八 本調停事項ハ總テノ事項ヲ申立人相手方及參加人共何レモ之ヲ了知シ將來何人ニ對シテモ此ノ條項ニ反スル主張ヲ爲ササルモノトス

四七 山口縣豊浦郡川棚村字高野 (小作繼續)

爭議發生 昭和八年十月二十一日

調停申立 昭和八年十一月二十四日

解決 昭和八年十二月二十四日

爭議	地主 一人	小作人 一人
調停	右ニ同ジ(小作人申立)	
爭議	田 五反七畝十五步	
調停	右ニ同ジ	

(一) 爭議ノ概況

地主ハ本縣及兵庫縣ニ於テ十七年間小學校教員ヲ務メ昭和六年退職シテ歸郷セリ。歸郷後ハ悠々自適田園ヲ友トシテ過サンモノト其ノ所有田地一町六反歩ヲ引上ゲ農業ニ從事シタル處、豫期ニ反シ缺損ノ状態トナリタルヲ以テ一箇年ニテ廢止シ、昭和八年度ヨリ再ビ之ヲ小作ニ附セントシ大石某ニ小作人ノ物色方ヲ依頼セリ。仍テ大石某ハ自分ノ心當リノ者ニ交渉シタル所現小作人梶山某之ヲ希望シタルヲ以テ同人ト打連レテ地主ヲ訪問シテ小作方ヲ依頼セリ。地主ハ之ヲ承諾シ小作地ノ近クニアル住宅ヲ無料ニテ貸與シ其ノ田地ヲ小作セシムル事トセリ。

仍テ梶山某ハ宇賀村ニ在ル自己ノ家屋竝ニ小作地ヲ夫々處分シ同年四月八日家族ト共ニ家財道具ヲ取纏メテ地主ノ貸家ニ引越シ農業ノ準備ニ取掛レリ。一方地主室田某ノ亡父ハ常ニ郷民ト喧嘩爭鬪ヲ好ミ農民ノ無智ニ乘ジ訴訟ヲ提起シテ抗爭ヲナシタル事モ數回アリ。夫レガ爲部落民ハ常ニ惡感ヲ抱キ居レル折柄現地主ニ於テモ其ノ性行ヲ繼グル如ク認メ同人ニ對シテモ常ニ警戒ノ状態ニアリ、愈々插秧期モ近付ケルヲ以テ小作人ハ當初約束セル田一町二反歩貸與サルルヤ否ヤニ付テ地主ニ交渉シタルニ、地主ハ取り敢ヘズ田六反餘畝歩ヲ試作スベキ旨回答シタルヲ以テ、小作人ハ豫期ニ反セルニ甚シク驚キ茲ニ双方ノ感情ハ惡化ノ傾向ニ進ミタリ。斯クシテ六月頃トナリ地主ハ小作契約證書ヲ作成

シ保證人ヲ選定ノ上之ニ捺印方ヲ申込ミ來レルニ、其ノ契約書中承服シ難キ條項アリタルヲ以テ小作人ハ之ニ捺印スルコトヲ拒絕セリ。茲ニ於テ兩者ノ感情ハ益々惡化シ地主ノ立腹甚シク遂ニ其ノ住宅ヨリ立退キ速ニ田地ヲ返還スベク強要シ始メタルガ、小作人ハ既ニ故郷ノ一家ヲ片付テ移住シ、稻苗モ既ニ插秧後ノ事トテ到底其ノ要求ニハ應ジ兼テ荏苒經過セリ。地主ハ益々立腹シ七月ニ至リ小作人ニ對シ家屋浸入罪トシテ所轄署及檢事局ニ告訴セリ。然ルニ平素本件地主ニ對シ心良カラヌ當部落民一同ハ小作人ニ同情シ打連レテ所轄署及檢事局ニ出頭シ其ノ實情ヲ陳ベ右告訴取下ゲ方ヲ願ヒ出ズル等ノコトアリテ本件ハ遂ニ不起訴トナレリ。斯ノ如ク兩者ノ感情ハ深刻ナル抗爭ノ儘ニ經過シ應テ秋トナリ稻作ハ相當ノ收穫ヲ認ムルニ至レリ。地主ハ本年ノ小作料ノ受取方ニ付不安ヲ抱キ十月二十一日本年ノ小作料支拂訴訟ヲ下關區裁判所ニ提起シ立稻ノ假差押方ヲ申請セリ。仍テ裁判所ハ直ニ假差押ヲ執行シ十一月八日競賣ニ附シタリ。斯クテ十一月八日ノ競賣ニ際シ地主ハ親族ト共謀シテ右小作田ノ全部ノ立稻ヲ百圓ニテ競落シ十一月十二日ヨリ四日間ニ亘リ鮮人數名ヲ使役シテ刈取り糶トシテ持チ歸レリ。此ノ状態ヲ見タル小作人ハ四月以來秋ノ稔ヲ樂ミニ耕種肥培ニ專念シ漸ク收納ノ喜ヲ迎ヘントスルニ當リ全部ノ糶ヲ持チ去ラレテハ啞然トシテ爲ス術モナカリシガ、意ヲ決シテ下關區裁判所ニ出頭シ地主ノ不當ナル行爲ヲ訴ヘ速ニ訴訟取下ゲ方ヲ申出デ、更ニ山口地方裁判所ニ小作調停ノ

申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

第一回調停委員會ヲ十二月九日午前九時ヨリ川棚村役場ニ於テ開催シ先ヅ双方ノ主張ヲ聽取シタルニ、大體前記ノ如キ事情ヲ陳ベ地主ハ小作人ノ即時立退方ヲ主張シ、小作人ハ引續キ小作ヲ要求セリ。仍テ委員會ハ協議ノ末左ノ二案ヲ提議セリ。

第一案「即時小作人ヲ立退カシメ、諸經費トシテ地主ヨリ小作人ニ對シ金二百圓ヲ交付スルコト」(二百圓ハ本年ノ小作人ノ收得トシテ玄米十四俵、其ノ代價百十九圓(一俵當八圓五十錢)及小作人が當地ニ引越シテヨリ今日迄ノ諸經費及立退ニ要スル諸經費八十一圓トシタリ)

第二案「三箇年間小作繼續セシメ九年度稻收穫迄ノ飯米七俵、肥料代三俵ヲ地主ヨリ小作人ニ交付スルコト」

先ヅ地主ニ對シ即時小作人ヲ立退カシムルコトトセバ此ノ際如何ナル方法ニ依ルカヲ諮リタルニ容易ニ發言セズ、仍テ委員會ハ此ノ際立退ヲ求ムルトセバ相當ノ金ヲ支給スル必要アル旨ヲ陳ベ、寧ろ飯米及肥料代位ヲ交付シテ二、三年小作セシムルガ利益ナラズヤト地主ニ勸告シタルニ、地主ハ數日間考慮ヲ與ヘラレタシト主張スルヲ以テ更ニ十五日調停委員會ヲ開會スルコトトシ當日ハ散會セリ。第二回調停委員會ヲ十二月十五日前記場所ニ於テ開催シタル所地主ハ、子供病氣ノ故ヲ以テ出頭セ

ズ、仍テ役場吏員、駐在所員ヲシテ數回ニ亘リ出頭方ヲ督促シ午後一時ヨリ開會セリ。斯クテ地主ニ對シ前回ニ引續キ勸說セル結果、前記第二案ヲ承諾スルコトトナリタルヲ以テ左記ノ通り双方間ノ契約條項ヲ定メ圓滿解決ヲ見ルニ至レリ。

一 申立人ノ末

調停條項

一 相手方ハ申立人ヲシテ小作セシメタル山口縣豐浦郡川棚村字岡ノ敷五千五百十八番

一 田一反一畝十四步外一畝四步畦畔

一 同郡同村字辻ノ原五千六百七十六番

一 田一反三畝十九步 内十八步草生地 八步惡水路 外一畝十步畦畔二十三步墓地

一 同郡同村字岡五千六百七十四番

一 田 三反二畝十步 内四步惡水路 外二畝十三步 畦畔三步墓地

一 ノ昭和八年度ノ小作料ヲ拋棄ス

一 申立人ハ昭和八年度右土地小作關係ニ基キ爾今相手方ニ對シ何等請求スヘキコトナキヲ確認ス

一 相手方ハ申立人ニ對シ第一項小作中ノ飯米及肥料代トシテ山口縣穀物検査規則ニ依ル検査合格米十俵ヲ分割シ内八俵ヲ昭和八年十二月二十五日限り残り二俵ヲ同九年五月末日限り惠與スルコト若

- シ右玄米ヲ與フルコト能ハサル時ハ之ヲ時價ニ換算シタル金員ヲ惠與スルコトヲ承諾ス
- 一 相手方ハ申立人ニ於テ前項ノ小作料ノ納付ヲ怠ラサル限り第一項ノ土地全部ヲ昭和十一年十一月十日迄申立人ニ小作セシムルコトヲ承諾ス
 - 一 申立人ハ毎年相手方ニ立會ヲ求メ各田毎ニ稻ヲ刈取り之ヲ等分ニ束ネ其ノ稻束全部ヲ同數ニ二分シ抽籤ニ依リ其ノ一ヲ右小作料トシテ相手方ニ交付スルコトヲ承諾ス
 - 一 相手方ハ右交付ヲ受ケタル稻ヨリ粃ヲ收穫シタル後其ノ藁全部ヲ家畜ノ飼料及肥料トシテ申立人ニ引渡ス事ヲ承諾ス
 - 一 申立人ハ第四項ノ期限到來ト同時ニ該土地ヲ相手方ニ明渡スコトヲ承諾ス
 - 一 申立人ハ第五項ニ依ル小作料ノ納付ヲ一回タリトモ怠リタル時ハ直ニ該土地ノ明渡ヲ要求セラレ且怠納小作料時價換算額ヲ所有財産ヨリ取立ノ請求ヲ受クルモ異議ナク即時之ニ應スル事ヲ承諾ス

- 一 申立人ハ第七項及前項ノ履行ヲ怠リタル時ハ強制執行ヲ受クルモ異議ナキ事ヲ承諾ス
- 一 相手方ハ前項ニ依ル強制執行ヲ爲ササル限り其ノ所有ニ依ル申立人ノ現住家等ヲ無償ニテ昭和十一年十二月末日迄同人ニ貸與スルコトヲ承諾ス
- 一 申立人ハ第九項ニ依ル強制ヲ受ケタル場合及前項ノ期到來シタル時ハ即時該家屋ヲ相手方ニ明渡スコト若シ之ヲ怠リタル時ハ強制執行ヲ受クルモ異議ナキ事ヲ承諾ス
- 一 申立人ハ前各項ニ依リ土地及家屋ヲ明渡ストキハ事情ノ如何ニ不拘相手方ニ物質的要求ヲ爲ササルコトヲ承諾ス

四八 德島縣阿波郡久勝村大字久千田 (麥小作料減額)

爭議發生 昭和八年七月十日

調停申立 昭和八年七月二十七日

解 決 昭和八年十一月十一日

關係人員	爭議	地主	百十人	小作人	三百五人
	調停	地主	二十五人	小作人	五十八人(小作人申立)
關係土地	爭議	田	七十九町五反五畝步	畑	二十一町步
	調停	田	九町八反步	畑	五町二反步

(一) 爭議ノ概況

小作人ハ全農縣聯久千田支部員ニシテ、本件當事者間ニハ昭和六年十月三十日田米麥小作料永久減

免、畑桑園小作料一時減免ノ妥協成立以後ハ平穩ニ經過シ來リシガ、徳島縣ガ本年産麥ヨリ麥ノ生産検査ヲ施行スルコトナリタル爲、從來生麥ヲ小作料トシテ納入セシ地方ノ小作人等ニ大ナル影響ヲ及ボシタリ。本件小作人等モ亦協議ノ結果、先ヅ地方代表地主ニ對シ縣一般ノ獎勵麥支給程度ニアリテハ(小作麥一石ニ付一斗二升五合、二等一斗、三等七升五合、四等二升五合、等外罰麥無シ)僅カニ俵裝改良費ニ過ギズシテ干減量ノ補給無シ、殊ニ本年ノ麥作ハ近年稀ナル不作ニシテ生産麥ハ大部分等外ナリ、元來麥作ハ其ノ豊作ニアリテモ尙且收支償ハザル狀況ナルニ依リ、此ノ際永久五割減要求ニ出ヅベク尙昭和六年十月三十日成立ノ田米小作料永久減免ハ契約小作料ノ如何ニ拘ハラズ一率ニ反一斗ヲ減ゼシニ過ギザル爲、反當米一石五斗ニ達スル高率地アリ、依テ田米小作料モ更ニ永久減額方要求ス可シトノ下ニ地主ニ對シ左記條件ノ認容方要求ヲ爲セリ。

- 一 田畑桑園ノ麥小作料ハ縣標準獎勵麥交付以外ニ從來契約小作料ヨリ五割ヲ減ゼラレ度シ
 - 二 田ノ内溜池ガカリノ米小作料中反當一石二斗以上ノ地ハ一石二斗ニ引下グルコト
 - 三 特殊田(井水ガカリ、天水田、蔭地)ハ適當ニ從來小作料ヨリ減額スルコト
 - 四 畑及桑園中金納小作料地ハ之ヲ隣地ニ準ズル穀納小作料ニ改訂スルコト
- 地主ハ昭和六年十月三十日ニ於テ小作料ノ永久減免成立セシバカリナルニ、今又不當ナル要求ヲ爲ス以上徹頭徹尾磨擦スベシトノ下ニ之ヲ拒絶シ、土地返還訴訟ニ移ル旨回答セリ。

(二) 調停ノ經過

小作官ハ事情調査ノ下ニ先ヅ麥小作料慣行及變遷ト相手方地主ノ代表者ニ付、最近三乃至五箇年間に於ケル小作料麥ノ容、重量竝ニ各年ニ於ケル干減量ニ付精査シ、更ニ昭和七年度畑桑園小作料ノ減免率及地主小作人ノ主張ヲ調査シタル上、調停委員三人ヲ選定シ主任判事ニ推舉セリ。

昭和八年十月二十七日第一回委員會ニ於テ地主ハ小作人ノ要求ヲ一步モ入レズ殊ニ麥小作料ニ就テノ慣行竝ニ契約ハ中干麥以上ナリ、若シ生麥ヲ納入シ之ヲ受領シタル地主アリトセバ夫レハ地主ガ一時の默認ニ過ギズトノ下ニ成立セズ。依テ小作官ハ第二回委員會迄ノ間二回ニ亘リ中繼調停ノ意ヲ以テ支部長ニ對シ、前年ノ調停ニ於テ小作側ハ田米麥小作料永久減免、畑桑園小作料一時減免ノ他ニ産業資金五百圓ノ交付ヲ受ケ居ル關係竝ニ地主ノ經濟不況事情等ヨリ、今回ノ爭議ハ麥検査ニ伴フ小作料麥程度ニ止メラレ度キ旨懇説スル所アリ。

十一月十一日久勝村役場ニ於テ第二回委員會開催左記委員會案發表ノ結果双方之ヲ認メ調停成立セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方ハ昭和八年ニ限り畑及桑園米小作料ヲ昭和四年現在契約小作料ヨリ一割五分減スルコト

二 昭和九年以降ノ小作料麥ハ縣穀物検査規則ニ依ル合格四等以上トス

右納入麥一俵ノ皆掛重量十六貫以上ノモノニハ相手方ハ申立人ニ對シ縣標準獎勵麥以外ニ其ノ一俵ニ付二升ノ補給麥ヲ交付スルコト

三 地方一般麥作カ普通作以上ナルニ拘ハラス申立人ニ於テ二回以上等外麥ヲ納入シタル時ハ相手方ハ其ノ二回目ヨリ一俵ニ付二升ノ罰麥ヲ徴スルコトヲ得

四 申立人ハ昭和八年田畑及桑園ノ麥小作料ヲ一石ニ付十圓五十錢建ニテ代金納スルコトヲ得

五 申立人ハ第一項及第四項ノ麥小作料ヲ昭和八年十一月末日迄ニ相手方ニ各自持參支拂フコト

六 相手方カ申立人ニ對シ發セシ土地返還催告ハ一時之ヲ取消スコト

四九 香川縣綾歌郡坂本村大字西坂本 (土地返還)

爭議發生 昭和八年六月五日

調停申立 昭和八年六月五日

解決 昭和八年十一月七日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 五人
調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 九段四畝十七步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

地主ハ農村不況ノ影響ヲ受ケ數年前ヨリ生活窮迫セルヲ以テ自作經營ヲナシ家計ヲ挽回セントシテ、本年稻作仕付前ニ小作人ニ對シ土地返還ノ要求ヲナシタリ。小作人ハ何レモ自己ノ耕作反別少ナク、農耕ノ傍日雇或ハ行商等ニ依リ生活シ居ル過小農ナレバ即時ニ土地返還ニ應ズル意思ナク、之ニ對シテ多額ノ甘土料ヲ請求シテ對抗シタリ。依テ地主ハ訴訟ニテ解決セントシ訴訟提起ノ手續中ナルヲ同村長ノ知ル處トナリ村長ハ地主ニ對シ訴訟ハ徒ニ費用ト時日ヲ空費スルニ過ギザルヲ以テ、一應調停ヲ申立テ適當ナル妥協點ヲ求ムルヲ妥當トスベク、萬一協調ナラザル場合已ムヲ得ズ訴訟ヲ提起スルモ遅カラザルヲ説キ小作調停ヲ申立ツル様勸告ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

地主ハ村長ノ勸告ニ依リ一應小作調停ヲ申立テタルモ、依然生活困窮ヲ理由トシテ強硬ニ土地明渡ヲ主張シタリ。

小作人ハ從來小作料ヲ完納シ來リタルノミナラズ若シ返地ヲ爲スニ於テハ耕地少ナキ爲、忽チ生活ヲ脅威セラルルニ至ルベキヲ以テ引續キ耕作爲シ得ル様希望シ、頑トシテ地主ノ要求ニ應ズル模様ナ

ク、尙該田地ヲ小作スル當時甘土料ヲ支拂ヒタルモノナレバ、地主ニ於テ強イテ土地ヲ引上ゲントスルナラバ少ナクモ地主ヨリ相當ノ甘土料ヲ交附シ、他ニ耕作地ヲ得ル道ヲ講ゼラレタシト主張シタリ。地主ハ之ニ對シ賃貸セシムルニ當リ地主ニ於テ入用ノ際ハ何時ニテモ返還スベシトノ契約證アルヲ以テ、甘土料ヲ支拂フ必要ナク此ノ契約ヲ無視シ甘土料ヲ請求スルガ如キハ餘リ德義ヲ無視スルモノニシテ、若シ之ヲ交附スルトキハ徒ラニ惡例ヲ胎スモノナリト主張シテ之ヲ容認セズ。

小作官ハ同地ニ出張シ實地調査ヲナシタルニ、小作人ハ何レモ耕作地少ナク土地返還ニハ容易ニ應ジ難キ事情アルヲ察知シタルノミナラズ該田地ニ付キテハ、小作人ガ主張スルガ如ク小作スルニ當リ前小作人又ハ地主ニ對シ相當甘土料ヲ支拂ヒタル事實ヲ知り得タリ。依テ地主ニ對シテハ契約證ニハ何時ニテモ解約ヲ爲ス權利留保ノ定メアルモ、甘土料ニ付キテハ何等明記セザルノミナラズ既ニ甘土料授受ノ事實アリタルヲ以テ到底無償返還ノ出來難キヲ説キ相當ノ甘土料ヲ支拂フ様ニ勸メ、小作人ニ對シテハ甘土料ノ授受アリシ事ハ認ムルモ當初地主ニ支拂ヒタル甘土料ハ現在請求セルモノニ比シ甚ダシク少額ナルヲ以テ、直ニ現在相場ノ甘土料ノ請求ヲ爲スガ如キハ失當ナルコトヲ諭シ、適當ナル程度ニ於テ妥協スル様ニ勸メタリ。

地主ハ家計不如意ナルヲ以テ多額ノ甘土料ハ容易ニ支拂ヒ難キモ反當二十圓位ナラバ支拂フ旨述べ、小作人ハ村内一般ノ相場ヨリスレバ反當百五十圓ナルモ百二十圓位ナラバ土地ノ返還ニ應ズベシ

ト述べタリ。斯ノ如ク地主小作人間ノ主張ノ懸隔甚シク容易ニ解決シ難キ状態ナリシヲ以テ、地主ニ對シテハ二十圓ハ餘リニ少額ニ過ギ普通甘土料賣買ノ慣行ナキ田地ニ於テモ二十圓以上支給スルハ通例ニシテ、該田地ニ付キテハ最低八十圓以上ヲ支拂フニ非ザレバ到底妥協ノ餘地ナキヲ以テ、若シ全部ノ田地ニ對シ甘土料ヲ支拂ヒ難キ事情アラバ寧ロ返還請求地ヲ半ニ止メ、殘部ニ付キテハ小作セシムルニ如カザルヲ説キ聞カセタリ。

小作人ニ對シテハ如何ニ現在ノ甘土料相場ガ高價ナリトスルモ當時小作人ノ支拂ヒタル甘土料トハ大差アリ、今日百圓以上請求スルモ到底望ミハ達セラレザルモノナルヲ諭シ、八十圓ヨリ百圓以内ニ於テ妥協スル様ニ極力勸説セシ處、小作人ハ甘土料ノ裁定ハ小作調停委員會及小作官ニ一任スルコトトナシタリ。

更ニ地主ニ對シ妥協解決ヲ勸メタルモ、地主ハ反當八十圓以上支拂フコトハ家計困難ナルヲ以テ、若シ八十圓以上支拂フトセバ訴訟ニ依テ解決シ度キ旨申述べタリ。依テ小作官ハ訴訟ニ依ルコトモ敢ヘテ止メザルモ、訴訟ニハ費用ト時日ヲ要シ且必ズシモ自己ニ有利ニ導カレ好結果ヲ得ルモノナルコトハ保シ難キヲ以テ、此ノ際讓歩シテ解決スルノ得策ナルヲ説キタル處、若シ妥協成立シ甘土料ヲ支拂フモノトセバ、親戚ノ者ヨリ資金ノ融通ヲ受クル關係上一應相談シ度旨述べタリ。斯シテ最後ニ地主モ讓歩シテ甘土料ノ決定ハ調停委員會及小作官ノ裁量ニ一任シ、土地ノ半分ハ即時返還スルコトナ

シ、殘半分ハ五箇年後ニ返還スルコトニシテ左記條項ニ依リ圓滿解決シタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方(小作人)ハ申立人(地主)ニ對シ別紙第一目錄記載ノ土地ヲ其ノ地上物件收去ノ上昭和八年十一月二十日限り明渡シ返還スルコト
- 二 申立人ハ相手方ニ對シ前記記載ノ土地ノ明渡シヲ受ケタルトキハ直ニ反當金八十圓ノ割合ノ金額ヲ交付スルコト
- 三 申立人ハ右土地ニ對スル昭和八年度ノ賃料ヲ既定賃料ノ八割相當額ニ減額シ相手方ハ申立人ニ對シ右賃料ヲ昭和九年一月末日限り香川縣生產合格玄米ヲ以テ申立人宅ニ持參支拂フコト
- 四 (イ) 申立人(地主)ハ相手方(小作人)ニ對シ別紙第二目錄記載ノ土地ヲ同目錄記載ノ賃料ニテ使用耕作セシムルコト
- (ロ) 右第二目錄記載ノ土地賃貸借契約期間ハ昭和十三年六月二十日ヲ以テ終了スルモノトス
- 右期間満了ニ依リ右土地ヲ返還スルトキハ申立人ハ相手方ニ對シ反當金五十圓ノ割合ニ依ル金額ヲ交付スルモノトス
- (ハ) 相手方ハ申立人ニ對シ昭和八年度以降ノ賃料ヲ毎年度其ノ翌年一月末日限り香川縣生產合格

玄米ヲ以テ申立人宅ニ持參支拂フコト

(ニ) 相手方ニ於テ昭和八年度以降ノ賃料ヲ前記期限内ニ支拂ハサルトキハ申立人ハ相手方ニ對シ換算金ニテ支拂ヲ請求スルコトヲ得

其ノ換算金ハ綾歌郡坂出町所在香川縣穀物輸出検査所ノ調査ニ依ル毎年十二月中ノ三等合格玄米ノ賣買平均價格ヨリ一石ニ付金五十錢ヲ減シタル金額ニ據リ計算スルコト

右賣買平均價格ハ右検査所又ハ官公署ノ證明書ニ依リ證明スルコト

(ホ) 相手方ハ天災其ノ他不可抗力ニ因ル凶作ノ場合ニ非サレハ賃料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

凶作ノ場合減額ヲ請求セントスルトキ立毛刈取十五日前相手方ヨリ申立人ニ申出テ双方カ立會ノ上坪刈又ハ其ノ他ノ檢見ヲ爲シ其ノ減額歩合ヲ協定スルコト

右協定調ハサルトキハ双方又ハ一方ヨリノ申立ニ依ル香川縣小作官ノ裁定ニ一任シ該裁定ニハ双方絶對ニ服從スルコト

- (ハ) 相手方ハ申立人ノ書面上ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ左記行爲ヲ爲スコトヲ得ス
- イ 賃借地ノ原狀及使用方法ヲ變更スルコト
- ロ 賃借地ヲ轉貸又ハ他人ヲシテ使用セシムルコト

ハ 賃借權ヲ讓渡スルコト

(ト) 相手方ニ於テ本件契約ニ違背シタルトキハ申立人ノ請求次第相手方ハ異議ナク土地ヲ原狀ニ復シテ申立人ニ返還スルコト

五 本件調停費用ハ双方各自辨ノコト

五〇 香川縣大川郡石田村大字石田東 (小作料増額)

爭議發生 昭和八年六月五日

調停申立 昭和八年六月十五日

解決 昭和八年八月八日

關係人員 爭議 地主 五人 小作人 二百十五人

調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 四十三町七段七畝十一歩 畑 六町四段六畝二十一歩
宅地 三町二段六畝二十四歩 其ノ他 三段四畝二十歩

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件ハ昭和二年農民組合運動盛ナリシ當時小作人ヨリ地主ニ對シ小作料減額ノ要求アリ、地主ハ當時ノ社會情勢ニ鑑ミ徒ニ抗爭ヲ遷延セバ事態ノ益々擴大紛糾ヲ來サンコトヲ惧レ、適當ニ小作料ヲ減額スルコトヲ承諾シ、裁判所ニ於テ小作調停法ニ依リ既定小作料段當一石以上ハ五升引、一石未満ハ五分引、尙納期獎勵米一石ニ付三升ヲ交附スルコトニ決定シ調停成立シタルモノナリ。然ルニ昭和八年六月末日ヲ以テ右調停期間滿了スルニ依リ、之ヲ機トシテ地主ヨリ小作料値上ヲ希望シ、小作人ニ對シ個人的ニ之ガ交渉ヲ開始シタルモ、小作人ハ容易ニ應諾セズ寄々集合シテ之ガ對策ヲ協議シツツアリタリ。同村長ハ地主小作人間ノ直接交渉ニテハ妥協困難ナル状態ニアルコトヲ察知シ小作官ニ調停方申出デタリ。小作官ハ地主ガ高松市内ニ居住セルヲ以テ小作人トノ地理的關係上一應小作調停ヲ申立ツル様勸告ヲナシタリ。

(二) 調停ノ經過

地主ハ小作官ノ勸告ヲ容レ小作調停ヲ申立タルニ依リ、高松地方裁判所ニ於テハ七月十日地主及小作人ノ代表者ヲ出頭セシメ調停ヲ開始シタリ。

地主ハ前回ノ調停當時トハ經濟事情モ著シク變化シ、從來通りノ小作料ニテ諸公租公課ヲ支拂フトキハ土地所有者トシテ殆ンド收益ナク到底堪へ得ザルヲ以テ、此ノ際若干小作料ヲ値上シ更ニ從來一

月末日迄ニ納米セルモノニ對シ、一石ニ付三升ヲ交附シ來リタル納期獎勵米ヲ全廢センコトヲ求メタリ。殊ニ關係土地中十三町歩ハ從來用水ノ不足ヲ來シタル爲、昭和六年度ニ於テ反當三十餘圓ノ費用ヲ投ジテ大イニ改良スル所アリタルヲ以テ、當然平均反當一斗ノ小作料ヲ増額シ費用ノ一部ヲ小作人ニ於テ負擔スベシト主張セリ。

小作人ハ從來ノ小作料ハ他ノ地主ノ所有スル近隣ノ田地ニ比シ決シテ低額ニ非ズ、地主ハ高松市ニ居住シ村内ノ事情ニ精通セザルガタメ、此ノ如キ過大ノ要求ヲ爲スモノニシテ、此ノ要求ヲ容ルルニ於テハ他ノ地主モ之ヲ見倣ヒ小作料ヲ増額スルニ至リ不況ニ喘グ小作農家ヲシテ益々窮迫セシムルモノナレバ、到底地主ノ要求ヲ容ルル能ハズト抗辯シ、從來通りノ小作料ニテ耕作繼續ヲ希望セリ。

茲ニ於テ小作官ハ地主ニ對シテハ、溜池改修關係田地ノ小作料ヲ増額スルニ付キテハ多少考慮スベキ點アランモ、唯漫然經濟事情ノ變化ヲ理由トシテ一般ニ小作料ヲ増額スルトキハ他ニモ影響スル所多キヲ以テ容易ニ行ヒ難ク時期尙早ナル故今暫ラク小作料ノ増額ハ見合セル様勸告ヲナシ、尙又獎勵米ノ全廢ハ地主小作人間ノ親和ヲ害シ感情ノ疎隔ヲ來シ圓滑ニ小作料ヲ取り立テ得ザル等種々弊害ヲ醸シ、直接間接損害ヲ蒙ル結果ニ至ル惧ナシトセザルヲ以テ充分其ノ考慮ヲ促シタリ。之ニ對シ地主ハ前回ノ調停ハ當時農民組合等ノ爲已ムヲ得ズ過大ニ小作料ヲ減額セシメラレタルモノニシテ此ノ如キ低額ノ小作料ニテハ米價低落ノ今日地主トシテ倒産ノ外ナシト其ノ苦境ヲ述ベ、一般的ニ小作料

ノ増額出來難シトセバ溜池改修關係田地ノ小作料ヲ増額シ、且一般的ニ納期獎勵米ヲ廢止センコトヲ主張シ之ガ爲小作料取立ニ多少ノ支障ヲ來スガ如キコトアルモ亦已ムヲ得ズト述ベタリ。

仍テ小作官ハ小作人ニ對シテハ漫然一般的ニ小作料ヲ増額スルトキハ他ニモ影響スル處多カルベキヲ以テ、小作人ニ於テ容易ニ應ジ難キ事情アルハ推察スルニ難カラザルモ、溜池改修關係田地ノ小作料ヲ適宜増額スルモ直ニ他ニ影響スル處ナカルベク、地主ニ於テ事實多額ノ費用ヲ投ジ改良セルモノナレバ若干ノ小作料増額ハ必ズシモ不當ニ非ザルノミナラズ、尙又獎勵米ハ同一村内ニ於テモ地主ニ依リテハ全然交附セザルモノアリ、小作人ヨリ強制的ニ之ガ交附ヲ要請シ又ハ廢止ニ對シ反對スベキ筋合ノモノニ非ザレバ圓滿ニ解決スル爲獎勵米ニ就テハ適當ニ妥協スル様勸告ヲナシタリ。

此ノ結果小作人モ漸ク讓歩ノ意ヲ表シ、溜池改修ノ田地ニ對スル小作料ノ増額竝ニ獎勵米ニ付キテハ、小作官及調停委員會ノ裁量ニ一任スル故次回ノ調停ハ同村ニ開キ溜池改修ノ程度及費用等ニ付テハ實地調査ニ基キ決定サレタキ旨述ベタリ。又地主ニ於テモ小作人ノ此ノ申出ニ同意シタルニ依リ、八月八日裁判所及小作官ハ同村ニ出張シ、實地調査ノ後調停委員會ヲ開キ溜池改修關係ノ田地ハ從來ノ小作料一石ニ對シ四升ノ割合ヲ以テ増額シ、納期獎勵米ヲ廢止シ小作米ヲ完納シタルモノニ對シテハ地主ニ於テ適當ノ獎勵方法ヲ採ルコトトナシ左記條項ニ依リ解決ヲ見タリ。

(三) 結

末

一 申立人(地主)ハ相手方(小作人)ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ其ノ記載ノ小作人ニ賃貸小作セシムルコト

一 相手方ハ申立人ニ對シ其ノ小作土地ノ小作料トシテ別紙目錄記載ノ通り香川縣生產合格玄米ヲ以テ支拂フコト

右小作料ハ毎年度其ノ翌年一月末日限り地主ノ指定場所ニ持參支拂フコト

小作人カ右期日迄ニ小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ地主ハ其ノ換算金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

其ノ換算金ハ高松市所在香川縣穀物輸出検査所ノ右支拂期日前十日間ニ於ケル三等合格玄米ノ賣買

平均價格ヨリ一石ニ付五十錢ヲ減シタル金額ニテ計算スルコト

但シ賣買平均價格ハ右検査所又ハ官公署ノ證明書ニ依リ證明スルコト

一 小作人カ右期日迄ニ小作料ヲ合格玄米ニテ支拂ヒタルトキハ地主ハ小作人ニ對シ任意獎勵方法ヲ講スルコト

一 小作人ハ天災其ノ他不可抗力ニ因ル凶作ノトキニアラサレハ小作料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

凶作ノ際減額ヲ請求セントスルトキハ稻立毛刈取十五日前ニ小作人ヨリ地主ニ申立テ双方立會ノ上

檢見ヲ爲シ減額歩合ヲ協定スルコト

右協定調ハサルトキハ石田村長又ハ香川縣小作官ノ裁定ニ一任シ該裁定ニハ絶對服従スルコト

一 小作人ハ地主ノ書面ニ依ル承諾ヲ得ルニアラサレハ賃借地ノ原狀及使用方法ノ變更又ハ賃借權ノ讓渡、賃借地ノ轉貸或ハ賃借地ヲ他人ニ使用セシムル等地主ノ不利益トナルヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 小作人ニ於テ本契約ニ違背シタルトキハ地主ハ何等ノ手續ヲ要セス直ニ本契約ヲ解除シ賃借地ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

一 前項ニ依リ返還請求ヲ受ケタルトキハ小作人ハ遲滞ナク土地ヲ原狀ニ復シテ返還スルコト

一 相手方ハ申立人廣瀬某ニ對シ左記未納賃料ヲ左ノ方法ニ依リ申立人方ニ持參支拂フコト

(イ) 相手方檜原某甲ハ昭和七年度ノ未納賃料四斗五升五合、同國方某ハ同三斗六升八合、同檜原

乙某ハ同六斗四升七合ヲ夫々合格玄米ニテ昭和九年一月末日限り申立人ニ支拂フコト

(ロ) 相手方木村某ハ昭和七年度ノ未納賃料一石二斗ヲ合格玄米ニテ内八斗ハ昭和八年八月末日限

リ殘四斗ハ同年十二月末日限り申立人ニ支拂フコト

(ハ) 相手方林某ハ昭和七年度ノ未納賃料一石二斗ヲ合格玄米ニテ昭和九年及同十年ノ各一月末日

限リ六斗宛都合二回ニ分割辨濟スルコト

(ニ) 相手方中村某ハ昭和七年度ノ未納賃料二石五斗ヲ合格玄米ニテ昭和九年乃至十三年ノ各一月末日限リ五斗宛都合五回ニ分割辨濟スルコト

(ホ) 相手方木内某ハ昭和七年度ノ未納賃料四斗ヲ合格玄米ニテ昭和九年一月末日限リ申立人ニ支拂フコト

一 本件調停費用ハ双方各自辨トスルコト

五一 愛媛縣宇摩郡金生村大字山田井 (小作繼續)

爭議發生 昭和七年一月十二日

調停申立 昭和八年四月二十六日

解決 昭和八年十月二十七日

關係人員

爭議	地主 一人	小作人 三十五人
調停	地主 一人	小作人 二十八人(小作人申立)

關係土地

爭議	田 三反三畝二十步
調停	畑 四町二反五畝二步
	宅地 三百十坪六合五勺
	右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

地主ハ徳島縣撫養町在住者ニシテ遠隔ノ地ナルト小作人ノ醇朴ナルトニ乘ジ小作契約ノ内容ヲ代表者トノ契約トシ關係小作人ハ全部連帶責任トシ、一箇年當小作料ハ十四石六斗一升三合ナルモ豊凶ニ不拘翌年一月二十五日ノ兵庫市場ニ於ケル伊豫小粒三等米ノ格付價格ニ依リ換算シタル代金ヲ代表者ヨリ納付スル條件ナルガ、地主ハ昭和六年末

一 小作料ヲ二十石ニ増額スルコト

二 總價額七千三百圓ニテ買取ルコト

ノ何レカニ應ズルカ、然ラザレバ無條件ニテ土地ヲ返還スルコトヲ要求シ來タレリ。小作人トシテハ當時ノ實情トシテ何レニモ應ズルコトヲ得ズ、徳島、愛媛兩縣小作官介在斡旋ノ結果、昭和七年三月一應小作繼續ノ協定成リ、昭和七年度ハ小作人ニ於テ從來通り耕作セシガ、昭和七年末ニ至リ又々土地返還ノ要求アリ、關係小作人中契約書記名者ト異ナル者數名ニ對シ契約違背トシテ土地返還ノ訴訟ヲ提起シ、係争ノ結果右異名者ハ記名者死亡ノ爲嗣子ノ相續セシ者若ハ同一人ナルモ記名ヲ誤リ居ル等ノ事實判明セシモ、契約書ニ「地主ノ要求ニ依リ何時ニテモ土地返還スベキ條項」アルヲ適用セラレ小作人側ノ敗訴トナリシガ、小作人トシテハ土地ヲ返還スルコトハ死活ノ問題ナレバ小作人側ヨリ控訴ノ手續ヲナスト共ニ、小作關係全部ニ付圓滿解決ノ目的ノ下ニ調停ヲ申立テタルモノナリ。

(一) 調停ノ經過

松山地方裁判所西條支部ニ於テ調停委員會ヲ開設シ審議セシガ、調停申立ノ趣旨ハ小作人側ノ現在ノ實情トシテ土地ニ放ルルコトハ死活ノ問題ナレバ土地ヲ返還スルヲ得ズ、又土地買受ニ付テハ地主ノ主張スル價格ハ時價ニ比シ著シク高價ナルノミナラズ、假令時價ニテ協定出來得ルトシテモ小作人ノ現狀トシテ金策ノ方法ナシ、仍テ從來ノ小作條件ハ非常ニ不利益ナル條件ナルモ不得已從來通小作繼續ノ調停ヲ懇願スルノ外ナキ旨申出デタリ。

相手方タル地主ハ父ノ時代ヨリ土地處分ノ必要アリ、再三交渉セシモ小作人ノ應ズル所トナラズ不得已現在ニ及ビタルモノナルガ、父ガ十餘年間病床ニアリシ爲ニ巨額ノ費用ヲ要シ、且ツ家業タル骨董品商モ不景氣ノ爲利益ナク現在ニ於テハ土地處分ノ急ヲ告グルニ至リシ次第ナリ。更ニ小作契約當時ハ自分ノ所有ナリシニ其ノ後父ノ名義ニ切替ヘ隱居シ居タルニ先年死亡シタル結果、其ノ相續者ハ母トナリシモ母ハ病身ニシテ餘命難計從テ母ノ存命中ニ土地ヲ處分シタキ希望ト必要アルナリ。故ニ小作人ガ土地ヲ買取ルトセバ自作農資金貸付ニ適用セラルル標準價格ナレバ賣渡シテ可ナリ、若シ買取ルヲ得ズトセバ土地ヲ返還セラレ度ク、小作附キニテハ處分不可能ナル旨申出デタリ。

仍テ調停委員會ハ第一案トシテ、(一)十箇年乃至五箇年間ノ期限ヲ附シ小作繼續セシムルコト、(二)若シ土地賣却ノ必要アレバ現小作契約附キニテ處分スルコト、第二案トシテ、(一)小作人ニ土地

ヲ買取ラシムルコト、(二)價格ハ總額三千三百六十一圓トスルコト、其ノ算出ノ基礎ハ、時價小作料一石當二百圓(最高)ナルヲ以テ金二千九百二十二圓六十錢、契約ニ依ル換算米價ノ差五分トシテ金百四十六圓十三錢、契約ニ依ル定免制度ノ差一割トシテ金二百九十二圓二十六錢、合計三千三百六十一圓等ノ腹案ニ依リ勸告ヲナセシニ、地主ハ第一案ニ依ル小作繼續ニハ假令年限ヲ附スルモ債權者ガ承知セザルベク到底不可能ナリ、一箇年位ナレバ債權者モ承諾スルナランモ夫レ以上ノ繼續ノ契約ヲナスモ結局競賣ニ附セラレ双方共ニ不利益ヲ招クベシ、第二案ニ依ル土地賣渡ニハ應ズベキモ價格ノ點ニ於テハ讓歩ノ餘地ナシトシ、但シ小作人側ハ代金ハ縣ノ自作農資金ニ求ムルノ外ナキ趣ナルト村審議會ニ於テハ三千圓以上貸付不能ナル旨金生村長ノ意見モアリシカバ、最大讓歩シテ、(一)賣渡價格ヲ三千五百圓トシ、(二)右金額ハ三千圓ヲ縣ノ自作農資金ニ依リ五百圓ハ小作人ノ自己資金ヲ支出シ、(三)現在小作料十四石六斗一升三合ヲ兵庫市場ニ於ケル一月二十五日伊豫小粒三等米ノ價格ニテ換算シタル金額ヨリ三千圓ニ對スル年賦償還金、五百圓ニ對スル銀行利子、土地ニ對スル公租公課負擔金等ヲ控除シタル殘額ヲ向フ二十箇年間地主ニ支拂フコト、(四)(三)ニ對スル契約ハ小作人全部ノ連帶責任トスルコト、等ノ條件ニテ賣渡ニ應ズベク申出デタリ。

委員會ハ賣渡價格三千五百圓以外ニ二十箇年間毎年ノ米價ニ依リ計算シタル小作料換算金ノ剩餘ヲ支拂フコトハ複雑ニシテ爭フ後日ニ殘ス憂アルノミナラズ、自作農家ニ年賦償還金以外ノ債務ヲ負擔

セシムルコトハ不可能ナリ。故ニ價格ノ協定ハ別トシテ二十箇年ニ亘ル義務負擔ハ之ヲ撤回スベク勸告セシニ、地主ハ二十箇年間ノ義務負擔ノ條件ヲ附帶シテ三千五百圓迄讓歩セシ次第ナルガ、二十箇年間ノ義務負擔ノ條件ヲ撤回スルトセバ四千五百圓以下ノ讓歩ハ不可能ナル旨申出デタリ。仍テ委員會ヲ開クコト五回、双方ヲ勸告セシ結果地主ハ四千圓迄讓歩シ委員會ハ昭和八年度小作料(概算三百圓)免除ノ條件ニテ三千八百圓ニテ折衝セシモ結局折衷案トシテ三千九百圓ニテ裁定セシニ、小作人側ハ時價トシテハ高キニ失スルト認ムルモ僅カノ差額ニテ決裂スルハ本意ニアラザルヲ以テ同意スルノ外ナシ、但シ本年取替中ノ税金約五十圓ト契約ニ依ル代表者ノ世話料等ノ合計金七十四圓七十三錢ハ別途支拂方ヲ要求シ、地主ハ之ニ同意シ總價額ヲ三千九百七十四圓七十三錢トシ内七十四圓七十三錢ハ小作人側ニ地主ヨリ支拂フコトトセラレ度キ希望アリ、結局別項ノ如ク調停成立セリ。

(三) 結 末

第五回調停委員會ニ於テ双方ノ了解ヲ得左記調停條項ニ依リ調停成立セリ。

調 停 條 項

第一 相手方(契約當時ノ地主)及利害關係人(現在ノ土地所有名義人)ハ申立人(小作人)ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ左記條件ニテ賣渡シ申立人ハ右條件ニテ買受クルコト

(一) 賣買代金總額ヲ金三千九百七十四圓七十三錢トス

(二) 賣買代金支拂ハ申立人等カ申請シアル愛媛縣ノ自作農創設維持資金貸付決定次第相手方及利害關係人ハ所有權移轉登記手續ヲ完了シ授受スルコト

(三) 申立人等ニ於テ昭和九年三月三十一日迄ニ右賣買代金ノ調達不可能トナリタルトキハ別紙目錄記載ノ土地全部ヲ相手方ニ返還スルコト

但シ此ノ場合ニ於テハ立毛其ノ他ノ耕作物ノ收去ニ付テハ收穫期迄猶豫シ建物其ノ他工作物ノ收去ニ付テハ六箇月間其ノ收去ヲ猶豫スルコト

第二 相手方及利害關係人ハ申立人ヨリ賣買代金受領ト同時ニ申立人ニ對シ昭和八年度分ノ別紙目錄記載ノ土地ニ對スル公租公課ノ立替金竝ニ相手方カ申立人代表者ニ對スル手数料引當金トシテ金七十四圓七十三錢ヲ支拂フコト

第三 相手方及利害關係人ハ申立人等カ相手方及利害關係人ニ納付スヘキ昭和八年度ノ小作料ノ支拂ヲ免除スルコト

第四 相手方及利害關係人ハ申立人ニ對シ今後本件ニ關シ一切ノ請求ヲ爲ササルト同時ニ申立人モ亦相手方及利害關係人ニ對シ今後本件ニ關スル一切ノ請求ヲ爲ササルコト

第五 本件ニ關スル費用ハ一切各自辨ノコト

五二 高知縣安藝郡土居村 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和七年十二月二十五日

調停申立 昭和八年六月二十一日

解決 昭和八年七月十六日

關係人員	爭議	地主	二十五人	小作人	六十八人
	調停	地主	十六人	小作人	五人 (小作人申立)

關係土地	爭議	田	十二町五反歩	畑	三町八反歩
	調停	田	三町四反六畝二十四歩	畑	二反九畝二十三歩

(一) 爭議ノ概況

係争地土居村ヲ中心トシテ隣村數箇町村ハ、昭和七年全國農民組合ニ於テ藝陽地區委員會ヲ組織シ七支部十一班ヲ置キ、小作條件ノ維持改善ヲ圖ラムトシ、先ヅ昭和七年ノ稻作ガ螟蟲其ノ他ノ被害ニテ減收シタルヲ機トシ、小作料減額要求ヲナシ目的貫徹迄小作料ヲ納入セザルコトヲ申合セ、地主ニ於テハ小作人ノ要求ハ絶對ニ之ヲ承認セズト拒絶シ、兩者強硬ナル態度ヲ持シテ對抗シ、其ノ間小作者ハ暴力行爲違反ノ刑事問題ヲ起シ、指導者二名ハ懲役各六箇月他ノ小作人幹部ハ罰金各二十圓ニ處セラレタリ。

小作官ハ事件發生以來數回現狀ニ出張調停ニ努メタルモ、讓歩ハ恥辱ナリトスル舊習ニ囚ハレテ妥協成ラズ、其ノ後地主中十六名ハ小作人幹部五名ヲ相手取り高知地方裁判所ニ土地明渡小作料請求ノ訴訟ヲ提起シ、小作人亦之ニ對抗シテ小作料減額、土地返還訴訟取下ノ小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

昭和八年七月十五、十六ノ兩日安藝區裁判所ニ調停委員會ヲ開會シ兩者ノ主張ヲ聽取セルニ、小作人側ハ昭和七年度ノ水稻作柄ノ不良ナリシ事實ヲ陳述シ、結局一般不作地ハ四割、特別不作地ハ六割ノ小作料減額ヲ要求スルモノナリト主張シ、地主側ハ昭和七年度ノ稻作ガ多少ノ減收ヲ來シタル事實ハ之ヲ認ムルモ、其ノ程度ハ小作者ガ主張スルガ如ク甚シキモノト認ムル能ハズ、從テ特別不作地ニ對シテハ小作料ノ三割減ヲ承認スルモ、其ノ他ノ一般小作地ニ付キテハ小作料ヲ減額セズト主張シ兩者ハ互ニ自己ノ主張ヲ固執シ調停至難ニ見エタルモ、調停委員會ノ熱心ナル調停ニヨリ遂ニ左記條項ニテ妥協成立シ圓滿ニ解決セリ。

(三) 結 末

調停條項

一 相手方ハ申立人ニ對シ各其ノ貸付ニ係ル別紙第一目錄記載土地ノ昭和七年度小作料(同目錄記載通り)ヲ三割、第二目錄記載土地ノ同小作料(同目錄記載通り)ヲ同目錄記載ノ割合通り(四割乃至

五割)各減免シ(目錄省略)

- (イ) 申立人森岡某、岡林某、溝淵某、清藤某ハ各第一目錄記載土地ニ付テハ其ノ支拂フヘキ小作料中七分ノ五ヲ昭和八年七月末日迄ニ七分ノ一宛ヲ昭和八年及昭和九年小作料支拂期ニ第二目錄記載土地ニ付テハ減免率五割ノモノハ其ノ支拂フヘキ小作料全額ヲ昭和八年七月末日迄ニ減免率四割ノモノハ其ノ支拂フヘキ小作料中六分ノ五ヲ昭和八年七月末日迄ニ六分ノ一ヲ昭和八年小作料支拂期ニ
- (ロ) 申立人高橋某ハ第一目錄記載土地ニ付テハ其ノ支拂フヘキ小作料ノ七分ノ一宛第二目錄記載土地ニ付テハ其ノ支拂フヘキ小作料ノ六分ノ一宛ヲ各昭和八年以降支拂濟ニ至ル迄毎年其ノ年小作料支拂期ニ
- 各相手方ニ對シ支拂フコト
- 二 申立人ハ相手方ニ對シ各別紙第三目錄記載土地ノ昭和七年度小作料(同目錄記載通り)ヲ昭和八年七月末日迄ニ支拂フコト
- 三 前二項ノ昭和八年七月末日迄ニ支拂フヘキ小作料ヲ代金ヲ以テ支拂フ場合ハ一石ニ付十九圓五十錢ノ割合ニ依ルコト
- 四 別紙第一第二目錄記載土地ニ付將來申立人カ不可抗力ニ因ル減收ニ基キ小作料減免ノ要求ヲ爲サ

ムトスルトキハ稻刈取前相手方ニ檢見ノ申出ヲ爲シ双方立會ノ上減免額ヲ協定スルコト

若シ其ノ協定調ハサルトキ又ハ相手方ニ於テ檢見ノ申出アリタルニ不拘之ニ立會セサルトキハ高知縣小作官又ハ同小作官ノ指定スル者ノ裁定ニ一任スルコト

- 五 前項ノ土地ニ付將來申立人ハ檢見ノ申出ヲ爲サシテ小作料減免ノ要求ヲ爲ササルコト
- 六 申立人カ第一項記載ノ小作料ヲ各其ノ所定期日迄ニ支拂ハサルトキ及別紙第一、第二目錄記載土地ニ付將來其ノ年確定小作料ヲ舊曆年末迄、若シ舊曆年末迄ニ減免額決定セサル爲小作料確定セサルトキハ其ノ確定ノ日ヨリ十日間内ニ支拂ヲ爲スコトヲ怠リ相手方ヨリ一週間ヲ下ラサル猶豫期間ヲ定メ支拂ヲ催告スルモ尙之ヲ履行セサルトキハ申立人ハ異議ナク相手方ノ土地返還要求ニ應スルコト
- 七 相手方ハ申立人カ第一項第二項所定ノ昭和八年七月末日迄ニ支拂フヘキ小作料ノ支拂ヲ爲シタルトキハ高知地方裁判所ニ繫屬中ノ昭和八年(ロ)第四八號、同第五〇號、同第五一號、同第五二號、同第五三號各本件土地ニ關スル訴訟事件ノ取下手續ヲ爲スコト

五三 福岡縣朝倉郡杷木村 (小作料改定)

爭議發生 昭和七年十二月二十五日
調停申立 昭和八年二月七日

解 決 昭和九年四月十八日

五〇六

關係人員 爭議 地主 百四人 小作人 百六十八人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 三十五町一反七畝一步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本村ハ田面積甚ダ少ク僅カニ百三十六町步餘ニシテ大地主トシテ舉グベキ者ナク、三、四反步ヲ所有スル者大部分ヲ占メ自作農百戸、自小作農八十戸、小作農百五十戸計三百三十戸餘ナリトス。

從テ小作地僅少ニシテ七十町步ニ過ギザル状態ニシテ煙草耕作ヲ除キ有利ナル副業ナク、土地ノ耕作ハ唯一ノ生活資源ナルニ拘ラズ前述ノ如ク狹少ナル栽培面積ナルヲ以テ小作料比較的高率ナリシ爲、大正十四年農民組合九州同盟會林田支部結成セラルルヤ直ニ團體的小作爭議ヲ惹起シ小作料ヲ一割五分減額シ一時平靜ニ歸シタルモ、上田小作料尙四俵六分(一俵三斗四升入)ニ當リ高率ニシテ小作人ノ窮乏依然トシテ輕減サレズ、加フルニ深刻ナル農村不況ハ益々窮地ニ陥ラシメタルヲ以テ、日本農民組合九州同盟會林田支部員約百四名ハ關係地主百六十八名ニ對シ小作料永久四割減額ヲ要求シ、昭和七年度ノ小作料ヲ全然納入セズ之ヲ賣却シテ預金シ持久戰ニ入ラムト畫策シ地主側ノ小作料納入

督促急ナルニ拘ラズ目的貫徹迄ハ斷ジテ支拂ハザルコトヲ申合セ、其結束甚ダ強固ニシテヨク統制ヲ保チ小作料ヲ支拂ハザルヲ以テ、地主側ニ於テモ地主組合ヲ組織シテ之ガ對策ヲ講ズト雖小作料不納ハ直ニ食糧米ニ窮シ步調亂レムトスルヲ以テ熟議ヲ重ネ玄米粃等ノ差押ヘヲ執行スルニ至レリ。小作官ハ事態ノ容易ナラザルヲ觀取シ事實調査ヲ爲シタルニ關係地區杷木村ノミニアラズシテ隣村松末村ニ及ビ頗ル廣汎ニ亘リ甚ダ險惡ニシテ影響スル所尠少ナラザルヲ以テ、村當局竝ニ農民組合幹部ヲ招致シ至急解決方ヲ懇懇シ懇談ヲ重ネタルニ小作人側ヨリ小作調停ヲ申立テタリ。

(二) 調停ノ經過

小作官ハ本村竝ニ隣接町村ノ實情ヲ詳細調査シ調停主任判事及小作調停委員ト慎重協議ヲ重ネ單ナル一時的小作料減額トセズ、根本的小作料ノ改定ヲナシ公平ナル小作料ヲ決定スルノ緊要ナル旨ヲ力説シ、其ノ贊同ニ依リ案ヲ樹テ關係地主小作人ヲ同村役場ニ召集シ兩者ノ主張要求ヲ聽取シ委員會ノ調停方針ヲ示シ各十名ノ委員ヲ選任セシメ之ト折衝スルコトニ定メ調停中ハ各自重シテ輕舉妄動ニ出デザル様戒メタリ。

第一回ヨリ第四回迄ノ調停委員會ニ於テハ根本的小作料改定ニ關シ協議シ之ヲ斷行スルコトニ決シタルモ其ノ改定ノ基準ヲ何ニ求ムベキカニ付異論アリ、地主側ハ課稅標準タル賃貸價格ノ等級ニ依ルヲ合理的ナリト主張シ、小作人側ハ稅ノ增收ヲ目的トシ改正シタル現賃貸價格ノ等級ハ比較的高等級

五〇七

ノモノ多ク田地ノ實際ニ即セザルヲ以テ之ヲ標準トシテ小作料ヲ改定スルハ不當ナリト稱シ、地力ヲ主體トセル舊等級ニ依リ小作料ヲ決定スルヲ至當ナリト主張シ、各自説ヲ固持シテ譲ラザリシモ委員會トシテハ賃貸價格ノ等級ニ依ルコトヲ原則トシ、特殊事情アル土地ニ付テハ別ニ考慮スルコトニ定メ、小作人側ノ了解ヲ求メ次デ各等級別平年收穫高及小作料ニ付意見ヲ求メタル處

地	賃貸價格等級	主側		小作人側	
		平年收穫高	小作料	平年收穫高	要求小作料
九九	〇一	二・七二〇	四・四 _俵 五六	二・三〇〇	一・〇一六
八八八	七八九	二・五五〇	四・四 _俵 三四	二・一一六	〇・九三五
八八八八	三五六	二・三八〇	四・四 _俵 二三四	一・九〇九	〇・八四三
七八八八	九〇一二	二・二一〇	三・三 _俵 四五	一・三八〇	〇・七四三
七七七	六七八	二・〇四〇	三・一 _俵 三	一・〇三五	〇・六〇九
				〇・六四四	〇・四五七
					〇・二八四

右ノ如ク双方ノ主張ニ著シク懸隔アリテ論争シタルニ委員會ニ於テハ小作官ノ實査ニ依ル收穫高一級二石五斗五升ヲ至當ト認メ其ノ承認ヲ得、更ニ之ガ分配率ニ付地主側ハ地主四俵半小作人三俵ト主張シ、小作人側ハ地主三俵小作人四俵半ト稱シ一致セザルヲ以テ、委員會ハ各種ノ事情ヲ參酌シテ地主ノ所得五割四分小作人ノ所得四割六分ノ分配率ヲ定メ之ヲ提示シタルニ、小作人側ハ從來ノ小作料ヨリ相當減額セラルルコトトナルガ故ニ容易ニ之ヲ承諾セルモ、地主側ハ四俵二分ノ收得ヲ主張シ譲ラザリケレバ、委員會ニテ四俵ト決定シ左ノ通り各等級ニ依リ小作料ヲ決定スルコトニセリ。

調停等級	小作料		調停等級	小作料	
	小作	料		小作	料
一	一・三六〇	〇・九四四	五	〇・七九二	
二	一・二七九	〇・七九二	六	〇・六二四	
三	一・一八七		七		
四	一・〇七七				

調停進行中地主側ハ調停ヲ有利ニ導カンガタメ曩ニ滞納小作料ニ對シ差押ヘタル粃、玄米又ハ家財等ヲ前後數回ニ亘リ競賣處分ヲ執行シ、一面村當局ニ對シテハ小作料收入皆無ナルヲ理由ニ納稅延期ノ歎願書ヲ提出シ、警察取締ノ嚴重ヲ要望シ裁判所及縣廳ヲ訪問シテ地主ノ窮狀ヲ述べ小作人ノ横暴ヲ

訴ヘルコト切ナルモノアリ。偶々昭和八年十一月十四日繋争田ノ一部ヲ農民組合ガ多數ヲ動員シテ耕起シ一齊ニ麥ノ播種ヲ開始スルヤ、所轄某警察署長ハ自ラ署員數十名ヲ連行シテ同地ニ急行シ麥ノ播付中止ヲ命ジ其ノ幹部ヲ檢舉スル等ノ問題ヲ生ジ、競賣ノ都度地主小作人双方共ニ多數組合員ヲ動員シテ對抗シタルモ警戒嚴重ノタメ幸ニ事ナキヲ得タリ。

此ノ間委員會ハ終始熱誠ニ調停ニ當リシタメ回ヲ重ヌルニ從ヒ委員會ノ公正ナル處置ヲ認め漸次互讓妥協ノ精神ヲ示シ、最後ニ近ヅクニ從ヒ極メテ圓滿ニ解決シ紛糾ニノ重ネタル本小作爭議モ昭和九年五月一日ノ委員會ヲ最終ニ悉ク解決セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

一 相手方(地主)ハ申立人(小作人)ニ對シ從來小作セシメ居ル

朝倉郡杷木村大字池田字長光寺三百八十九番地

一田 五畝六步

此小作料一箇年六斗五升一合

ノ土地ヲ昭和八年度分ヨリ一箇年ノ小作料一俵一斗七升(一俵ハ三斗四升入以下同シ)ニ改定シ引續キ小作セシムルコト

二 相手方ハ申立人カ前項ノ土地ニ對スル昭和七年度分滯納小作料六斗五升一合ヲ一俵六升ニ減額シ

申立人ハ右一俵六升ヲ昭和八年度分第一項ノ小作料ト共ニ納入スルコト

三 申立人ハ第一項ノ小作料ヲ生産検査ニ合格程度ノ米ヲ以テ毎年其ノ年ノ翌年一月末日迄ニ相手方

住所ニ持參納入スルコト

四 申立人カ第一項ノ小作地ヲ轉貸セントスルトキハ相手方ノ同意ヲ得ルコト

五 申立人カ天災不可抗力其ノ他正當ノ理由ナクシテ第三項ノ期日迄ニ小作料及滯納小作料ヲ納入セ

サルトキハ即時第一項ノ土地ヲ相手方ニ返還シ且滯納小作料ハ一時ニ全額ヲ納入スルコト、第四項

ニ違反シタルトキ亦同シ

六 申立人カ其ノ粗作ニ因ラサル天災不可抗力ニヨリ減收ノ場合ニ於テ第一項ノ小作料ノ減額ヲ要求

セムトスルトキハ鎌入前相手方ニ對シ第一項ノ實地ニ立會ヲ求メ双方實地檢見ノ上割引率ヲ協定ス

ルコト

申立人ノ右立會申込ニ對シ相手方カ正當ノ事由ナク之ニ應セサリシトキハ鎌入後ト雖割引要求ヲ爲

スコトヲ得

七 前項ノ場合ニ於テ當事者間ニ協定調ハサルトキハ小作調停委員、杷木村農會幹部又ハ同技術員等

ノ裁決指示ニ從ヒ減收率ヲ算定シ之ニ異議ヲ述ヘサルコト

五四 福岡縣京都郡行橋町大字大橋 (開墾地ノ小作料決定)

爭議發生 昭和七年五月三日

調停申立 昭和七年六月二十九日

解決 昭和八年七月三十日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 三十一人

調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 十五町六反四畝十二步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ地主ガ昭和二年官有水面埋立ノ許可ヲ得外一名ト共同シテ干拓事業ヲ企劃シ海中ニ防波堤ヲ築造シ海水ノ浸入ヲ防ギ耕地トナシタルモノニシテ、其ノ面積五十町歩ニ達シ之ヲ折半シテ其ノ所有トシ豊後方面ヨリ移民ヲ募集シ昭和四年ヨリ小作料反當一俵(四斗入)ニテ小作ニ附シタリ。然ルニ地主ハ本事業ニ對シ十二萬圓ノ巨費ヲ投ジ全財産ヲ傾ケタルモノナルヲ以テ、本件土地ノ小作料ハ唯一ノ收入ナルニ拘ラズ新開地ナレバ豫期ノ收穫ヲ舉グルコトヲ得ズ、小作人等ハ昭和七年ニ至ル迄一粒ノ小作料モ支拂ハザリシヲ以テ地主ハ生活逼迫シ窮地ニ陥ルニ至レリ。然モ小作人等ハ全國農民

組合京築支部ニ加入シ其ノ指導ヲ受クルニ及ビ益々強硬ナル態度ヲ持シ、新開地ハ六十年間免租ナレバ小作料ヲ支拂フ必要ナシトテ地主ノ小作料請求ニ耳ヲ藉サザルヲ以テ、地主ハ内一名ノ小作人ニ對シ訴訟ヲ提起シ小作料ノ請求竝ニ土地返還ヲ要求シタリ。依テ小作官ハ調停ニテ解決方ヲ慫慂シタルニ地主之ニ應ジ更ニ利害關係ヲ同ジクスル他ノ小作人全部ニ對スル分ニ付テモ亦別途調停申立ヲ爲サシメタリ。

(二) 調停ノ經過

昭和七年八月三十日第一回調停委員會開會以來昭和八年七月三十日迄委員會ヲ重ヌルコト八回ニ及ビ、當初ハ何レモ頗ル強硬ニシテ解決ノ見込ナク第二回調停委員會ニ於テハ福佐聯合會(會議派)ト全農總本部派トノ間ニ組合員爭奪事件ヲ惹起シ、相互過激ナル宣傳主張ヲ爲シテ小作人ヲ煽動シ形勢益々惡化シ收拾スベカラザル事態ヲ醸成スルニ至レリ。然レ共小作官ハ此ノ間ニ在リテ能ク活躍シ機宜ノ處置ヲ講ジ更ニ數回ニ亘リ實地ヲ踏査シ且園藝技師及農事試驗場技手等専門家ヲ帶同シテ詳細ナル調査ヲ遂ゲ、土地ノ等級ヲ決定シテ公平ナル小作料ヲ算定シタリ。
(一等三斗、二等下二斗五升、二等二斗、二等下一斗五升、三等一斗、三等下五升、四等)

委員會ニ於テハ小作官ノ調査適切ナルヲ認メ之ヲ委員會案トシテ當事者ニ提示シ其ノ承諾ヲ求メタルニ、小作人側ハ各等級トモ一等級宛小作料ノ引下ゲ方ヲ要求シテ讓ラザルヲ以テ一割減額スルコト

ニシ、地主ハ承諾シタルモ小作人側ハ二割減額方ヲ主張シ調停ニ應ズルノ意思ナキガ如ク認めラレタルヲ以テ、地主ハ遂ニ調停申立ノ取下ゲヲ主張シ委員會亦地主ノ主張ヲ諒トシ調停ヲ打切ラムトスルニ至レルヲ以テ、小作官ハ小作人側ノ説得ニ大イニ努メタル結果漸ク讓歩スルニ至リ前記一割減ニテ急轉直下解決セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

第一條 申立人ハ相手方等ニ對シ別紙目錄表示ノ土地ヲ左記小作料ニテ從前通り耕作セシムルコト

- 一 等 地 反當 二斗七升
- 一 等 下 地 同 二斗二升五合
- 二 等 地 同 一斗八升
- 二 等 下 地 同 一斗三升五合
- 三 等 地 同 九 升
- 三 等 下 地 同 四升五合
- 四 等 地 同 小作料免除
- 宅 地 同 四 斗

第二條 前條小作料据置期間ハ昭和七年度ヨリ七箇年トシ期間満了ノ場合ハ更ニ當事者間ニ於テ土地等級及小作料額ノ協定ヲ爲スコト

但シ申立人ニ於テ耕地整理其ノ他土地改良ヲ爲シタルトキハ期間内ト雖小作料ノ改定ヲ爲スコトヲ得

第三條 相手方ハ申立人ニ對シ堤防ノ決潰ヲ來ス大洪水潮害等ニヨリ耕土ノ流失ヲ來セシトキ又ハ早害甚シク收穫皆無ニ近キ場合ニアリテハ小作料減額ノ要求ヲ爲スコトヲ得

此ノ場合ハ當事者間ニ於テ誠意ヲ以テ協定ヲ爲シ若シ其ノ協定調ハサルトキハ福岡縣地方小作官ニ上申シ立會ノ上其ノ裁定ニ從フコト

但宅地ノ小作料ハ減額要求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第四條 昭和八年度以降小作料ハ米納トシ翌年一月二十五日限り申立人住所ニ持參シテ支拂フコト若シ相手方ニ於テ米納不能ノ場合ハ小作料納期ニ於ケル行橋町産米ノ生産検査等級乙米相場ニヨリ換算シ金納スルコトヲ得

第五條 前條換算相場ニ付紛争ヲ生シタルトキハ福岡縣穀物検査所行橋派出所ノ發表セル前條相場ニ據ルコト

第六條 昭和七年度小作料ハ米納トシ若シ金納ノ場合ハ一俵(四斗八)ニ付金八圓ノ割ニ換算シ昭和八

年八月末日迄ニ申立人ノ住所ニ持參シテ支拂フコト

第七條 昭和六年度以前ノ小作料ノ率、納期等ニ關シテハ當事者間ニ誠意ヲ以テ之カ協定ヲ爲スコト

第八條 相手方等ハ申立人ノ承諾ナクシテ本件小作地ヲ第三者ニ轉貸スルコトヲ得ス

但申立人ニ通知ノ上親子間又ハ家族ノ分家ノ際ニ於テ其ノ家族ニ轉貸スルハ此ノ限りニアラス

第九條 正當ノ理由ナクシテ本調停條項ニ違背シタルトキハ申立人ハ相手方等ニ對シ何時ニテモ無條件ニテ土地返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

此ノ場合相手方等ハ其ノ請求ニ對シ即時引渡シ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトス

五五 佐賀縣三養基郡基山村 田代村 (土地返還 小作條件決定)

爭議發生 昭和八年八月

調停申立 自昭和八年十月十一日 至昭和八年十二月二十六日

解決 自昭和八年十月二十七日 至昭和九年一月十五日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 百五十八人 調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 七十二町四反二畝十四步 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件地主ハ縣内屈指ノ大地主ニシテ其ノ土地ハ多ク數十年前以來本件小作人百五十八名ニ對シ小作セシメ來リ、此ノ間大正十三、四年ノ大爭議ニ際シ小作料ノ大改定ヲ行ヒ今日ニ及ビタルモノナルガ、今般地主ハ家計不如意トナリ家政整理ノタメ本件土地ノ一部ヲ處分セントシテ小作人側ニ對シ土地返還ヲ求メタルモ、小作人側之ニ應ゼズ小作人側ノ一部ハ全國農民組合福佐聯合會ニ加盟シ居リ絶對返地反對ヲ唱ヘ爭議紛糾化セントシタルヲ以テ、地主側ハ屢次ニ亘リ之ガ調停申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

右調停ヲ受理シタル裁判所ニ於テハ之ガ繫争ノ範圍竝ニ小作人側ガ基山、田代ノ兩村ニ跨リ相當廣範圍ニ亘レルヲ以テ、一律ニ調停ヲ進行セシムルコトノ不可能ナルヲ顧慮シテ適宜分割調停ヲ爲ス方針ノ下ニ、昭和八年十月二十七日以來十數回ニ亘リテ現地ニ於テ調停委員會ヲ開催シ、可成地主側ニ家政整理ノ延期ヲ説服シ小作繼續ヲ調停ノ方針トシテ、其ノ都度事案ニ適シタル調停條項ヲ作成シ二、三件ノ取下事件ノ外殆ド圓滿ニ調停成立シ夫々認可決定ヲ與ヘタリ。

(三) 結 末

調停ノ結果ハ示談成立ノタメ取下ヲ爲シタルモノニ、三件アリタルモ、其ノ他ハ大部分小作契約繼續ヲ前提トシテ將來ニ亘ル小作條件ヲ確定シ、外ニ一、二件ハ事情止ムヲ得ズ滯納小作料ヲ全免シ又

ハ作離料ヲ支給シテ小作地ヲ返還セシメタルモノモアリ。
今試ニ小作契約繼續事件ノ調停條項ヲ揭示セバ左ノ如シ。

調停條項

- 一 申立人(地主)ハ相手方(小作人)ニ對シ別紙目錄記載ノ物件ヲ從前ニ引續キ期限ヲ定メスシテ小作セシム
- 二 右小作料ハ別紙ノ通トシ相手方ハ申立人ニ對シ其ノ毎年度分ヲ翌年一月末日迄申立人宅ニ持參納入スルコト
- 三 若シ右小作料ノ現物納入ヲナスコト不能ノトキハ右納期ニ於ケル佐賀縣穀物検査所發表福岡日々新聞所掲佐賀驛渡玄粳米ノ時價ヨリ割出シタル佐賀縣四等米ノ價格ヨリ一俵ニ付検査手數料、荷積込賃其ノ他ノ諸雜費最少額二十錢ヲ減額シタル價格ニ換算シタル金錢ヲ以テ支拂フコト
- 四 正當ノ理由ナクシテ小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ申立人ヨリ即時無條件ニテ右小作地ノ引揚ヲ受クルトモ相手方ニ於テ何等異存ナキコト
- 五 申立人ニ於テ家政整理上本件土地ヲ他ニ賣却スルトキハ申立人地主ハ小作地返還ニ關シ相手方小作人ト更ニ協定ヲ爲スコト
- 六 相手方小作人ニ於テ申立人地主ノ承諾ヲ得ス勝手ニ小作地ヲ轉貸シ又ハ地目ノ變更ヲ爲スヘカラサルコト

本件土地ニ桑樹又ハマオーラン等ヲ栽植スルトキハ地主ノ許可ヲ受クルコト

五六 熊本縣上益城郡御嶽村大字入佐 (小作繼續)

爭議發生 昭和八年二月一日

調停申立 昭和八年三月七日

解 決 昭和八年三月十四日

爭議 地主 一人 小作人 一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

田 八反二畝七步

畑 一反九畝四步

原野 四畝十二步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件申立人(小作人)ハ相手方所有ニ係ル前記土地ヲ小作料一箇年玄米三斗二升入二十五俵ヲ以テ四十年來小作シ來レル處、相手方地主ガ淨瑠璃ニ凝リ昭和七年九月二十三日居村報恩寺ニ於テ廣ク縣下

及ビ福岡方面ヨリ同好者ヲ集メ其ノ大會ヲ開催シ一般ニ聴取セシメタル處、會々檀家總代ノ一人タル申立人ニハ何等ノ通報モナク、而モ彼岸ノ中日ニ寺院ヲ使用セルコトニ付、申立人ガ會場ニ於テ其ノ不都合ヲ鳴ラシタル爲遂ニ右淨瑠璃會ハ開催半ニシテ其ノ會場ヲ相手方居宅ニ移轉變更スルニ立到レル事實ニ對シ、相手方地主ハ申立人ノ所爲ヲ甚ダ不快トシ、其ノ報復手段トシテ申立人ニ小作セシメタル本件土地ヲ引揚ゲ、他ニ小作セシメンコトヲ企圖シタルニ端ヲ發シ、地主ハ内容證明郵便ヲ以テ小作地全部ノ返還ヲ要求シ、其ノ植栽ニ係ル桑樹ノ撤去ヲモ請求シ、小作人ハ小作繼續ヲ主張シテ調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

昭和八年三月十一、二日ノ兩日ニ亘リ上益城郡御嶽村役場ニ於テ調停委員會ヲ開キ、兩者ノ感情融和ニ努メタルモ著シク相反目シテ讓ラザリシモ、遂ニ左記條項ヲ以テ解決シタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方ハ申立人ニ對シ本件地所中上益城郡御嶽村大字入佐字今古間二千二百四十六番田一畝二十三步(以下省略、面積合計田三反五畝十五步原野四畝十二步、畑一反九畝四步)ニ付小作料一箇年玄米四斗八十一俵及玄米三斗二升入二俵ニテ現時(昭和八年度)ヨリ引續キ昭和十年度迄滿三箇年間小

作ヲ爲サシムルコト

- 二 前記期間經過後ハ右地所全部ニ付當事者双方協議ノ上可成相手方ハ其ノ當時ノ相當ナル小作料ヲ徵シ引續キ小作ヲ爲サシムルコト

- 三 申立人ハ前記特記以外ノ本件地所タル同郡同村大字入佐字鶴ノ藤千三百七十五番田二反五畝三步(以下省略面積一反九畝二十步)ニ付テハ本年(昭和八年度)ヨリ小作ヲ止メ之ヲ相手方ニ返還スルコト

五七 大分縣速見郡朝日村大字鶴見 (小作繼續)

爭議發生 昭和八年七月中旬

調停申立 昭和八年八月二十五日

解 決 昭和八年十一月二十日

關係人員	爭議	地主 一人	小作人 一人
調 停	調 停	地主 一人	小作人 一人
關係土地	爭議	畑 一町七畝步	溫室五棟(百二十坪)
調 停	調 停	右ニ同ジ	

(一) 爭議ノ概況

小作人ハ別紙契約書ノ如キ契約ヲ以テ（實際ノ經營者ハ小作人ノ夫某ニシテ同人ハ嘗テ某府縣ノ農事試驗場長タリシコトアリ退職後大正十二年別府溫泉栽培株式會社ノ技師トシテ招聘セラレタルモノナルガ會社ノ事業休止ト同時ニ解雇セラレ其ノ後同會社ノ設備ヲ賃借シ經營ヲ爲ス）別紙目錄（目錄省略）記載ノ物件ヲ大正十二年十月頃ヨリ賃借小作シ、主トシテ蔬菜ノ速成栽培ヲ爲シ、爾來多額ノ資本ヲ投ジ經營慘憺備サニ實驗ヲ積ミ組織ヲ整備シ殊ニ技術上ノ見地ヨリ温室二棟ヲ四棟ニ改築シ更ニ一棟ヲ増築シ、漸ク斯業ノ經營ニ自信ヲ得事業ノ前途ニ光明ヲ認メ亦世間ヨリモ漸次其ノ存在ヲ認メラレテ今日ニ及ベリ。

然ルニ地主タル會社ノ清算人タル監査役某ハ何故カ前記小作人ノ改増築ヲ施シタル温室ヲ自己ノ名義ヲ以テ保存登記ヲ爲シ且昭和八年六月本件土地ト共ニ之ヲ新地主タル相手方某ニ賣却セリ。

此ノ事實ヲ聞知シタル小作人ハ大ニ驚キ且新地主ハ本件土地ノ一部ヲ返還セシメテ自己ノ經營セル遊覽地ノ一部ニ利用セムトスルノ意圖アルヲ知リタルヲ以テ人ヲ介シ新舊地主ニ交渉ヲ爲シタリ。然ルニ新地主ハ民法ノ規定ヲ楯ニ小作人ノ利益ヲ無視シ自己ノ利益ヲ主トシタル契約ヲ締結セムコトヲ主張セリ。依テ小作人ハ兩地主ノ誠意ナキヲ憤リ縣小作官ヲ訪問シテ之ガ解決方ヲ依頼シ來タレリ。小作官ハ右事實ヲ聽取シタル後小作調停ヲ申立テ之ニ依テ解決スルヲ尤モ適當ナリト説キ小作調停ヲ申立テシメタリ。

（二）調停ノ經過

小作官ハ本件申立ノ受理通知ヲ受クルト同時ニ法外調停ヲ兼ネ現地ニ出張シテ實情ヲ調査シ、更ニ新地主ニ面接シテ今後小作人ニ對シ前地主ト同様ノ條件ヲ以テ小作セシムルコトノ至當ナルヲ勸説シタルニ、同人ハ本件土地ハ其ノ全部ガ自己ノ事業ニ必要ナラザルヲ以テ勿論小作セシムル考ナルニヨリ何時ニテモ契約締結ニ應ズルノ用意アル旨ヲ表明セリ。

亞デ裁判所ニ於テ裁判所ノ調停アリタルモ當日ハ當事者ノ主張ノ大體ヲ聽取シタルノミニテ次回ハ現場ニ於テ委員會ヲ開クコトトシテ調停ヲ閉ヂタリ。

越エテ九月ニ入り舊地主タル會社ノ清算人某ハ縣廳ニ小作官ヲ訪問シ、本件ハ可成下方ニ於テ解決スルヲ適當ト認ムルガ故ニ小作官ノ法外調停ヲ以テ斡旋セラレタキ旨ヲ希望シ且利害關係人トシテ出來得ル限り讓歩スベキ旨ヲ表明セリ。依テ九月十一日午後五時ヨリ同人宅ニ於テ新地主及小作人ノ出席ヲ求メ兩者ノ間ヲ斡旋シタルニ、利害關係人ハ小作官ノ勸説ニヨリ妥協的態度ニ出デタルヲ以テ小作人ノ讓歩ヲ促シタルニ何レ熟考ノ上確答スベキ旨ヲ申立テタルヲ以テ之ヲ諒トシ本調停ヲ閉ヂタリ。

十月十四日現地朝日村役場ニ於テ第一回調停委員會ヲ開催セリ。當日ハ午前八時ヨリ午後六時迄當

事者及利害關係人ニ付調停ニ努メタルニ、申立人ハ飽迄温室ノ所有歸屬ヲ明ニセラレタキコトヲ主張シテ譲ラズ、前法外調停ニ於ケル主張ニ反シ頗ル強硬ナル態度ヲ示シタリ。依テ委員會ハ温室ノ改増築ニ要シタル費用ニ基キ調停ヲ進ムルニアラザレバ申立人ヲ説得スルコト困難ナルヲ看取シタルヲ以テ、次回ハ之等ノ費用ヲ適當ノ者ニ鑑定セシメ且今後新地主トノ間ニ締結セラルベキ賃貸借ノ目的物ヲ明確ナラシムル爲、現場ニ付テ必要ナル措置ヲ爲シ調停ヲ進ムルコトトシ散會セリ。

其ノ後小作官ハ申立人及利害關係人ノ間ヲ斡旋スルコト兩回能ク兩者ノ接近ヲ圖リ次回ノ調停委員會ニ備ヘタリ。

第二回委員會ハ十一月十八日午前八時ヨリ朝日村役場ニ於テ開催セラレタリ。當日ハ前回ノ委員ニ更ニ一名ノ委員ヲ加ヘ先ヅ調停ニ先立チ委員會小作官ニ於テ各當事者立會ノ上現場ヲ視察シ、更ニ鑑定人ヲシテ改増築ニ要シタル費用ヲ鑑定セシメ、極力調停ニ努メタル結果左記條項ヲ以テ調停成立スルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方ハ其ノ所有ニ係ル別紙圖面表示ノ土地ノ地域ヲ申立人へ賃貸スルコト
- 一 相手方所有ノ大分縣速見郡朝日村大字鶴見九百五十番ノ三ノ土地ニ建設シアル温室中西側ノ五棟

ノ内ノ中央ヲ除ク四棟及同地番ノ土地内ニ建設セル申立人住宅ハ本件賃貸借ノ目的物件ニ包含ス

- 一 以上ノ建物以外ノ同番ノ三及同番ノ十五ニ建設セラルル温室竝ニ應接用家屋(申立人所有)ハ本件賃貸借ノ目的物件中ニ包含セス

- 一 以上ノ賃貸借ノ目的物トシテ記載シタル土地温室竝ニ住宅ヲ賃貸借ノ目的物トス
- 後記ノ温泉ハ

(イ) 現在照湯ヨリ引用セル分ヲ申立人へ使用セシムルコト

(ロ) 一晝夜ノ使用量ヲ五百石トス

但毎年六月一日ヨリ九月三十日迄ノ使用量ハ申立人ノ浴槽ニ使用スル程度ノ量ニ限り夫レ以上ハ送湯セス

(ハ) 若シ一晝夜五百石以上ヲ申立人ニ於テ要求スル時ハ其ノ増加量ヲ三百石トス此ノ増加湯ノ賃料ハ後ニ定ムベキ賃料トハ別個ニ當事者間ニ於テ協定スル事

- 一 以上ノ賃貸借ノ目的物ノ賃料竝ニ温泉ノ使用料ヲ合シテ一箇年二百圓トス
- 一 賃貸借竝ニ温泉使用ノ期間ヲ昭和八年十一月十八日ヨリ向フ五箇年トス
- 一 温泉ヲ輸送スル管及温室(賃貸借ノ目的物件ト爲レル物)ニ付大修繕ヲ必要トスル場合ハ其ノ修繕竝ニ其ノ後ノ賃料取極メノ爲此ノ部分ニ付裁判所ニ調停ヲ申出ル事

一 天災地變等ニ因リ申立人ノ收穫甚シク減シタル場合ハ前項同様賃料等ニ付裁判所へ調停ヲ申出ヅル事

一 温泉竝ニ温泉輸送ノ管ニ付テノ普通ノ破損ハ申立人ノ費用ニヨリ申立人ニ於テ修繕スル事

一 右賃料使用料タル一箇年金二百圓ノ支拂ハ毎月ニ分割シテ支拂ヒ其ノ分割ノ金額ハ毎年七月、八月ヲ各金十五圓右二箇月ヲ除ク他ノ十箇月ヲ各月金十七圓宛トシ毎月末迄ニ相手方ノ住所ニ於テ支拂フコト但昭和八年十一月十八日以降同月三十日迄ノ賃料ハ之ヲ日割計算トス

一 相手方ハ賃貸借ノ目的物件中ノ温室カ登記簿上二百二十八坪ト爲リ居レルモノヲ遲滞ナク登記面上百八坪ト爲スコト

一 申立人ハ本件賃貸借ノ目的物件ヲ他ニ轉貸セサル事

一 申立人カ先ニ定メタル方法ニヨル賃料ノ支拂ヲ一回ニテモ怠リタル時ハ直ニ本件賃貸借竝ニ温泉使用ノ契約ヲ解除セラルルモ異議ナキ事

一 相手方カ本件賃貸借ノ目的タル土地建物ノ所有權竝ニ照湯ノ鑛泉權ヲ右第六項記載ノ期間内ニ他ニ移轉スル場合ハ豫メ六箇月以前ニ申立人ニ其ノ旨ヲ通告スルコト

一 利害關係人ハ申立人ニ對シ金七百圓ヲ昭和九年六月三十日迄ニ大分縣速見郡朝日村大字鐵輪二百四十八番地ナル利害關係人宅ニ於テ支拂フ事(賃貸借契約書省略)

五八 鹿兒島縣伊佐郡菱刈村字川上 (小作繼續)

爭議發生 昭和八年 月 日

調停申立 昭和八年七月六日
昭和八年十二月二十六日

解決 昭和八年七月十三日
昭和九年五月三十一日

關係人員 地主 一人 小作人 一人
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

田 二反七畝二十五步

畑 二反三畝五步

宅地 八十三坪七合八勺

關係土地 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ元原野ナリシヲ地主竝ニ地主ノ叔父ヨリノ獎メニヨリ永久居住シ而シテ土地モ永久小作セシムル契約ノ下ニ昭和二年ニ此ノ地ニ移住シ、住家、厩舎等ヲ建設シ日夜營々トシテ開墾ニ從事シタル結果相當收穫アル田畑トナスコトヲ得テ、昭和五年度ヨリ此ノ地ノ小作料ヲ毎年玄米二石ト定メ其ノ年ノ秋ニ至リ大暴風雨ノタメ家屋倒壊シタリシモ小作料ハ完納シタリ。然ルニ小作人ハ家屋再建

築ノ爲其ノ事情ヲ具シ昭和六年度小作料ノ延納ヲ要求シ不納ノ處、昭和七年十一月ニ至リ地主ヨリ二箇年分ノ小作料ヲ至急納入スベク催促アリタルモ、未ダ収ヲ取入レタル儘ナリシヲ以テ地主ノ希望ニヨリ収二十俵ヲ昭和六、七年度ノ小作料トシテ支拂ヒタルニ、意外ニモ地主ヨリ土地返還ノ要求アリ驚キテ最初ノ契約通り永久小作繼續方歎願シタリシガ、地主ハ小作人ガ其ノ妻難産ニテ生命危カリシタメ生家ニ連レ行キ治療ノ留守中、小作人ガ失踪シタリト稱シ捜査願ヲ駐在所ニ出シ更ニ小作人ノ家屋ニ園田某ヲ居住セシメ、擊爭地モ之ニ小作セシメ農具モ亦新小作人ガ自由ニ使用シタリ。之ヲ知リタル小作人ハ大イニ憤慨シ地主ノ不當ヲ責メタルモ、地主ハ元海軍ニ服役中不具者トナリテ足腰立タズ十數年間床ニ入りタルママニテ世情ニ闇ラク、一旦言ヒ出セバ絶對ニ應ゼザルタメ小作人ヨリ小作繼續方調停申立ヲナシタリ。

(二) 調停ノ經過

受命判事ハ小作官ト共ニ地主宅ニ至リ調停ヲ開始シタル處、地主ハ判事、小作官ヲ信用セズ而モ小作人ノ御先棒ナリト言ヒ巡查ニ聞キテ見ザレバ相談スルコト出來ズトシテ家族ヲ駐在所ニ走ラセタルモ生憎不在ノ爲、判事、小作官ガ如何ニ説得シテ調停スルモ全然應ゼザルノミカ寧ろ罵倒スルタメ、之以上獎メルモ却テ面白カラズトナシ熟考ヲ促シテ次回ニ譲リタリ。其ノ後小作人ハ地主ガ判事、小作官ニ惡口スルヲ氣ノ毒ニ思ヒ又有志ヨリノ獎メモアリ、一應取下ゲ有志ノ調停ニ委ネタルモ成立

スルニ至ラザル爲、再ビ小作人ヨリ調停申立ヲナシ、開墾費、家屋竝ニ厩舎移轉料及農具ノ損害賠償トシテ金三百五十圓ノ交附方ヲ要求シタリ。

於茲今回ハ當初ヨリ委員會ニヨリテ調停スルコトトシ、小作官立會ノ上地主宅ニテ委員會ヲ開催シタル處、地主ハ依然トシテ讓歩ノ模様ナク小作人ノ建設シタル二棟ノ家ハ既ニ賣渡證ヲ入レアルニヨリ所有權ハ自己ニアルモノナレバ移轉費等思モ寄ラズ、又開墾費ニツイテハ小作人ガ勝手ニ開墾シタルモノナレバ之ノ支拂モナスコトヲ得ズ、農具等ハ保管料ノ意味ニ於テ使用シ居ルニヨリ之ガ賠償ノ如キハ絶對ニ應ゼズト主張シ、小作人ハ家ノ賣渡證ニ就テハ曾ツテ地主ニ招カレ訪問シタル處、地主ハ自分ハ不具ノ身デアリ若シオ前ガ此ノ土地ヲ去ル様ナコトアレバ自分トシテモ困ルシ其ノ足止策トシテココニ家屋ノ賣渡證ヲ入レテ置イテクレレバオ互ガ安心シテ居ラレルカラ同意シテクレトノコトニテ地主ガ第三者ニ書カシタル賣渡證ニ捺印シタルモノニシテ、此ノ間金錢ノ取引ナカリシコトハ其ノ際ノ立會者ノ悉知シ居ル次第ナリト主張シ、其ノ時ノ立會人ニ付調査シタルニ小作人ノ主張事實ナルコト判明シタルモ地主ハ自己ノ主張ヲ固執シ結局小作人ノ希望ニヨリ原野ト田畑トノ地價ヲ鑑定スルコトトナリ、第二回ノ委員會ニ於テ鑑定人ヲ定メ其ノ鑑定ノ價格ニヨリ其ノ利益金ノ分配ト家屋ノ買取方ニ付説得スル所アリシガ、前記ノ如ク頑迷ナル地主ナレバ如何ナル案ヲ以テスルモ到底成立ノ見込ナカリシモ、今一應反省スル様申聞カセ第三回ノ調停ヲ試ミタルモ結局一步モ讓歩スル所ナク、

小作人モ此ノ上ハ取下グルヨリ外ナシトシ其ノ場ニ於テ取下ヲ表明シタリ。

(三) 結

末

右ノ如キ次第ニテ判事、小作官、調停委員等モ小作調停法ニ決定權ナキヲ歎キ、小作人ハ民事訴訟法ニヨル訴訟救助ニヨツテ解決セント其ノ手續中ナリ。

人々、訴訟ニヨリ難儀ヲ蒙ル者ハ、民事訴訟法ニ依リて訴訟救助ヲ請フベシトシ、其ノ手續中ナリ。人々、訴訟ニヨリ難儀ヲ蒙ル者ハ、民事訴訟法ニ依リて訴訟救助ヲ請フベシトシ、其ノ手續中ナリ。人々、訴訟ニヨリ難儀ヲ蒙ル者ハ、民事訴訟法ニ依リて訴訟救助ヲ請フベシトシ、其ノ手續中ナリ。

第三 小作官ノ法外調停事例

一 宮城縣遠田郡籠嶽村字太田 (土地引上反對)

爭議發生 昭和八年四月二十三日

調停着手 昭和八年五月十二日

解決 昭和八年五月三十一日

關係人員 地主 三人 小作人 二十七人

關係土地 田 十一町四反歩

(一) 爭議ノ概況

登米郡吉田村地主畑岡某外三名ハ昭和八年四月二十日前記ノ土地ノ外計田七十四町歩ヲ岐阜縣美濃町梅村某ヨリ買受ケ、次デ四月二十三日ニ至リ從來ヨリノ開墾者三十六名全部ニ對シ新ニ小作契約ヲ締結シ、夫々小作地ヲ交付セントセリ。然ルニ小作地ノ交付ニ際シ豊里村赤生津佐藤某ニ對シテハ從來ノ開墾シタル土地ヲ引上ゲ、新ニ未開墾地ヲ交付セントシタル爲佐藤外十七名ノ小作人等ハ大ニ憤リ從來ノ開墾地ノ交付ヲ主張シ再三地主ニ要求セルモ應ゼザル爲、五月上旬該田地ニ對シ一齊ニ耕耘ヲ開始シ飽ク迄地主ニ對抗スルコトトセリ。茲ニ於テ五月七日吉田村元小作調停委員中野某ハ之ガ調停ニ關シ種々斡旋スル處アリ殆ンド調停成立ヲ見ントシタルモ翌八日ニ至リ遂ニ決裂シ爭議ハ更ニ惡化スルニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

五月十二日小作官ハ右ノ事實ヲ知り直ニ關係村長ニ之ガ善處方ヲ依頼スルト共ニ十七日豊里村ニ至リ地主廣岡某竝ニ調停者タル中野某ト會見シ地主ニ對シテ極力反省ヲ求ムル處アリタリ。次デ中野某ハ小作官ノ調停案ニ基キ再ビ調停ヲ試ミタルモ開墾移住民九名ハ應ゼズ、遂ニ成立スルニ至ラザリシ爲五月三十一日小作官ハ現場ニ出張シ當事者ノ出席ヲ求メテ調停セル處、次ノ調停條項ニヨリ調停成立シ圓滿解決セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 昭和七年度ニ於テ伊藤某外十七名ノ耕作シタル登米郡米山村短臺耕地整理組合地區内第九號ブロットクノ内田十一町四反歩ハ昭和八年度限り地主畑岡某(甲)ニ返還スルコト
- 但シ開墾移住者一條某ニ對シテハ右反別ノ内一町六反歩ヲ耕作セシムルコト
- 二 地主畑岡某(甲)ハ右伊藤某外十七名ニ對シテハ第五號、第十號ブロットクノ内ニ於テ第一項ト同反別ノ耕地(本年度ニ於テ開墾移住民ノ開墾シタル土地)ヲ一定ノ耕作證書ヲ取り交ハシテ耕作セシムルコト
- 但シ耕作人伊藤某ニ對シテハ右反別ノ内一町歩ハ昭和八年度ヨリ耕作セシムルコト
- 三 第一項地區内ニ於テ開墾移住者竝ニ耕作人ニ於テ耕耘シタル賃金ノ補償ニ關スル件ニ對シテハ畑岡某(乙)ニ一任スルコト

但シ耕耘賃金ハ反當七十五錢ノ割合トス

二 千葉縣印旛郡本埜村笠神 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和七年十二月七日
調停着手 昭和八年五月六日
解 決 昭和八年八月四日

關係人員	爭議	地主	五十八人	小作人	六十人
調 停	地 主	十七人	小作人	三十三人	
關係土地	爭 議	水田	五十七町七段六畝歩	畑	十九町九段八畝歩
調 停	水田	十六町三段六畝二十六歩	畑	五町九段三畝二十歩	

(一) 爭議ノ概況

本埜村小作組合ニ於テハ昭和七年十一月一日暴風雨ヲ理由ニ小作料ヲ畑七割田六割減ヲ決議シ、代表者ヲシテ地主ニ要求書ヲ提出セシメタルニ地主ニ於テハ要求過大ナリトテ之ヲ拒絶シ、十二月十五日ニ至リ畑一割田二割ノ程度ノ減免ヲ爲スベキ旨主張シ強硬ナル態度ヲ持シタルニ因リ爭議ノ發生ニ至レルガ地主岩井某、五十嵐某ハ小作人川森某ガ五割減額方ヲ要求シタルニ對シ二割迄讓歩セルモ其

レ以上ハ譲ラズ、同村々長、農會長等ガ調停ニ努メタルモ纏ラズ、遂ニ地主側ハ右小作人（水田二反三步、畑一反十七步）ニ對シ佐倉區裁判所ニ小作料請求竝ニ土地返還請求訴訟ヲ提起スルト共ニ立入禁止假處分ヲ申請シタルニヨリ同區裁判所執達吏ハ三月十三日立入禁止假處分ヲ執行セリ。地主側ノ立禁執行ニ對シ小作組合ニ於テハ全農本埜支部ト合同爭議團ヲ結成シ、三月十四日早朝ヨリ縣聯書記長笠井某、副長馬場、岩井外二十名同區ノ原堂ニ集合協議ノ結果、地主側ノ執行セル假處分決定書中目錄記載土地相違ノ爲執行セザル畑地ニ對シ同村大字中根ノ苗木商ヨリ桑苗五百本ヲ購入シテ組合員約三十名集合植付ヲ爲シタリ。

地主側ハ關東國粹會ニ依頼シ小作料ノ取立ヲ委任シタルニヨリ國粹會ハ之ガ取立ヲ開始セリ。一方全農側ハ國粹會排撃ノパンフレットヲ作成シテ區内ニ配布シ、尙國粹會ノ會議所タル朝日屋ニ印刷物ヲ投入シタル爲國粹會側激昂シ該會員二名ハ全農ノ集會所タル原堂ヲ襲撃セリ。全農側ハ之ガ報復ヲ企ツベク朝日屋前ニ集合シ折柄外出セル國粹會員某ニ棍棒ヲ以テ全治二週間ノ傷害ヲ加ヘタリ。之ヲ聞知セル國粹會側ノ者四名ハ全農ノ集會所原堂ヲ襲ヒ小作人鈴木某ニ全治五日間ノ傷害ヲ加ヘタリ。尙國粹會員數名ハ小作人馬場某外數名ノ小作料取立ヲ開始セリ。

全農側ニ於テハ曩ニ執達吏ガ關係地ヲ取違ヘ執行シタルヲ奇貨トシ全農共同耕作地ノ建札ヲセルニヨリ所轄木下署ハ全農側二十四名ヲ一齊檢舉シ公務執行妨害トシテ四月二十五日佐倉區裁判所檢事ニ一件書類ヲ送致セリ。

佐倉區裁判所ニ於テハ第一回公判ヲ五月二十五日佐野判事係リ鷺山檢事立會ノ下ニ開廷セル結果檢事ヨリ全農縣聯書記橋本某ニ對シ懲役六箇月國粹會員松崎某外二名ニ對シ懲役三箇月ノ求刑アリタリ。第二回公判ハ五月三十日開廷小作人側辯護士黒田某ノ辯論アリタル後橋本懲役六箇月（未決通算十五日）松崎某懲役三箇月（未決通算十五日）花澤某外數名ハ罰金各五十圓（暴力行爲竝ニ傷害罪）ノ判決アリタリ。

（二） 調停ノ經過

小作官ハ事態ヲ憂慮シテ解決ニ奔走五月六日特高課員二名ヲ同伴シ調停ニ入り兩當事者ノ意向ヲ聽取シタルニ地主ハ法廷和解ヲ承諾セルモ小作人側ハ全農ノ意志ニ反スルモノトシテ之ヲ肯ゼズ、結局調停ハ決裂ノ止ムナキニ至レリ。其ノ後小作官ハ特高課長ト協議調停案ヲ作成シ八月四日兩當事者ヲ縣廳ニ招致シ折衝ノ結果同日左記覺書竝ニ調停條項ニヨリ解決ヲ見ルニ至レリ。

（三） 結 末

印旛郡本埜村ニ於ケル地主岩井某外十六名對小作人篠塚某外三十二名ニ關スル小作爭議ハ今回地方小作官及特高課長ノ斡旋ニ依リ圓滿解決致シタルニ付茲ニ覺書三通ヲ作成シ當事者双方及調停者各

一通之ヲ保持スルモノトス

調停條項

一 地主ハ小作人ニ對スル裁判上ノ一切ノ請求ヲ直ニ取下クルコト

二 昭和七年ノ未納小作料ハ四割ノ割引ヲ爲シ直ニ納入スルコト

但シ事情止ムヲ得サルモノニアリテハ地主小作人協議ノ上昭和九年ヨリ三箇年賦ヲ以テ償還スルコトヲ得

三 昭和七年度小作料完納者ニ對シテハ昭和六年度以前ノ未納小作料ヲ免除スルコト

四 將來ノ小作料ハ従前ノ契約ノ儘トシ合格米ヲ以テ納入シ納期完納者ニ對シテハ一割ノ土地改良費ヲ與フルコト

五 小作料ノ納期ハ水田ニアリテハ

(イ) 早生 十一月十五日

(ロ) 中生 十一月三十日

(ハ) 晩生 十二月十五日

トシ畑ニアリテハ七月三十一日及十一月三十日ニ各半額宛ヲ支拂フコト

六 不可抗力ニ依リ小作料ノ二十割以下ノ收穫ニ過キスト認メラルルトキハ小作人ハ刈取十五日前小

作料減額ノ請求ヲ爲スコトヲ得

但シ刈取ヲ爲シタルモノハ其ノ權利ヲ失フ

七 本條項ノ適用ヲ受クル契約ノ期間ハ三箇年トシ其ノ期間經過一箇月前ニ當事者間ニ異議ナキトキハ之ヲ更新シタルモノト看做ス

八 第二項及第五項ノ納期到來後三箇月(但シ第六項ノ場合ハ協議決定又ハ裁定ノ時ヨリ起算ス)ヲ經過シ尙小作料ヲ完納セサル者ハ何等ノ通告ナクシテ土地ヲ引上ゲラルルモ異議ナキコト

九 前各項ニヨリ法定和解ヲ爲スコト

三 神奈川縣高座郡座間村座間(大谷) (小作地開墾補助金分配要求)

爭議發生 昭和八年三月二十日

調停着手 昭和八年四月十一日

解決 昭和八年四月十一日

關係人員 地主 三人 小作人 八人

關係土地 畑 七反八畝十二步

(一) 爭議ノ概況

農村不況ノ折柄關係小作人等ハ耕地ノ擴張ヲ希望セル結果前記三地主外一人ノ地主ト協議シ一町一畝十六歩ノ山林ヲ借受ケ開墾ノ上ハ永ク小作ヲ繼續シ得ベキコトトシ、小作人側ヨリ縣へ補助金交付

ノ申請ヲ爲サントセル處地主ハ該補助金ハ地主名義ヲ以テスルニ非ラザレバ受理セララルモノニアラズト稱シ、小作人ヲシテ便宜地主名義ヲ以テ右申請書ヲ提出シ置キ補助金ノ交付アリタル場合改メテ地主借地人協議ノ上分配額ヲ定ムルコトニ同意セシメタルモノナルモ其ノ後縣補助金二百四十五圓ノ交付ヲ受クルヤ内地主三人(其ノ關係土地面積七反八畝十二步)ハ申請ノ名義人タリ且土地所有者タルニ藉口シ借地人ヲシテ該補助金ノ分配ニ與ラシメズ、單ニ包金トシテ金十圓ヲ交付セントシタルニ因リ爭議ノ發生ヲ見タルモノニシテ小作人ハ地主ノ横暴ニ憤慨シ、補助金交付申請ノ名義人トシタルハ單ニ便宜上ノ事柄ニ過ギズ且當初双方ノ間ニ談合ノ次第モアルコトナルヲ以テ縣補助金ノ六割相當額ヲ借地人(開墾小作人)ニ分配スベシト要求スルト共ニ人ヲ介シテ小作官ニ調停方申出ヅルニ至レルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

昭和八年四月十一日小作官現地ニ出張シ役場吏員某ヲ調停補助者トシテ地主及借地人(開墾小作人)ト會見シタルニ地主ハ其ノ後本開墾ハ請負契約ニ變更セルモノナリト主張シ、小作人等ハ其ノ全然無根ノ事實ナルヲ主張シ極度ニ地主ニ反感ヲ表明スル等容易ニ妥協ノ運ビニ至ラザリシガ小作人側ハ將來永ク該地ノ小作ヲ希望シツツアリシ關係上後大イニ讓歩スルニ至リタルガ爲地主側モ幾分反省スル所アリ此ノ間種々斡旋盡力ノ結果同日遂ニ左ノ條件ヲ以テ圓滿解決ヲ見タリ。

(三) 結 末

調停條項

一 高座郡座間村座間字元廣野ニ於ケル今次開墾地ハ關係地主借地人間双方十分ナル諒解ノ下ニ特別ナル事情發生セサル限り關係借地人ニ繼續小作セシムルコト

二 地主ハ借地人ニ對シ開墾費トシテ一反步當リ金十圓ヲ即時交付スルノ外開墾祝儀トシテ清酒一樽

(三升)ヲ寄贈スルコト

三 開墾地小作料ハ當分ノ間一反當リ小麥一俵(正味十五貫匁入)トシ昭和八年度ヨリ實行スルコト

(四) 神奈川縣高座郡相原村小山

(小作料改定)

爭議發生 昭和八年十二月一日

調停着手 昭和八年十二月十二日

解 決 昭和八年十二月十九日

關係人員 地主 二人 小作人 五十四人

關係土地 畑 九十九町步

(一) 爭議ノ概況

右關係土地ハ同地方隨一ノ大地主某ノ所有ニ係リ現小作料ハ大正九年經濟界好況ニ乗ジ地主ヨリ五

割増額ヲ強制セラレタルモノナルヲ以テ小作人側ハ本年十一月以降寄々協議ノ結果現下ノ不況時ニ際會シ之ヲ値上以前ノ額ニ復歸スベキハ當然ナルノミナラズ元來同地主所有地小作料ハ一般小地主ノ小作料ニ比シ頗ル高率ナルヲ以テ昭和八年度小作料ハ之ヲ現小作料ノ五割減トシ昭和九年度以降ハ右大正九年値上前ノ小作料ヨリ更ニ五割ヲ減額スベシト爲シ、十二月一日代表ヲ以テ右要求ヲ地主ニ迫リタルニ地主ハ本年度小作料ハ既ニ一割二分減トシテ授受ヲ了シタルモノ少ナカラザルヲ以テ同率以上ハ之ヲ減額スルコト能ハザルモ明年度以降ノ小作料ニ付テハ近ク自發的ニ減額改定ノ見込ナルヲ以テ其ノ成案ニ俟ツベシト取合ハザル爲、小作人側ハ十二月四日地主ニ對シ右要求趣旨ヲ記載シタル陳情書ヲ送付スルト共ニ、小作人組合結成ノ準備ヲ進メ十二月八日東京府下堺村福生寺ニ於ケル武相小作人組合ノ發會式ニ參加シ、且同村小作人組合員ノ應援ヲ得大イニ氣勢ヲ昂グルニ至レリ。而テ右事態ヲ憂ヘ調停ノ勞ヲ採ラントシタル地元相原村長及組合事務所々在地タル堺村長ノ調停ヲ謝絶シ專ラ自力ヲ以テ地主ノ反省ヲ促シ有利ナル解決ニ導カント努メタリ。

(二) 調停ノ經過

十二月十二日小作官現地ニ出張シ地元村長ト共ニ折柄地主宅ニ於ケル地主小作人代表ノ會見ニ立會ヒ當事者双方ヲ説得ノ上第三者ノ居中調停ニ應ゼシムルコトトシ同月十五日地主ヲシテ小作料減額案ヲ作成セシメ、之ニ對シ同月十八日小作人代表ヲシテ小作人側意見ヲ協議セシムル所アリタルニ小

作人側ニ於テモ稍意見ノ緩和ヲ見タルヲ以テ翌十九日再ビ地主小作人代表ヲ會見セシメ斡旋ノ結果左

記調停條項ヲ以テ圓滿解決ヲ遂ゲタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

原某對武相小作人組合間ニ於ケル土地小作料ヲ昭和八年度以降土地一反歩ヲ基礎トシ左記標準ニ據リ改訂ス

- 一 相原村小山字大河原、原村、中村、久保、矢掛、大山内ニ於ケル土地ハ凡テ左記標準ニ據ル
最低小作料金ヲ年額七圓五十錢、最高十二圓ヲ限度トシ之ヲ更ニ五十錢毎ニ十等級別ニ區分シ土地ノ狀況ヲ斟酌シテ決定ス
- 二 同村清兵衛新田ニ於ケル土地ハ左記標準ニ據ル
最低小作料金ヲ年額金六圓最高七圓ヲ限度トシ之ヲ更ニ五十錢毎ニ三等級別ニ區分シ土地ノ狀況ヲ斟酌シテ決定ス
- 三 同村小山字丸山地區内ニ於ケル土地ハ左記標準ニ據ル
最低小作料金ヲ年額七圓最高九圓ヲ限度トシ之ヲ更ニ一圓毎ニ三等級別ニ區分シ土地ノ狀況ヲ斟酌シテ決定ス
- 四 小作料金ノ支拂期日ヲ左記ノ三期トシ分割納入スルコト

年度内毎年 七月限 小作料金ノ四割

同 十月限 同 三割

同 十二月限 同 三割

但シ昭和八年度ニ限り十二月末日限り小作料金ノ五割及翌年二月末日限り残額ヲ納入スルコト

五 小作料支拂ニ關シテハ小作人組合ニ於テ責任ヲ以テ納入スルコト而テ絶對ニ次年度ニ繰越ササルコト

五 新潟縣中蒲原郡小須戸町大字水田 (小作料請求並ニ小作契約締結)

爭議發生 昭和八年一月八日

調停着手 昭和八年五月一日

解決 昭和八年五月十一日

關係人員 地主 一人 小作人 二十四人

關係土地 田 六町七反九畝二十四歩

(一) 爭議ノ原因

本件土地ハ元南蒲原郡田上村大地主田卷某ノ所有ニシテ同人ト小作人トノ間ニハ昭和七年三月小作調停成立シ定免小作料ヲ定メタルモノナリ。然ルニ同年十月地主ハ本件土地ヲ小作人等ニ賣却ノ申入

ヲ爲シタル爲小作人等ハ之ガ買受方ニ付種々地主代理人田卷某ト折衝ヲ重ネ同年度小作料ヲ免除スルコト及小作人ニ於テ反當百圓ニテ買受度希望ヲ申出デ地主代理人亦之ニ付考慮ヲ約シタル爲小作人等ハ不日價格ヲ協定シタル上賣買契約成立スルモノト思惟シ且之ヲ期待セリ。

然ルニ一月地主ヨリ突如トシテ本件土地ノ全部ヲ新潟市在住吉原某ナル者ニ賣渡シタルニヨリ小作料ハ右吉原ニ支拂フベキ旨ノ通知ヲ受ケ小作人ハ地主代理人ノ背信行爲ヲ憤慨シ相謀リテ吉原ニ小作料ヲ納入セズ紛糾中吉原ハ債務辨濟ノ爲同郷ノ長沼某ニ本件土地ノ所有權ヲ移轉シタリ。

茲ニ於テ長沼某ハ關係小作人ニ對シ昭和七年小作料納入及小作水入方ニ付交渉ヲ試ミタル共小作人等ハ右小作米ノ全免及定免小作料ノ平均一割減額ヲ要求シテ止マズ遂ニ地主ヨリ小作官ニ調停ヲ依頼スルニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

五月一日小作官ハ爭議地ニ出張シ地主及小作人代表等ト會見シ、各其ノ意見ヲ徴シタルニ地主ハ昭和七年度小作米ノ半額納入及元地主ト小作人間ニ於ケル同年度小作調停ニ依ル小作條件ヲ主張セルニ對シ小作人等ハ右地主ノ請求ニ係ル昭和七年度小作料ノ全免及前定免小作料ノ一割減ヲ主張セリ。仍テ小作官ハ前記兩者ノ主張ヲ參酌シ、昭和七年度小作料ニ付テハ地主ニ、定免小作料減額ニ付テハ小作人ニ夫々考慮ヲ促シ越エテ五月十一日第二回調停ヲ試ミタル結果、地主ハ昭和七年度小作料全額ヲ

免除スルコトトシ小作人ハ定免小作料ノ一割減額要求ヲ捨テテ反當二升乃至三升ノ減額ヲ受クルコトトシテ解決シタリ。

(三) 結 末

一 地主ハ小作人ニ對シ別紙土地目録記載ノ本件土地ノ昭和八年同九年二箇年間ノ小作料ヲ定免トシテ反當額ヲ左ノ通りトシテ夫々小作セシムルコト

土地區分(土地臺帳面記載ノ等級) 反當定免小作料

二等田ヨリ六等田迄

七等田

八等田

九等田

字 中 各 地

二 前項定免小作料ハ風水害旱害病蟲害其ノ他不可抗力ニ依ル悪作ノ年次ニシテ全收量カ定免小作料額ノ二十割以下十割以上ノ場合ニ限リ定免小作料額ノ二十割ヲ標準トシ當該田地ノ全收量トノ差額ヲ査定シ其ノ七割ニ相當スル額ヲ特免スルモノトス全收量カ定免小作料ノ十割未滿ノ悪作年次ニハ

別ニ減免額ヲ協定ス

三 前項ニ依リ減免ノ取扱ヲ受ケントスル年次ニハ小作人ハ鎌入十日前迄ニ減免ヲ受ケントスル田地ノ地番反別稻種反當見込數量ヲ記載シタル書面ヲ以テ地主ニ對シ檢見ノ申出ヲ爲スコト

四 前項申出アリタルトキハ地主ハ遲滞ナク檢見ヲ行フコト

五 小作人ニ於テ第三項ニ依ル檢見ノ申出ヲ爲サスシテ稻ノ刈取ヲナシ又ハ檢見ヲ困難ナラシメタルトキハ減免ヲ受クルコトヲ得ス

地主ニ於テ小作人ヨリ右檢見ノ申出アリタルニ拘ラス檢見申出アリタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ行ハサリシトキハ小作人申出ノ反當見込收量ヲ承認シタルモノト看做ス

六 檢見土地ニ對スル收穫量査定ニ付當事者間ニ意見一致セサルトキハ公務員タル農業技術者ニ依頼シ收量ノ査定ヲ受クルコト

右査定ノ方法及結果ニ對シテハ互ニ異議ヲ述ヘサルコト

七 小作料ハ毎年十二月二十五日迄ニ並上米二重俵裝ヲ以テ地主ノ指定スル倉庫ニ運搬納入スルコト

但シ大字水田ノ生産米検査總受檢俵數ノ五割以上カ並米以下ノ品等ナル年次ニアリテハ並米ヲ以テ納入スルコトヲ得

八 前項記載ノ二重俵裝ハ其ノ年ノ十二月二十日以前ニ納入スル分ニ限り早米トシテ單俵裝トナスコトヲ得

九 第六項ニ依リ坪刈ニ依リテ收量査定ノ場合ニハ臺帳面ノ一反歩ヲ三百三十歩ト看做シ算出スルコトニ小作人ハ異議ナキコト

十 小作人ニ於テ本契約ニ違背シタルトキハ地主ハ何等ノ手續ヲ用ヒスシテ本契約ヲ解除シ直ニ土地引上ヲナスモ小作人ハ異議ヲ述ヘサルコト

十一 昭和七年度小作料ハ地主ニ於テ之ヲ請求セサルコト

十二 本契約ハ近日中ニ新潟地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲ爲シ調停調書ノ作成ヲナスコト

六 石川縣河北郡花園村大字才田 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和八年十月二十七日

調停着手 昭和八年十一月九日

解決 昭和八年十一月十日

關係人員 地主 三十六人 小作人 百人

關係土地 田 八十町歩

(一) 爭議ノ概況

昭和八年度稻作ガ數十年來曾テ見ザル海潮ノ被害ヲ受ケ收穫著シク減少シタルニ因ルモノニシテ、即チ小作人側ノ主張ハ九月初旬暴風雨ノタメ海水逆流シテ耕地ニ滯水シ、稻ノ發育及登熟ヲ害シテ慘狀ヲ呈セリ。被害地ノ大半ハ收穫皆無トナリ、其ノ他ハ殆ド半作ニ近キ状態トナレリ。仍テ收穫皆無地ニ對シテハ當然小作料ノ全免、其ノ他ノ減收地ニ對シテハ總テ五割ノ輕減ヲ要求スト云フニアリ。

之ニ對シ地主側ハ本年ノ稻作潮害ハ從前ニナク被害甚大ニシテ減收ニ因ル地主小作人ノ損害實ニ顯著ナルモノアルベク、小作料ノ減免問題ニ關シ當然爭議惹起スルモノト豫想シ、被害當時作況ヲ詳細ニ調査シ置キタリ。然レドモ被害面積ノ大ナリシト其ノ程度範圍ニ付一樣ナラザルヲ以テ小作料ノ減免率ニ就キテモ充分調査検討ヲ重ヌルニアラザレバ輕々ニ應諾シ難シトセリ。

小作人ハ要求ヲ貫徹センガタメ十月下旬集會シ、被害當時實地ニ付調査シタル材料ニ基キ研究協議ヲ遂ゲタル上小作料減免要求ノ案ヲ作り、十一月四日頃ヨリ代表委員北方某外四名ハ地主崎田某外三十五名ヲ歴訪シ苦境ヲ懇へ減額ヲ交渉シタル處、在村地主ハ緊急會議ヲ開キ對策ヲ凝議シ、收穫皆無ト見ルベキ田地ノ小作料ニ關シテハ全免ニ近キ程度ニ讓歩スベキコトノ大略ノ意見ノ一致ヲ見タルモ、之ガ箇所ノ推定ハ頗ル困難ニ屬ス。其ノ他ノ被害減收地亦被害ノ範圍及程度ヲ充分調査考慮ノ必要アルベク且他村ニ於ケル此ノ種ノ解決事例ヲ見タル上適當ニ協定スベシトナシ、此ノ旨小作人ニ回

答セリ。本係争地ノ潮害不作ニ關シ小作料輕減問題ノ争ハ未ダ團體的抗争迄ニ行カザルモ表面平穩ヲ装ヒツツ裏面互ニ連絡結束セリ。而シテ双方ニ當事者多數ナレバ其ノ間ノ事情複雑ニシテ交渉圓滿ニ進マズ。十一月十五日ハ例年小作料ノ精算期日ナレバトテ問題ノ解決ヲ希望スルモノ多ク代表委員ハ頻リニ折衝ヲ試ミツツアリシモ效ナク、却テ波紋次第ニ擴大セントセリ。

(一) 調停ノ經過

小作官ハ十一月九、十ノ兩日同地ニ至リ同村在住ノ小作調停委員小森某及同區長等ト共ニ解決策ニ付協議シ、一方地主代表三名及小作人代表五名ヲ集合セシメ問題ニ付懇談折衝ヲ爲サシメ極力調停斡旋ニ努メタル結果、本年ノ如キ不測ノ災害ニ遭ヒタルハ當事者ノ不運ナリ且非常時局ニ鑑ミ互ニ謙讓ノ美德ヲ表スハ此ノ秋ナリトノ見地ノモトニ双方ノ妥協機運著シク進ミ、其ノ間多少ノ曲折アリタルモ結局左記條項ニヨリ調停成立シ圓滿解決ヲ告ゲタリ。

(三) 結 末

解 決 條 項

- 一 潮害ノタメ七割以上收穫減ノ田地ニ對シテハ小作料ヲ全免スルコト
 - 一 同半作ノ田地ニ對シテハ小作料ヲ五割、同三割以内ノ減收地ニ對シテハ同三割ヲ減額スルコト
- 但シ右減收程度ノ推定ハ小作調停委員及區長ニ於テ公平ニ調査ノ上地主及小作人ニ通告スルコト

一 納米等級ハ從來産米検査三等合格米ノ處本年ハ四等及五等米ヲ認ムルコト

七 福井縣丹生郡天津村片山 (土地返還)

爭議發生 昭和八年一月

調停着手 昭和九年二月三日

日 解 決 昭和九年三月二十日

關係人員 地主 三人 小作人 十一人

關係土地 田 三反八畝二十步

(一) 爭議ノ概況

昭和七年度稻作ハ病蟲害ノ爲著シク不作ニ陥リシ結果、早稻ハ掬小作料ノ四割、中、晚稻ハ二割ヲ減額スル様小作人代表者ハ地主ニ要求シ、小作料ハ全額不納シ萬一要求ヲ容レラザル場合ハ農民組合支部ヲ背景トシテ結束シ、農民組合幹部指導ノ下ニ極力地主ト戰フノ意思ヲ表明シ、示威行動ニ出デシ處、地主ハ小作料ノ減額ハ幾分認ムルモ、小作人ハ絶エズ團體ヲ以テ交渉シ、思想ハ愈惡化シ部落慣行ハ漸次破壊セラルルノ實態ナルヲ以テ、或ル程度迄之ヲ懲ラスノ必要アリトシ小作料減額ノ要求ヲ拒絶シタルニ因リ紛糾スルニ至レリ。小作人ハ地主ニハ全ク小作料減額ノ意ナキモノト解シ小作料未納ノ儘耕作準備ニ取り掛リタリ。地主ハ地主ニハ全ク小作料減額ノ意ナキモノト解シ小作料未納ノ儘耕作準備ニ取り掛リタリ。

主ハ小作人ニ耕作セシムルハ不安ニ堪ヘズトシ、昭和八年一月内容證明郵便ヲ以テ小作料ノ請求ヲ爲シ其ノ後不履行ヲ條件トシテ契約解除ノ通告ヲ爲シタルモ、小作人ハ之ヲ顧ミズ放任シ置キタリ。故ニ同年三月地主ハ土地立入禁止假處分申請ト同時ニ土地返還訴訟ヲ區裁判所ニ提起シタリ。然ル處小作人ハ訴訟ヲ以テ争フヲ不利トシ、地主ノ壓制的土地返還ニ對シ俄ニ當事者双方ノ妥協ニ依リ和解スルヲ得策トシ、同年四月小作調停申立ヲ爲シタリ。

第一回調停委員會ニ於テハ當事者双方極力反對主張ヲ爲シ妥協スルニ至ラズ。第二回ニ於テハ地主ハ委員會ノ調停案ニ同意シタルモ、小作人ハ農民組合顧問辯護士浪江某ノ指揮ヲ受クル關係上期限付ノ土地明渡條項ニハ全ク同意セズ、調停ヲ其ノ儘繼續セシメ徒ラニ調停引延ノ意志顯著ナルト、小作人ノ多クハ委員會ノ提案調停條項ニ贊意アルモ幹部ニ支配サレ表面不同意ノ態度明ナリシニ依リ、調停委員會ハ四圍ノ實情ニ鑑ミ小作調停法第三十六條ヲ適用スルヲ可トシ、調停案ヲ作成シ六月二十七日當事者双方ニ調停調書ヲ送達シタリ。然ル處地主ハ同意セルモ小作人ハ法定期限内ニ異議ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ調停ノ不成立ヲ見ルニ至レリ。

茲ニ於テ地主ハ曩ニ申請セル土地立入禁止假處分ニ對シテ、保證金ヲ納付セズシテ之ガ實行ヲ拋棄シタルヲ以テ、一ニ土地返還訴訟ヲ進行セシムルコトトナリタリ。然レドモ可成和解ニ依リ解決センコトヲ希望スル傾向ニ在リタリ。

(二) 調停ノ經過

調停不成立後小作人側ハ曩ニ通告ヲ受ケタル調停案ニ同意セザリシヲ悔ムモノノ如ク、専ラ法外ノ調停ヲ望ム傾向トナリタルヲ以テ茲ニ小作官ノ調停ヲ開始スルニ至リ、數回調停ノ結果左ノ通り解決シ調停成立スルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 小作人梅田某外十名ノ現ニ賃借スル小作地田三反八畝二十步ヲ賃貸人田野某外二名ニ昭和九年三月末日限り返還スルコト
- 二 地主田野某外二名ハ土地返還ノ補償トシテ小作人梅田某外十名ニ一箇年分ノ小作料若ハ之カ換價金(昭和八年度ノ村相場ニ換算)ヲ支給スルコト
- 三 爭議ニ關スル一切ノ費用ハ各自辨ノコト
- 四 地主ハ速ニ土地返還請求訴訟ヲ取下クルコト

八 愛知縣名古屋市南區星崎町南野 (市街地小作料改定)

爭議發生 昭和八年二月五日

調停着手 昭和八年六月三十日

解 決 昭和八年七月四日

關係人員 地主 八十一人 小作人 百人

關係土地 田 二十九町三反歩 畑 十一町二反歩

(一) 爭議ノ概況

本件係争地ハ名古屋市ノ最南部ニ位シ、都市計畫地域内ニ屬スト雖、未ダ區劃整理事業ニ着手スルニ至ラザル地ナリ。

抑本件係争地ハ大正十二、三年以來毎年掬米減額問題ノ紛糾ヲ見、昭和七年度分小作料ニ就キテモ毎年ノ例ニ洩レズ小作人等ハ掬米減免ヲ要求シ、其ノ交渉難澁シ、契約額ニ近キ小作料ヲ收受セントスルニハ法律戰ヲ交フルノ覺悟ニアラザレバ其ノ見込ナキ情勢ニアリタルヲ以テ地主中ノ有力者ハ小作官ヲ訪ヒ次ノ如キ事情ヲ陳述シタリ。

例年小作料ノ減免ニ付紛糾ヲ重ネタル後、殆ド半額ニ近キ迄小作料ヲ減免シ、シカモ變質期ニ至リ漸ク受取り居タルコトハ最モ苦痛トスルトコロニシテ、尙地主中ニ硬軟兩派アルコト自體ガ、今日ノ逆境ニ至ラシメタル一因ナリ。契約額タル上田ノ一石六斗ハ高率ニシテ社會的ニモ輿論ノ味方セザル所ナレバ寧ロ之ヲ低下スルモ毎年冬期ニ於テ完全ニ收受スルヲ得策トスベク、小作料改定ト完全收受ニ對シ小作官ニシテ自發的ニ發動アラバ地主中ノ硬軟兩派モ自ラ偕和ノ機アルベ

ク先ヅ爭議氣分ノ緩和ヲ計ラレタシ。

小作官ニ於テモ小作料改定ノ要アルコトハ素ヨリ知悉スル所ナルモ、本件係争地ノ改定額ハ合理的ノ歸結ヲ見ルコト殆ド見込ナク、調停ヲ成立セシメントセバ半額ニ近キモノトセザルベカラズ。斯ノ如キ改定ハ早晚來ルベキ小作離ノ問題ニモ影響シ幾多考慮ヲ要スベキ點アルヲ以テ注意視察中、小作人ノ幹部、殊ニ多少ノ土地ヲ所有スル小作人中ニハ改定ノ好機ナルヲ力説スルモノアリタルニヨリ調停ニ着手スルコトトセリ。

(二) 調停ノ經過

昭和七年度掬米減免率ニ就キテノ兩者ノ主張ヲ見ルニ屢折衝ノ結果小作人側ノ四割八分三厘納ニ對シ地主側五割三分取ノ主張迄接近セリ。從テ尙双方ノ讓歩敢テ困難トモ考ヘラレザルニ、兩者トモ此ノ主張ヲ固持シテ讓ラズ。殊ニ該減免率ヲ以テ單ニ七年度分ノ掬米ニ止メズ小作料改定ヲモ意味スルニ至ルヤ地主中ニハ元掬額ノ保有論者ト改定論者トノ二派アリテ其ノ步調一ナラズシテ、調停ノ進行ニ困難ヲ見ルニ至リタルモ、數次ニ渉ル調停ノ結果遂ニ地主側ハ改定ニ關スル事案一切ヲ小作官ニ一任スルニ至レリ。小作人モ亦之ガ方途ヲ小作官ニ一任スベキ形勢トナリタルニ、突如小作人中ニ掬額高率ノモノハ之ヲ一律一體トナシタル後ニアラザレバ永久率ヲ定ムベカラズト稱シテ異論ヲ唱ヘ反對者ヲ生ズルニ至リタル爲一應調停繼續ヲ中止シ掬額ヲ異ニスルモノノ取扱、減額限界點、掬率等ノ一切ヲ

舉ゲテノ一任困難ナリトセバ小作人トシテノ意見ヲ提示スベシト要求シ、小作人側ノ態度ヲ靜觀セリ。

小作人各自ハ自己ノ耕作スル田地ノ掟率如何ニヨリ利己の意見百出シ結局高率掟額者ノ都合良キ案ナラバ何人モ異議ナシトテ相手方ヲ顧ミザル案ヲ以テ調停方申出デタルニ依リ小作官ハ之ヲ斥ケ再ビ靜觀ニ入レルニ、小作人等ハ小作人大會ヲ開催スルコト數回、終ニ各事項一切ヲ舉ゲテ小作官ニ一任スルノ舉ニ出デタリ。

(三) 結 末

前述ノ如キ性質ヲ有スル本件ノ調停ハ掟率ヲ半減ニ近キ迄ニ改定スル劃期的ノ事案ニシテ影響ノ及ブ所大ナルモノアルヲ以テ積極的ニ調停ヲ勸說セザルノミナラズ寧ロ受動的ノ態度ヲ持シ熟柿主義ニ依レリ。尙此ノ改定案ノ作成ニ就キテハ左ノ點ニ注意ヲ拂ヒタリ。

- 一 掟率ヲ殆ド半減スルモノナルニ依リ不作時ノ減額限界點ヲ普通ノ場合ノ如ク平年作以下ト爲サズ約二割五分ヲ引下ゲタルコト
- 一 元掟率ノ高低ニ依リ改定割合ヲ異ニスベキヤ、或ハ掟率ハ各般ノ事情織込マレタルモノナルニ依リ同一割合トスベキヤノ點ハ議論沸騰シタル點ナルニヨリ、此ノ點ハ同一割合ニ低下スル代リニ不作時ノ減額限界點ニ依リ斟酌シタルコト
- 一 即チ従前ノ小作料ニ同一率(五一・五)ヲ乗ジタル不同數ト單一數ナル九斗加算ノ方式ニ依リ掟

率異ナルモ生産者ノ純收得ニ於テハ其ノ差ヲ少ナカラシムルコトトシタルコト

- 一 元掟率ノ減額率大ナルニ依リ計算毎ニ元掟率ヲ援用シ元掟率ヲ大減シタルモノナル記憶ヲ回想セシムルコトトシタルコト

一 元掟率ヲ異ニスルモ不作時ノ取扱上應用スベキ乘率ハ之ヲ同一ノモノトシ且收穫量對小作料ノ關係ヲモ逕庭ナカラシムル爲條項一ノ如ク定メタルコト

右ノ趣旨ニ依リ改定案ヲ作りタルガ、更ニ之ニ法上ノ效力附與ノ目的ヲ以テ依法調停申立ヲ爲シ、左ノ通り調停條項ト爲セリ。

調 停 條 項

第一 申立人(地主)ハ名古屋市南區星崎町ノ内字前田、殿海道、阿原、北前、南前、新濱地内ノ小作料納入額等ノ件ニ關シ將來ノ紛議ヲ絶ツ爲契約小作料ヲ低減シ被申立人(小作者)ハ誠意ヲ以テ其ノ趣旨ヲ贊同承認シ親善關係ヲ助長スル次ノ約定ヲ爲ス

(一) 昭和八年度以降ノ田地小作料ハ従前ノ契約小作料ニ一千分ノ五百十五(基本乘率)ヲ乗シタルモノトス

但シ反當玄米收穫高カ右ノ方法ニ依リ算出シタル小作料ニ九斗ヲ加ヘタル數量(減額限界量)ニ満たサルトキノ小作料ハ收穫量カ右減額限界量ヨリ一千分ノ五十又ハ其ノ端數ヲ減スル毎ニ前記基

本乗率ヨリ一千分ノ五十宛ヲ遞次減少シタル率(遞減乗率)ヲ從前ノ契約小作料ニ乗シタルモノトス

上記ノ方法ニ依リ算出シタル各段階ノ小作料ハ別表(省略)ノ如シ

(二) 小作者ニ於テ田地一反歩ノ米收穫高カ前示ノ減額限界量ニ滿タスト思料スルトキハ遅クトモ收穫着手ノ日ヨリ七日前ニ地主ニ申立テ双方立會ノ上之カ收穫量ヲ誠實ニ協定スヘキモノトス若シ其ノ協定成ラサルトキハ遅クトモ收穫着手ノ日ヨリ五日以前ニ裁定者ヲ合意選定シ其ノ玄米收穫量ノ裁定ヲ乞フモノトス

此ノ裁定方法竝ニ結果ニ付テハ双方トモ異議ヲ唱ヘサルモノトス

右裁定者選定ノ合意成ラサルトキハ該裁定ハ小作官又ハ其ノ指定シタル者ニ於テ之ヲ行フモノトス

地主若シ前記ノ申出ニ應セサルトキハ小作者ノ申出タル收穫量ヲ應諾シタルモノト看做シ小作者若シ檢見ノ申出ヲ爲サスシテ稻刈取リ又ハ檢見ヲ妨ケ若ハ之ヲ不能ナラシメタルトキハ減額限界量以上ノ收穫アリタルモノト看做ス

(三) 畑地ノ小作料ハ星崎町中同字地内ニ於ケル本件關係地主カ小作セシメアル田地小作料ノ平均額ニ十分ノ六ヲ乘シタルモノトス但シ前田ノ内外淵地内ノ畑地ノ小作料算出ニ付テハ外淵ヲ字ト

看做シ取扱ヲ爲スモノトス

(四) 小作料ハ検査合格米ヲ以テ毎年舊十二月二十五日限り納ムルモノトス但シ災害ノ爲米穀ノ品位ヲ著シク損シタルトキハ地主小作者双方ニ於テ協定スルモノトス

第二 昭和七年度ノ田地小作料ハ地主カ檢見ノ上特別ノ減額ヲ爲スヘキモノト認メタルモノノ外契約小作料ニ十分ノ五ヲ乘シタルモノトシ畑地ノ小作料ハ昭和八年以降ニ付約定シタル右第一ノ例ニ依ルモノトス

第三 被申立人(小作者)ハ夫々申立人(地主)ニ對シ別紙目錄記載ノ小作地内田ニ對スル昭和七年度ノ小作料トシテ右第二ノ所定ノ通り同目錄記載ノ掬米ノ十分ノ五ヲ第二、第一ニ依リ定メタル別紙目錄記載ノ畑ニ對スル昭和七年度ノ小作料ト共ニ昭和八年七月十五日限り検査合格米ヲ以テ支拂フ

九 三重縣飯南郡射和村大字阿波會 (小作料一時的減額、耕作繼續)

爭議發生 昭和五年十二月一日

調停着手 昭和七年七月十六日

解 決 昭和八年三月十日

關係人員 地主 十人 小作人 八人

關係土地 田 一町八反歩

(一) 爭議ノ概況

年々小作人側一同ヨリ過大ナル捻米ノ減免要求ヲ爲スヲ理由ニ地主側ハ相謀リ昭和四年末土地會社ヲ組織シ小作人側ニ對シ土地返還ノ請求訴訟ヲ提起セリ。

右ニ對シ小作人一同ハ家計困難ニ陥ルヲ以テ絶對ニ應ジ得ズトナシ、爾來双方間ニ於テ紛議ヲ續ケ居リシガ、小作人側ハ至急本件ノ圓滿ナル解決ヲ受ケムト縣ニ陳情セリ。

(二) 調停ノ經過

本件ニ關シ之ガ解決方小作官ニ於テ努力スルコト數回、双方ノ主張鞏固ニシテ容易ニ妥協點ヲ見ルニ至ラザリシガ、三月十日同村ニ出張、和解勸說ニ極力努メタル結果遂ニ妥協ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

解決條件

一 従前ノ滯納小作料ハ昭和五年度二割五分引、六年度、七年度各三割引トシ、左記方法ニ依リ地主宅ニ持參支拂フコト

(イ) 昭和八年三月末日限り捻米ノ三割五分ニ相當スル分ヲ支拂フコト

(ロ) 殘餘ノ未納分三箇年ノ合計十八割(五分)ハ昭和八年以降昭和十六年迄九箇年間ニ毎年十二月

末日限り捻米額小作料ノ二割宛ヲ支拂フコト

二 本件土地ハ従前ノ小作料ニ依リ引續キ小作セシメ小作料ハ本件土地ヨリ收穫シタル合格米ヲ以テ別表記載ノ捻米ヲ毎年十二月末日限り小作人ヨリ地主ニ支拂フコト但シ凶作ノタメ合格米ヲ得サル場合ハ不合格米ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

三 今後凶作ノトキハ刈取一週間前地主ニ對シ檢見ノ申出ヲナシ双方及技術員立會ノ上檢見又ハ坪刈ヲナシ其ノ收穫高ヲ決定シ左記(イ)(ロ)(ハ)項ノ率ニ依リ納入スルコト

(イ) 收穫高カ捻米高ノ半額未滿ナルトキハ捻米ヲ全免ス

(ロ) 收穫高カ捻米高ノ半額以上一反ニ付四俵未滿ナルトキハ内一俵ヲ小作人ニ於テ引去リ殘額ハ

地主ト等分ス

(ハ) 收穫高カ一反ニ付四俵以上ナルトキハ凶作ト認メス

四 小作人ヨリ刈取前地主ニ對シ檢見ノ申出ヲナササルトキハ減免セス

地主檢見ノ立會ニ應セサルトキハ小作人ノ要求ヲ承認シタルモノト看做ス

五 地主ニ於テ自作、賣却等ノタメ土地ヲ必要トスル時ハ一箇年以上ノ期間ヲ定メテ小作人ニ通知シタル場合ハ直ニ明渡スコト但シ右必要ノ有無ハ双方小作調停委員及村長ノ意見ヲ以テ定ム

六 土地返還ノ場合ハ地主ハ小作人ニ對シ相當額ノ作離料ヲ支拂フコト其ノ額ニ付テハ第五項ノ査定

機關ノ査定ニ依ル若シ其ノ決定ニ對シ不服アルトキハ三重縣小作官ノ認定ニ依リ決定ス此ノ決定ニ對シテハ双方不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

七 小作人ハ地主ノ承諾ヲ得スシテ其ノ權利ヲ他ニ讓渡又ハ其レヲ轉貸シ或ハ立毛ヲ第三者ニ賣却セサルコト

八 左ノ場合ハ小作人ハ地主ニ對シ直ニ土地ノ返還ヲナスコト

(イ) 掬米ヲ納期ニ支拂ハサルトキハ地主ハ小作人ニ對シ二週間以上ノ期間ヲ定メ催告シ尙之ニ應セサルトキ

(ロ) 第六項ニ違反シタルトキ

(ハ) 掬米ノ分割辨濟ヲ二箇年以上怠リタルトキ

九 今後凶作ノタメ掬米ノ五割以上ヲ減免スル場合ハ其ノ年ノ分割辨濟ヲ翌年ニ繰下クルモノトス

一〇 前九項ニ亘ル條件ハ双方ヨリ裁判所へ合意調停ヲ申立テ調停條項ヲ作製スルコトヲ得且ハ後述ノ三重縣一志郡豐田村大字川北 (小作料改定)

爭議發生 昭和八年一月四日

調停着手 昭和八年三月十日

解決 昭和八年三月十八日

關係人員 地主 二十二二人 小作人 四十二人

關係土地 田 二十七町步 畑 三町步

(一) 爭議ノ概況

小作人側ハ本件土地ノ利用料ハ高率ナルヲ以テ隣地並ニ引下方地主ニ對シ從來懇請シ來リタルモ、地主側ハ言ヲ左右ニ託シ改訂セザリシガタメ、速ニ之ガ實現ヲ期セムトシ、代表者ヲ派シテ縣ニ出頭陳情セリ。

(二) 調停ノ經過

右ニ付小作官ハ同村ニ出張ノ上、實情調査ヲ爲スト共ニ調停ニ努メタルモ成ラザリシヲ以テ、更ニ双方ヲ縣ニ招致シ種々調停ニ努力シタル結果圓滿解決セリ。

(三) 結 末

解決條件

- 一 土地利用料ノ改訂ハ昭和八年度ヨリ之ヲナスコト
- 二 右ハ委員會ヲ組織シ同委員會ニ於テ詮議ノ上決定スルコト
- 三 萬一右委員會ニ於テ決定セサル時ハ小作官ノ立會ヲ求ムルコト

一 滋賀縣神崎郡御園村大字神田 (小作權ノ賠償並ニ永小作權ノ確認)

爭議發生 昭和七年十二月二日
 調停着手 昭和八年三月二十五日
 解決 昭和八年五月二十八日
 關係人員 地主 一人 小作人 十七人
 關係土地 田 三町四反一畝十六步

(一) 爭議ノ概況

本係争地ハ財團法人妙咫社ノ所有ニシテ現小作人ニ於テ永ク小作ヲ繼續シ來リシガ、從來屢々永小作權確認ニ關シ爭議ヲ醸セルコトアリシモ、常ニ未解決ノ儘經過セシガ、昭和七年農村匡救事業ノ爲一畝二十四步ノ潰地ヲ生ジタルヲ以テ、小作側ハ協議ノ上潰地賠償價格ノ半額ヲ地主側ニ要求セシガ、地主側ハ貸借契約ナレバトテ小作權賠償費ノ要求ヲ拒絶シ冬作損料ヲ支拂フベク回答セリ。其ノ後小作側ハ再三地主側ニ懇望セルモ之ニ應ゼズ、故ニ小作側ハ地主側ノ小作權賠償ノ拒絶ハ、永小作權ノ否認ナレバ全小作地ニ關スル重大問題ナリトテ、總代三名ヲ選任シ小作權賠償竝ニ永小作權確認ニ關シ調停方ヲ小作官ニ申出デタリ。

小作官ハ實情ヲ調査スルニ町村道改修工事ニ起因セル爭議ナレバ、村長ニ於テ解決ヲ希望セシヲ以テ、之ガ調停方ヲ村長ニ依頼セリ。

(二) 調停ノ經過

村長ハ双方總代ヲ集メ調停ニ着手セシガ、地主側ハ本小作地ハ貸借契約ナルヲ主張シ、小作側ハ慣行永小作權地ナルヲ主張シテ共ニ譲ラズ終ニ決裂セリ。故ニ二月一日小作總代ハ再ビ小作官ニ調停方ヲ懇望セリ。

小作官ハ三月二十五日村役場ニ地主總代妙咫社理事長及小作總代ヲ集メ村長ト共ニ調停ニ着手セシガ、小作側ハ左記小作證ヲ示シ慣行永小作權地タルヲ主張シ、且明治三十三年道路改修ニ際シ潰地二十三坪ノ賠償費トシテ、潰地價格ノ半額四圓二十錢七厘ノ支給ヲ受ケタル事實アリトテ小作權賠償竝ニ永小作權ノ確認ヲ主張セリ。

印紙

小作證

第三百六拾六番字川原

一田 壹反貳畝貳拾貳步

此小作米壹石壹斗壹升貳合

右田地本年ヨリ昭和拾參年迄拾ヶ年間小作爲致被下候處實正也然ル上小作米ノ儀年々拾貳月壹日限り無遲滞相納可申候自然不納仕候ハ右田地御引揚被下候共一言ノ仔細申問敷候爲後日小作證券依而如件

昭和四年一月二十二日

御園村 神田

小作人

山

本

某

保證人 部 戸 某 印

御園村妙法寺

妙 咫 社 御 中

印 紙

約 定 證

第三百六拾六番字川原

一田 壹反貳畝貳拾貳步

此小作米臺石壹斗壹升貳合

右田地本年ヨリ昭和拾參年迄拾ヶ年間小作為致候處確實也小作米ノ儀ハ年々拾貳月壹日限り相納被下可候契約也尤モ該田地ノ儀ハ從前ヨリ永小作之處御規則モ有之儀ニ付拾ヶ年毎ニ必ス相改メ可申候其節小作米約定ノ通り聊方苦情申間敷候爲後日約定證依而如件

昭和四年一月二十二日

御園村大字妙法寺

財團法人妙咫社御

理 事 長

山 田 某 印

御園村神田

山 本 某 殿

地主側ハ賃貸借地ナルニ小作側ニ於テ飽迄自説ヲ固持スルトキハ耕地返還請求スルノ外ナシト主張シ、双方共ニ讓ラザリシガ、永小作權確認ニ關シテハ地主側ノ態度ハ從來ノ慣例ニ依リ小作ノ繼續ヲ希望セルヲ以テ小作側ニ昭和十三年小作契約更新期迄ニ解決スベク要求ヲ撤回セシメ、潰地ノ小作權

賠償ニ關シテハ、特ニ村公益事業ニ基ク潰地ナレバ今回ノ解決ハ今後ノ事例タラザルコトヲ條件トシテ、次ノ調停條項ニ依リ解決スベク當事者ニ懇懇シ漸ク内諾セシメタルヲ以テ、更ニ地主側ハ理事長ヨリ役員會ニ諮リ、村長ハ大字區長ニ懇懇シテ調停條項ノ承認ヲ求ムルコトトシテ散會セリ。其ノ後地主側ハ役員會ヲ開催シ、村長ハ大字區長ヲ招致シテ何レモ調停條項ノ承認ヲ得タルヲ以テ、五月二十八日村長ハ改メテ双方總代ヲ集メ調停條項ヲ公表シ潰地代金及村交付金ヲ交付シテ解決セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 今回ノ問題ハ町村道改修工事ニ歸因セルモノナレハ從來ノ小作權問題ニ關係セス本調停條項ハ單ニ今回限リトシ今後ノ事例トセサルコトヲ双方承認スルコト
- 一 地主妙咫社ハ關係小作人五名ニ對シ其ノ潰地ノ賃貸價格ノ二倍半(村役場ヨリ支給スヘキ耕地購入費)ヲ小作權賠償費トシテ支給スルコト
- 一 村長ハ特種小作地ト認メ小作權賠償費金十圓ヲ關係小作人ニ支給スルコト
- 一 大字區長ハ特殊小作地ト認メ大字協議費ヲ以テ小作權賠償費二十五圓ヲ關係小作人ニ支給スルコト

一 二 京都府相樂郡相樂村字相樂 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和八年一月十五日

調停着手 昭和八年七月三日

解決 昭和八年八月四日

關係人員 地主 二十六人 小作人 百五人

關係土地 田 六十町步

宅 畑

(一) 爭議ノ概況

昭和七年六月頃小作人ハ、字相樂ハ他町村ニ比シ小作料高率ナルヲ以テ、小作料永久地價百圓ニ付二石五升ニ改訂方ヲ區長ニ依頼セルモ、區長ハ之ヲ拒絶セル爲小作人ハ直接地主ニ右要求ヲナセルモ地主側亦之ヲ拒絶セルヲ以テ、小作側ハ小作人ノ結束ヲ固ムル爲二月一日玄米百十六俵(一戸當一俵)ヲ共同保管シ、二月七日之ヲ賣却シ爭議費用トスルト共ニ、相樂興農協會ヲ組織シ日本農民組合ニ加入スル等挑戰的態度ニ出ダタルヲ以テ、地主側モ二月二十七日内容證明郵便ヲ以テ小作料納入催告狀ヲ發シタルモ小作側ハ納米ナザリシ爲、地主側ハ四月十二日小作人所有玄米ノ假差押ヲ執行シタルヲ以テ、小作側ハ小作調停ノ申立ヲナスニ至レリ。

然レドモ當事者双方ノ主張強固ニシテ多大ノ懸隔アリ、調停委員會ニ於テモ解決ノ曙光ヲモ見出シ得ザリシトコロ、地主側ニ於テ昭和七年度ノ小作料ニ付テハ永久減額ト切離シテ解決シタキ意嚮アリ、同村長ハ小作官ニ調停方ヲ申出ヅルニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

小作官ハ七月三日同村役場ニ出張、地主小作側委員ヲ招致シ小作側ノ要求タル昭和七年度以降ノ小作料永久減額ニ付、小作官ハ昭和七年度ハ一時的減額ニ依リ解決シ八年度以降ノ小作料減額ハ目下繼續中ノ調停法ニ依ル調停ニテ解決スベク双方ニ説示シタル處、双方共異議ナク之ヲ承諾シタルヲ以テ數回ニ亘リ折衝ノ結果左記調停條項ヲ以テ圓滿解決セリ。

(三) 結

末

調停條項

- 一 關係各地主ハ昭和七年度田小作料ニ限り契約小作料ノ二割五分ヲ減額スルモノトス
- 二 關係各小作人ハ右小作料ヲ昭和八年八月八日限り地主宅ニ持參支拂フモノトス
但シ小作米ノ假差押ヲ受ケタル各小作人ハ假差押解除ノ日ヨリ四日間以内ニ納米スルコトヲ得
- 三 地主ハ速カニ昭和八年四月十二日執行シタル假差押ノ解除手續ヲナスコト之カ爲小作人ノ同意ヲ要スル場合ニハ小作人ハ直ニ同意スルコト
- 四 昭和七年度小作料米ハ從來ノ慣習ニ依リ京都府生産検査等級三等米以上ノ玄米ヲ以テ納入スルコト

但シ三等米以上ノ玄米不足ノ場合ハ四等米ヲ以テ納入スルコトヲ得

尚納米期日遅レタル爲虫害ヲ受ケタル玄米又ハ變質米等ヲ生シタルトキト雖小作人誠意ヲ以テ嚴選
ノ上成ル可ク良質ノ玄米ヲ納入スルコトニ努力スルコト

亦鼠害ヲ受ケタル俵米ハ生産検査皆掛重量迄補充スルコト

五 小作人側ヨリ申立タル京都地方裁判所昭和八年小調第十一號調停申立書ノ不備ノ點ニ付テハ地主
側ニ於テモ協力シテ之カ訂正ヲナスコト

右調停條項各項ヲ承諾シタル證據トシテ當事者各總代ハ自署シ本村々長ニ於テ之ヲ保管ス

一三 大阪府中河内郡長吉村大字長原 (耕作繼續)

爭議發生 昭和六年十月

調停着手 昭和八年二月十三日

解決 昭和八年二月十三日

關係人員 地主 一人 小作人 二人

關係土地 田 七畝二十步

(一) 爭議ノ概況

小作人等ハ從來辰己某外一名ヲ名義人トシテ、他ノ小作人等數名ト共ニ本件土地ヲ賃借シ共同苗代
場トシテ利用シ來リ居レル處、昭和六年十月新ニ本件土地ヲ購入セル地主ハ賃貸借契約證ヲ差入ルベ
キ事ヲ要求シ、且其ノ内容ハ土地ガ村小學校ノ附近ニアル關係上住宅敷地タルニ適スルタメ返還ヲ容
易ナラシムル様記サレアルヲ以テ、小作人等ハ該證書差入ヲ拒絕シ只管「一生作ラセテ吳レ」ト要求セ
リ。地主ハ此ノ小作人ノ態度ヲ憤リ大阪區裁判所ニ土地返還請求訴訟ヲ提起シ、八年一月三十一日「土
地ヲ明渡スベシ、昭和六年十月七日ヨリ明渡濟ニ至ル迄一ケ年中等玄米五斗ノ割合ニ依ル玄米ヲ支拂
フベシ、然ラザレバ一ケ年金十一圓ノ割合ニヨリ金員ヲ支拂フベシ、訴訟費用ハ被告ノ負擔タルコト、
原告ハ被告等ニ對シ各金百五十圓ノ擔保ヲ供スルトキハ假リニ執行スルコトヲ得」ノ要旨ノ判決アリ
タリ。

(二) 調停ノ經過

二月七日小作人等ハ小作官ニ陳情シ、代替地ナキ共同苗代地ナルヲ以テ耕作繼續ヲ爲シ得ル様調停
方ヲ求ムルコト切ナルモノアルヲ以テ、地主ノ出頭ヲ求メ豫備交渉ヲ爲シ、更ニ同月十三日双方ヲ府
廳ニ召喚シ昭和六年度七年度ノ小作料ニ該當スル金額二十二圓ヲ支拂ハシメ、左記覺書通り調停成立
セリ。

(三) 結 末

大阪府中河内郡長吉村大字長原字北口第九百番地田七畝二十歩ノ土地ニ關シ地主某及小作人甲某、乙某間ニ於テ左記ノ事項ヲ確約ス

記

- 一 小作人等ハ連帶ヲ以テ昭和十年十二月三十日迄三ケ年間賃借小作スルモノトス
 - 二 右契約期間中ニ於ケル一箇年小作料ハ大阪府生産検査合格米五斗トシ毎年十二月二十五日限り長吉村ニ於ケル地主指定ノ場所ニ持參支拂フモノトス
 - 三 小作料ハ土地ヲ主トシテ苗代用地ニ供スルモノナルヲ以テ稻作ノ豊凶及村内他ノ土地ノ小作料ノ減額等ニ關係ナク絶對ニ減免セサルモノトス
 - 四 地主ノ承諾ナク土地ノ原狀變更、耕作者ノ名義變更及轉貸等ヲ爲ササルモノトス
- 一四 兵庫縣加古郡高砂町 (土地返還)
- 爭議發生 昭和八年二月二十二日
- 調停着手 昭和八年四月十七日
- 解決 昭和八年六月二日
- 關係人員 地主 一人 小作人 六十四人

關係土地 三十一町九反六畝八歩

(一) 爭議ノ概況

明治三十九年鐘淵紡績株式會社ハ工場敷地トシテ、播州高砂町西南部及同町ト海岸トノ間ノ土地一帯約百町歩ヲ購入シタリ。此ノ際鐘紡ハ右土地ノ關係小作人全部ニ對シ、金一萬圓ノ作離料ヲ支給シ、一時ニ全土地ノ返還ヲ受ケタルモ、差シ當リ工場敷地ニ使用セザル土地(即チ本件關係土地ニシテ主トシテ高砂町ト海岸トノ間一帯ニ存在ス)ニ對シテハ「會社ノ要求アレバ何時ニテモ返還ス」等ノ契約ノ下ニ契約書ヲ作成シ、且三年間毎ニ右契約書ヲ差シ入レシメテ小作セシメ來レリ。然ルニ鐘紡ニ於テハ今回右土地ニ漂泊捺染工場ヲ建設スルコトナリ該土地ノ明渡ヲ要求シタリ。關係小作人六十四名ハ死活問題ナリトシテ昭和八年二月二十二日代表者六名ヲ以テ會社ニ對シ、附近ノ事例ニ據ルト稱シ反當八十四圓(坪當リ六十三錢)ノ作離料ヲ請求セシガ、會社ハ斯ノ如キ金錢ハ支出スベキ筋合ノモノニ非ズトシテ拒絶シタリ。即チ今双方ノ主張ヲ究明センニ

地主ノ主張

既ニ明治三十九年購入當時金一萬圓ノ補償金ヲ支出シ何時ニテモ返還セシムル契約トセリ、故ニ小作側ニ於テモ永久ニ耕作シ得ザルハ既ニ熟知セル筈ナリ、小作側ノ主張スル隣村荒井村ニ於ケル野田醬油ノ工場敷地ニ對スル作離料反當百五十圓、又町ヨリ道路敷地トシテ支出セシ作離料坪當リ六

十三錢等ノ事例トハ其ノ實情ニ於テ大ニ異ナル所アリ。
小作人ノ主張

工場増設セラルルコトハ町ノ發展上慶賀スベキコトナレドモ、現在町耕地面積ノ約半（而モ全部小作地）ヲ潰地トシテ返還スルコトハ、小作人トシテハ其ノ蒙ル所ノ打撃甚大ナリ。町ノ發展ノ爲トハ謂ヘ小作人ノミ犠牲トナルノ理由ナシ、曩ニ海水浴場ニ通ズル道路敷地ノ爲、町ヨリ支出セシ作離料坪六十三錢ノ事例ニ據リ、此ノ割合ヲ以テ作離料ヲ支給セラレムコトヲ要求ス。

十四 調停ノ經過 (二)

本件關係土地ニ工場増設ノ計劃アルヲ聞知シタル高砂町當局ハ町會ノ決議ヲ以テ議員中ヨリ七名ノ誘致委員ヲ選出シ、鐘紡本社ヲ訪問シ再三運動ヲ試ミタル結果、會社側ニ於テモ漸ク決定スル所アリ必要ナル調査ヲナスト共ニ埋立、工場用水、小作返還等ノ問題ニ付キ町ノ援助ヲ求め來タレリ。然ルニ地主小作双方ノ主張前述ノ通りニシテ、町ニ於テモ本問題ニ關シ折衝ヲ試ムル計畫アリシガ時恰モ町會議員ノ改選ノ時期ナリシカバ、四月一日新議員ヨリ新誘致委員決定ノ上速カニ交渉ヲ試ムル方針ノ下ニ當事者双方相對峙ノ儘又町當局ニ於テモ靜觀ヲ續ケツツアリタリ。

(一) 第一回調停

四月十七日小作官ハ高砂町役場ニ出張、小作人代表五名ヲ招致シ、同時ニ町會議員ノ一部ヨリナル

誘致委員七名ニ集會ヲ求メ各々其ノ主張ヲ聽取ス。

小作側ノ主張左ノ如シ

關係土地ハ高砂町全耕地面積ノ約六割ニシテ且全部小作地ナレバ小作人ノ受クル脅威ハ多大ナリ、隣村荒井村ニ於テハ野田醬油ノ工場敷地買收ノ際一ケ年分ノ小作料棒引キノ上反當百五十圓ノ作離料ヲ支拂ヒシ例アリ、又當時町ハ海水浴場ニ通ズル道路敷地買收ニ際シ坪當リ六十三錢ヲ支給シタリ。之等ノ實例ニ徴シ少クトモ反當百五十圓程度及一ケ年分ノ小作料ヲ棒引キトスル程度ノ作離料ヲ支拂ハレ度シ。

而テ小作官ハ町助役ト共ニ鐘紡高砂工場ニ至リ工場長ト會見ス、地主側トシテノ主張スル所左ノ如シ

明治三十九年本件土地ヲ購入シタルトキ一旦之ヲ引上ゲタル形式トシ既ニ作離料一萬圓ヲ交付シタリ、而テ其ノ後必要アラバ該土地ヲ何時ニテモ返還セシムトノ契約ノ下ニ耕作セシメシモノニシテ決シテ突然ノ要求ニハ非ザルナリ。之等ノ點ニ於テ小作側ノ主張スル野田醬油其ノ他ノ事例トハ其ノ性質ヲ異ニス、地主側トシテハ作離料支出ノ必要ナシト考フレドモ各方面ニ亘リ考慮ヲ繞ラシタル結果、今回改メテ反當五十圓ノ作離料ヲ支給スベシ。
次ニ誘致委員ノ意嚮ヲ訊シタルニ左ノ如シ

目下ノ所作離料額ノ基準トスベキモノ無キヲ以テ小作官ヨリ其ノ標準ヲ提示セラレ度シ。

地主、小作、誘致委員間ノ意嚮主張等右ノ如クニシテ右三者ニ就キ調停ヲ進メシモ何等進捗ヲ見ズ。

(二) 第二回調停

四月十八日小作官ハ高砂町役場ニ出張シ、前日ノ誘致委員ノ意嚮ニ依リ小作官トシテ左ノ提案ヲナス。

案

一 作離料額ハ反當八十圓トス

但シ之ハ大體ノ標準ヲ示シタルモノニシテ多少ノ斟酌ハ之ヲ認ムルコト(小作官トシテ反當八十圓乃至百圓程度ニテ作離料ヲ決定セムトセシナリ)

然ルニ小作代表ハ之ヲ承認セズ、小作官ハ誘致委員ニ對シ本案ヲ以テ努力セラレムコトヲ求ム、然ルニ小作側ノ主張強硬ニシテ絶對ニ承認セザルノ傾向ナリシカバ改メテ四月二十一日調停ヲ續行スルコトトス

(三) 第三回調停

四月二十一日午前十時ヨリ高砂町役場ニ於テ第三回法外調停會ヲ開キ小作官同官補各一名出席ス、小作側五十五名、誘致委員七名、地主側工場長及係員一名計二名出席ス。

小作側ノ主張

本來ノ希望ハ引續キ耕作スルコトニ在ルモ、町ノ發展ノ爲ナレバ返還ニ應ズル次第ニシテ、之ニ對スル補償モ當町ニ在リシ例ニ倣ヒ要求セルヲ以テ、我等ノ主張ニハ些少ノ批難ヲ受クベキ點ナキモト認ム故ニ從來ノ主張ヲ飽ク迄貫徹セムトス。

地主ノ主張

關係土地購入當時既ニ全部ノ土地ニ付金一萬圓ヲ交付セリ。其ノ後工場未建設地ニ對シテハ三ヶ年ヲ期間トセル賃貸借契約ニテ最近迄更新耕作セシメ居レリ、小作人等ハ早晚引キ上ゲラルル運命ノ土地ナルコトヲ承知ノ上耕作セルモノト思惟セラルニ付、契約證書通り無條件ニテ返還ヲ受ク可キ筋合ナルモ、圓滿協調ヲ望ム爲特ニ反當五十圓ヲ支給セムトスル次第ナリ、尙小作人等ガ互讓ノ態度ニ出ヅルナラバ兎モ角當初ノ主張ヲ固持スル以上讓歩ノ餘地無シ。以上ノ如キ双方ノ主張ニ對シ小作官及誘致委員ハ協議ノ結果具體案ヲ決定スル必要アリト認メ、左ノ案ヲ作成シ之ヲ即時双方ニ内示シ考慮ヲ求メ置キタリ。

尙本案ハ翌四月二十二日町會議員協議會ヲ開キテ之ヲ提示シ其ノ諒解ヲ求ムルコトトセリ。

案

地主ノ主張ハ反當五十圓ヲ支給シ小作人ノ主張ハ反當百五十圓ト一ヶ年分ノ小作料トヲ要求スト

謂フニ在リ。

故ニ地主ハ當然反當五十圓支出スルモノトシ、而テ双方主張ノ差額百圓ヲ三分シ地主三十四圓、小作人三十三圓、町三十三圓ヲ夫々負擔シ、外ニ地主ハ昭和七年小作料(平均反當約八斗換算金額約十八圓)ヲ免除スルコト。

其ノ結果

一 地主ハ反當金八十四圓ト一ヶ年分ノ小作料トノ合計約百圓ヲ支出スルコト(但シ小作料ハ棒引ハ八十四圓トナル)

二 高砂町ハ反當三十三圓ヲ支出スルコト

三 故ニ小作人ノ取得高ハ約百三十三圓トナル

四 尙町當局ハ右案ニ依ル町ノ負擔金約一萬圓餘ノ支出財源涸渴ノ爲、鐘紡ニ對シテ新設サルベキ工場ノ不動産取得附加税ヲ先拂ノ意味ヲ以テ一時立替セラレムコトヲ要求スルコト

右ニ對シ四月二十二日町會議員協議會開催セラレ、右案ニ依ル町負擔ノ件ニ關シ協議ヲ進メタルガ、反當三十三圓合計一萬餘圓ノ作離料ヲ町ニ於テ負擔シ鐘紡ニ立替ヲ求ムルノ件承認セラレタリ。而テ前記調停案ニ對スル其ノ後ノ双方ノ意嚮ヲ調査スルニ、小作側ニ在リテハ反當三十三圓ノ負擔ニハ應ズル能ハズトテ、其ノ三分ノ一即チ反當十一圓ノ負擔ニ應ゼムトスルモノノ如ク(即チ反當百三十九

圓ト一ヶ年分ノ小作料棒引キヲ主張セムトスルモノノ如ク)、又此ノ情勢ヲ聞知シタル地主ハ前記調停案ヲ承認セズシテ、反當八十圓ノ作離料ハ之ヲ支出スルモ夫レ以上ハ讓步セズ且町ニ對スル一萬圓ノ立替金モ承諾セザル形勢ナリシナリ。

其ノ後地主小作双方共原案ニ對シ不承諾ナル旨小作官及誘致委員ニ對シ通知シ來リシヲ以テ、小作官及誘致委員ハ合議ノ上更ニ原案ヲ修正シ、地主ニ對シテハ反當八十圓支出ノ外ニ一ヶ年分ノ小作料ヲ免除トスルコトノ承認ヲ求ムルコトトシ、其ノ差額四圓ハ町負擔トシ、尙小作人等ニ金一封(三千圓)及外ニ酒肴料二百圓ヲ町ヨリ支給スルノ案ヲ樹テ双方ニ通知スル所アリタリ。

右修正案ニ對シ双方ノ情勢ヲ内偵シタルニ、双方承諾ノ模様見エタルヲ以テ五月二十一日再ビ町會議員協議會ヲ開催シ

一 反當三十七圓ノ作離料合計金一萬一千八百二十五圓八十六錢ヲ町ヨリ支出スルノ件(曩ニ町ハ反當三十三圓負擔シ管ナリシナ鐘紡ガ八十四圓ノ原案ナ八十圓トシ承認シタルヲ以テ町負擔ハ三十七圓トナレリ)

二 右ノ外金一封(三千圓)及酒肴料(二百圓)ヲ町ヨリ支出ノ件

三 町ヨリハ鐘紡ニ對シ支出金額ノ一時立替ハ之ヲ要求セズ町ノ學校建築積立金ヨリ經費ヲ支出スルノ件

ヲ可決シタリ。